

講義要綱

2020 年度

経営学部

経営学科 - 1

東京富士大学



SYLLABUS 2020

講 義 要 綱

SYLLABUS

2020年度

経営学部

経営学科

東京富士大学

ー シラバスの利用について ー

このシラバスは、2020年度の春学期・秋学期に経営学部経営学科で開講する全授業についてその概要を示してあります。学生の皆さんが1年間の学修計画を立てるための手助けとなるはずです。

シラバスには、授業内容とその達成目標、授業で使用するテキストや参考書、さらに成績評価法、履修条件、授業計画などを記してあります。

履修の際には必ず、「学生要覧」と「授業時間割表」とあわせて参照するようにしてください。また、授業期間中は、「授業計画」のどの部分を学習しているのかを常に確認して、復習および予習の参考にしてください。

※シラバス (syllabus) は、ギリシャ語の *sittuba* すなわち「羊皮紙製の書籍のラベル」または「標題紙」という意味の言葉が語源です。

目 次

履修対象：経営学部経営学科

《総合教育科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
基礎演習Ⅰ	1	2	半期		1
基礎演習Ⅰ（再履修）	2～4	2	半期		3
基礎演習Ⅱ	1	2	半期		5
基礎演習Ⅱ（再履修）	2～4	2	半期		7
社会学	1～4	2	半期	宋 愛	9～12
法学Ⅰ（憲法含む）	1～4	2	半期	坂入 遼 長岐 郁也	13 15
法学Ⅱ	1～4	2	半期	坂入 遼 長岐 郁也	17 19
心理学Ⅰ	1～4	2	半期	伊波 和恵 浮谷 秀一 松田美登子	21 23 25
心理学Ⅱ	1～4	2	半期	伊波 和恵 浮谷 秀一 松田美登子	27 29 31
哲学	1～4	2	半期	弓削 隆一	33
文学	1～4	2	半期	網本 尚子	35～44
文章表現法	1～4	2	半期	網本 尚子	45～52
生命科学	1～4	2	半期	古田 玲子	53～56
国際関係論	1～4	2	半期	黒澤 愛美	57～60
統計学	1～4	2	半期	松本 勇樹	61～64
就職特講	3～4	2	半期	野沢 牧子 宮地 由夏	65 67
就職特講（留学生対象）	3～4			糸川 優 小林 寛典	69 71
コンピュータ・サイエンス	1～4	2	半期	江崎 和夫 黒木 弘司	73 75
コンピュータ概論	1～4	2	半期	休講	—
情報学	2～4	2	半期	鬼木 一直	77～80
情報処理Ⅰ	2～4	2	半期	江崎 和夫	81
情報処理Ⅱ	2～4	2	半期	江崎 和夫	83
多文化理解Ⅰ（留学生対象：指定）	1～4	2	半期	休講	—
多文化理解Ⅱ（留学生対象：指定）	1～4	2	半期	休講	—
多文化理解Ⅲ	1～4	2	半期	清水 俊樹 池田 盛也	85

履修対象：経営学部経営学科

《総合教育科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
多文化理解Ⅳ（留学生対象：指定）	1～4	2	半期	休講	—
多文化理解Ⅴ（留学生対象：指定）	1～4	2	半期	休講	—
多文化理解Ⅵ	1～4	2	半期	休講	—
健康と運動Ⅰ	1～4	1	半期	井上 航人 田島外志美	87 89
健康と運動Ⅱ	1～4	1	半期	井上 航人 田島外志美	91 93
健康と運動Ⅲ	2～4	1	半期	井上 航人 田島外志美	95 97
健康と運動Ⅳ	2～4	1	半期	井上 航人 田島外志美	99 101
日本語Ⅲ（留学生科目）	2～4	2	半期	糸川 優 小林 寛典 塩谷由美子	103 105 107
日本語Ⅳ（留学生科目）	2～4	2	半期	糸川 優 小林 寛典 塩谷由美子	109 111 113
日本の社会としくみ（留学生科目）	1～4	2	半期	小林 寛典	115
インターンシップⅠ	1～4	1	認定	認定	117
インターンシップⅡ	1～4	1	認定	認定	119
インターンシップⅢ	2～4	1	認定	認定	121
インターンシップⅣ	2～4	1	認定	認定	123
自己開発Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	1～4	各1	認定	認定	125

履修対象：経営学部経営学科

《外国語科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
英会話Ⅰ	1	1	半期	勝田 薫 木村 直樹 Janet Johnson Brent Fialka 渡邊きみ代	127 129 131 133 135
英会話Ⅰ（留学生対象）	2～4	1	半期	木村 直樹	137
英会話Ⅰ（再履修）	2～4	1	半期	木村 直樹	139
英会話Ⅱ	1	1	半期	勝田 薫 木村 直樹 Janet Johnson Brent Fialka 渡邊きみ代	141 143 145 147 149
英会話Ⅱ（留学生対象）	2～4	1	半期	木村 直樹	151
英会話Ⅱ（再履修）	2～4	1	半期	木村 直樹	153
基礎英語Ⅰ	2～4	2	半期	阿部 牧子 北田 敬子 木村 直樹 宍戸カール 高畑 一路 長原 和子 渡邊きみ代	155 157 159～162 163 165 167 169
基礎英語Ⅰ（再履修）	3～4	2	半期	阿部 牧子	171
基礎英語Ⅱ	2～4	2	半期	阿部 牧子 北田 敬子 木村 直樹 宍戸カール 高畑 一路 長原 和子 渡邊きみ代	173 175 177～180 181 183 185 187
基礎英語Ⅱ（再履修）	3～4	2	半期	阿部 牧子	189
日本語Ⅰ（留学生科目）	1～4	2	半期	塩谷由美子	191
英語Ⅰ（初級読解／作文①）	1～4	1	半期	阿部 牧子	193
英語Ⅱ（初級読解／作文②）	1～4	1	半期	阿部 牧子	195
英語Ⅲ（中級読解／作文①）	2～4	1	半期	阿部 牧子	197
英語Ⅳ（中級読解／作文②）	2～4	1	半期	阿部 牧子	199
TOEICⅠ	1～4	2	半期	宍戸カール 長原 和子	201 203

《外国語科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
TOEIC II	1 ～ 4	2	半期	宍戸カール 長原 和子	205 207
フランス語 I	1 ～ 4	1	半期	野口 恵子 三富 祐子	209 211
フランス語 II	1 ～ 4	1	半期	野口 恵子 三富 祐子	213 215
中国語 I	1 ～ 4	1	半期	井上 良雄	217
中国語 II	1 ～ 4	1	半期	井上 良雄	219
ビジネス英語 I	2 ～ 4	2	半期	北田 敬子 宍戸カール	221 223
ビジネス英語 II	2 ～ 4	2	半期	北田 敬子 宍戸カール	225 227
日本語 II（留学生科目）	1 ～ 4	2	半期	塩谷由美子	229

履修対象：経営学部経営学科

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
経営学	1～4	4	通年	石川 勝 円城寺敬浩 藤森 大祐 山口 善昭	233 235 237 239
経営学（留学生_再履修対象）	1～4	4	通年	小川 達也	241
経済学Ⅰ	1～4	2	半期	清水 良樹 松田 岳	243 245
経済学Ⅱ	1～4	2	半期	清水 良樹 松田 岳	247 249
マーケティングⅠ	1～4	2	半期	花尾由香里 日野 隆生 広瀬 盛一 山川 悟	251 253 255 257
マーケティングⅡ	1～4	2	半期	花尾由香里 日野 隆生 広瀬 盛一 山川 悟	259 261 263 265
経営心理学Ⅰ	1～4	2	半期	佐藤 恵美 林 治子	267 269
経営心理学Ⅱ	1～4	2	半期	佐藤 恵美 林 治子	271 273
会計学Ⅰ	1～4	2	半期	石塚 一彌 土井 充 福山 倫基 光澤 美芽	275 277 279 281
会計学Ⅱ	1～4	2	半期	石塚 一彌 土井 充 福山 倫基 光澤 美芽	283 285 287 289
入門簿記Ⅰ	1～4	2	半期	北井不二男 土井 充 福山 倫基 光澤 美芽 村上 翔一	291 293 295 297 299
入門簿記Ⅱ	1～4	2	半期	北井不二男 土井 充 福山 倫基	301 303 305

総 合 教 育 科 目

2020年度

経営学部経営学科

東京富士大学

基礎演習 I	
Foundational Seminar I	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業は、高校とは異なる大学での学び方、たとえば、授業の受け方や、授業の内容を理解するのに必要なこと、さらにレポートの書き方や、自分の研究成果を発表するプレゼンテーションの方法等について学びます。

とくに、大学では、自分の知識を組み合わせ、情報を整理し、それを分析することが求められます。そこで必要となるのが「考える力（思考力）」です。今後、生きていく上で最も大切なこの「考える力」を身につけること、これがこの授業の目標です。

また、大学の授業では、一人で勉強するだけでなく、同級生や先輩と一緒に勉強するグループ学習も重要となりますが、最初はあまりよく知らない人と一緒に勉強することが苦手だな、と思う人も多いと思います。そこで、この「基礎演習 I」では、グループで一緒に作業するやりかたについても学習します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
心を整える3つの実務 IQ をどの程度、理解し実践できたか？	「心を整える3つの実務 IQ」とは、「突破力」（物事に前向きに取り組む力）、「自制力」（自分をコントロールする力）そして「忍耐力」（失敗してもあきらめず、努力する力）です。 授業では、演習や課題に前向きに取り組む姿勢や、自分をコントロールして難しい課題に対しても簡単にあきらめない姿勢、そして課題でうまくいかないことがあっても、それを学びとして前進する姿勢を評価します。	30%
個性を伸ばす2つの実務 IQ をどの程度、理解し実践できたか？	個性を伸ばす2つの実務 IQ とは「思考力」と『創造性』です。この2つは課題やレポート、そして授業の発言の中で、適切に考え、安易な結論に飛びついていないかどうか、いろいろな情報を整理し、それを組み合わせて新しい発想を生み出しているかどうかを評価します。	30%
仲間や組織で活かす2つの実務 IQ をどの程度、理解し実践できたか？	仲間や組織で活かす2つの実務 IQ とは、「協働力」と「主張力」です。この2つは、グループ学習での学習姿勢を通じて、グループ学習に前向きに取り組む、周囲に良い影響を与えているか、自分の意見が他の人の意見と違っていてもきちんと自己主張できているかどうかを評価します。	30%
社会常識を身につけることができたか？	授業を受けるに際しての最低限のマナー、社会常識を身につけているか、あるいは授業を通じて、そのような社会常識やマナーを身につけることができたかどうかを評価します。	10%
評価の方法 課題、レポート、授業への参加姿勢を総合的に評価します。 『学生要覧』記載事項に準拠し、単位習得に必要な授業への出席率は3分の2以上を前提とします（この出席率は「成績を保証する」というものではありません）。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	大学での学びとは？	入学式後のフレッシュマン・オリエンテーションへ参加
2	学び方、考える力を身につける	・ 成果の出る学び方（学習方法）について学びます ・ グループワークの基礎を学びます ・ 意見を述べる際の議論の組み立て方について学びます ・ 意見を整理する方法について学びます
3		
4		
5		
6	レポートを書く	・ レポート作成の基本である文章執筆について学びます ・ レポート作成の基本技術、アウトライン作成を学びます ・ 参考文献リストと文献の活用方法について学びます ・ 計画的な執筆について学びます ・ 効率的なレポートの書き方について学びます
7		
8		
9		
10		
11	プレゼンテーションをする	・ プレゼンテーションとは何か、について学びます ・ 自分の意見を伝える技術について学びます ・ プレゼン資料の作成方法について学びます ・ 実際にプレゼンテーションを体験します
12		
13		
14		

【使用教材】

◇教科書：必須のテキストは特に設けないが参考図書を参照することが望ましい。

◇参考図書：狩野 光伸（著）『論理的な考え方 伝え方:根拠に基づく正しい議論のために』慶應義塾大学出版会、2015年 1,944円
 福澤 一吉（著）『議論のレッスン』NHK 生活人新書、2002年 680円
 慶応義塾大学日吉キャンパス学習相談員（著）『学生による学生のためのダメレポート脱出法』慶應義塾大学出版会、2014年 1,200円

【履修条件等】

◇1年生全員履修します（選択必修科目です）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習課題が提示された場合は、次回の授業までに確実に課題をこなしてください。

【その他の注意事項】

◇入学式直後に行われるフレッシュマン・オリエンテーションから1回目の授業がスタートします。

担当者	網 本 尚 子	糸 川 優	井 上 航 人
	小 川 達 也	北 原 隆	志 塚 昌 紀
	木 村 直 樹	小 林 寛 典	塩 谷 由美子
	清 水 太 陽	清 水 良 樹	高 橋 哲 也
	田 島 外志美	長 岐 郁 也	

基礎演習 I（再履修）	ウキヤ シュウイチ 浮谷 秀一
Foundational Seminar I	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業は、高校とは異なる大学での学び方、たとえば、授業をどのように受ければいいのか、そして授業の内容を理解するためにはどのようにすればいいのか、そしてレポートや自分の研究成果を発表するプレゼンテーションの方法等について学びます。

とくに、大学では、いろいろな知識を組み合わせ、自分で情報を整理し、それを分析することが求められます。そこで必要となるのが「考える力（思考力）」です。今後、生きていく上で最も大切なこの考える力を身につけること、これがこの授業の目標です。そして、大学の授業では、一人で勉強するだけでなく、同級生や先輩などと一緒に勉強するグループ学習も重要です。しかし、最初は、あまりよく知らない人と一緒に勉強することが苦手だな、と思う人も多いと思います。そこで、演習では、グループで一緒に作業するやりかたについても学習します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
心を整える3つの実務IQをどの程度、理解し実践できたか？	「心を整える3つの実務IQ」とは、「突破力」（物事に前向きに取り組む力）、「自制力」（自分をコントロールする力）そして「忍耐力」（失敗してもあきらめず、努力する力）です。 授業では、演習や課題に前向きに取り組む姿勢や、自分をコントロールして難しい課題に対しても簡単にあきらめない姿勢、そして課題でうまくいかないことがあっても、それを学びとして前進する姿勢を評価します。	30%
個性を伸ばす2つの実務IQをどの程度、理解し実践できたか？	個性を伸ばす2つの実務IQとは「思考力」と『創造性』です。この2つは課題やレポート、そして授業の発言の中で、適切に考え、安易な結論に飛びついていないかどうか、いろいろな情報を整理し、それを組み合わせて新しい発想を生み出しているかどうかを評価します。	30%
仲間や組織で活かす2つの実務IQをどの程度、理解し実践できたか？	仲間や組織で活かす2つの実務IQとは、「協働力」と「主張力」です。この2つは、グループ学習での学習姿勢を通じて、グループ学習に前向きに取り組む、周囲に良い影響を与えているか、自分の意見が他の人の意見と違っていてもきちんと自己主張できているかどうかを評価します。	30%
社会常識を身につけることができたか？	授業を受けるに際しての最低限のマナー、社会常識を身につけているか、あるいは授業を通じて、そのような社会常識やマナーを身につけることができたかどうかを評価します。	10%
評価の方法 課題、レポート、授業への参加姿勢を総合的に評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	大学での学びとは？	入学式後のフレッシュマン・オリエンテーションへ参加
2	学び方、考える力を身につける	・成果の出る学び方（学習方法）について学びます
3		・適切な思考法として、論理の基礎を学びます
4		・意見を述べる際の議論の組み立て方について学びます
5		・意見を整理する方法について学びます
6	レポートを書く	・レポート作成の基本である文章執筆について学びます
7		・レポート作成の基本技術、アウトライン作成を学びます
8		・参考文献リストと文献の活用方法について学びます
9		・計画的な執筆について学びます
10		・効率的なレポートの書き方について学びます
11	プレゼンテーションをする	・プレゼンテーションとは何か、について学びます
12		・自分の意見を伝える技術について学びます
13		・プレゼン資料の作成方法について学びます
14		・プレゼンテーションを体験する

【使用教材】

◇教科書：初回の授業で指示する。

◇参考図書：狩野光伸著『論理的な考え方 伝え方：根拠に基づく正しい議論のために』
慶應義塾大学出版会、2015年（1,944円）

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回、予習課題が提示されますので確実に予習課題をこなしてください。

【その他の注意事項】

1) 入学式直後に行われるフレッシュマン・オリエンテーションから講義がスタートします。

基礎演習Ⅱ	
Foundational Seminar II	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この講義は、自分の将来設計、すなわち「キャリア・デザイン」の基本的な考え方について学びます。講義では、キャリアとは何か、そして、職業を選択すること、組織や企業で働くことの意味を考え、その上で、最終的には自分のキャリアをデザインすることができるようになるよう指導します。この講義を受講することによって、自分のキャリア・デザインを踏まえて、大学で何をどのように学ぶべきかがはっきりと理解できるようになり、大学での学びが深まります。そして、さらには、将来への準備に早期に取りかかることができるので、4年生の時の就職活動にも役立ちます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
自己分析、職業興味、価値観、自身の強みなどについて理解する	実際にいくつかの自己分析のワークシートに取り組んでもらう。授業時に行う課題への取り組みの姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
業界分析・企業分析の基礎について理解し、興味のある分野を探索する	興味関心のある業界や企業について調べ、分析をする。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
自己分析と企業分析を基にして自身の自己ピーアールを作成する	それまでに行ってきた課題の内容を踏まえて、自身の自己ピーアールを作成する。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
多様な働き方について理解をする。また自身のキャリアを設計する上で必要な考え方を身につける	キャリア・デザインをしていく上で必要になる考え方について理解をしているか確認するため、自由記述型の論述試験を行う。自身のキャリアを真摯に考え記述しているかどうかについて評価をする	25%
評価の方法 授業時の課題75点（受講態度含む）、期末課題25点		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	キャリア・デザイン総論	講義の概要について解説
2	大学生活を充実させる①	大学生活に目標やスケジュール。PDCAサイクルを考える
3	大学生活を充実させる②	海外留学・インターンシップについて解説
4	ライフプラン	大学卒業後の進路選択、30歳までのライフプラン
5	働くとは何か	できること、やりたいことを基礎に働くことを考える
6	働く人の権利	労働法の基礎について解説
7	労働と収入	給与とは何か。奨学金と生涯賃金について解説
8	自己分析	価値観と雇用のミスマッチについて
9	資格取得	キャリア形成と資格取得の意義について解説
10	大学生活を充実させる③	ゼミ発表大会に参加しレポートを作成
11	企業分析・業界分析	キャリア・デザインに必要となる企業分析調査
12	就職試験総論	SPI試験など就職に関する試験について解説と体験
13	就職試験体験	内定者報告会：4年生による内定報告とレポート作成
14	就職試験体験	ビジネスマナー（服装・ビジネス文書など）について解説
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しません。

【履修条件等】

◇授業中に行う課題に真剣に取り組むこと。

◇提出課題の期日を守れること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料のキャリアに関するキーワードについて調べること。

◇キャリア・雇用に関する時事問題について指示された内容を新聞・雑誌等で調査する
事前課題が出る場合があります。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

担当者	網 本 尚 子	糸 川 優	井 上 航 人
	小 川 達 也	北 原 隆	志 塚 昌 紀
	木 村 直 樹	小 林 寛 典	塩 谷 由美子
	清 水 太 陽	清 水 良 樹	高 橋 哲 也
	田 島 外志美	長 岐 郁 也	

基礎演習Ⅱ（再履修）	ウキヤ シュウイチ 浮谷 秀一
Foundational Seminar II	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この講義は、自分の将来設計、すなわち「キャリア・デザイン」の基本的な考え方について学びます。講義では、キャリアとは何か、そして、職業を選択すること、組織や企業で働くことの意味を考え、その上で、最終的には自分のキャリアをデザインすることができるようになるよう指導します。この講義を受講することによって、自分のキャリア・デザインを踏まえて、大学で何をどのように学ぶべきかがはっきりと理解できるようになり、大学での学びが深まります。そして、さらには、将来への準備に早期に取りかかることができるので、4年生の時の就職活動にも役立ちます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
自己分析、職業興味、価値観、自身の強みなどについて理解する	実際にいくつかの自己分析のワークシートに取り組んでもらう。授業時に行う課題への取り組みの姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
業界分析・企業分析の基礎について理解し、興味のある分野を探索する	興味関心のある業界や企業について調べ、分析をする。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
自己分析と企業分析を基にして自身の自己ピーアールを作成する	それまでに行ってきた課題の内容を踏まえて、自身の自己ピーアールを作成する。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
多様な働き方について理解をする。また自身のキャリアを設計する上で必要な考え方を身につける	キャリア・デザインをしていく上で必要になる考え方について理解をしているか確認するため、自由記述型の論述試験を行う。自身のキャリアを真摯に考え記述しているかどうかについて評価をする	25%
評価の方法 授業時の課題75点（受講態度含む）、期末課題25点		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	キャリア・デザイン総論	講義の概要について解説
2	大学生活を充実させる①	大学生活に目標やスケジュール。PDCAサイクルを考える
3	大学生活を充実させる②	海外留学・インターンシップについて解説
4	ライフプラン	大学卒業後の進路選択、30歳までのライフプラン
5	働くとは何か	できること、やりたいことを基礎に働くことを考える
6	働く人の権利	労働法の基礎について解説
7	労働と収入	給与とは何か。奨学金と生涯賃金について解説
8	自己分析	価値観と雇用のミスマッチについて
9	資格取得	キャリア形成と資格取得の意義について解説
10	大学生活を充実させる③	ゼミ発表大会に参加しレポートを作成
11	企業分析・業界分析	キャリア・デザインに必要な企業分析調査
12	就職試験総論	SPI試験など就職に関する試験について解説と体験
13	就職試験体験	内定者報告会：4年生による内定報告とレポート作成
14	就職試験体験	ビジネスマナー（服装・ビジネス文書など）について解説
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しません。

【履修条件等】

◇授業中に行う課題に真剣に取り組むこと。

◇提出課題の期日を守れること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料のキャリアに関するキーワードについて調べること。

◇キャリア・雇用に関する時事問題について指示された内容を新聞・雑誌等で調査する
事前課題が出る場合があります。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

社会学（春学期）	ソウ アイ 宋 愛
Sociology	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

身近な現象を社会的に解説していく。身の回りの馴染みのあるような現象から、戦後社会の変容に迫り、さらに戦前、そして近代の起源に遡る。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
平常点	授業での意欲的な取り組みや理解しようとする姿勢を考慮します。	15%
小レポート	授業の内容についての小レポートを学期中に提出してもらいます（予定では3回）。	45%
期末レポート	授業の内容に関する資料を読み、レポートを作成してもらいます。提出は学期末。	40%
評価の方法 授業内での態度、小レポート、期末レポートの複合的な結果を勘案します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	社会学とは何か？
2	グローバル化とは何か(1)	移民、多文化共生
3	グローバル化とは何か(2)	「文明の衝突」、文化帝国主義
4	情報社会とは何か(1)	地域メディア、インターネットの誕生
5	情報社会とは何か(2)	草の根のコミュニケーションは社会を変えるか
6	情報社会とは何か(3)	デジタル・デバイト、「フェイク・ニュース」
7	若者とは何か	若者論、1968論
8	ロックフェスとは何か	ロックフェスの変容、カルチュラル・スターディズ
9	「かわいい」とは何か(1)	アイドル論、ファン文化論
10	「かわいい」とは何か(2)	盛り女子、インスタ映え、消費社会論
11	性別とは何か(1)	メディアにおける女性表象
12	性別とは何か(2)	ジェンダー、セクシュアリティ
13	家族とは何か	性別役割分業、家族形態の変容、少子高齢化社会
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書を指定しませんが、以下の書籍は参考にとすると理解に役立つでしょう。

長谷川公一等（著）『社会学』有斐閣

友枝敏雄（編著）『社会学の力—最重要概念・命題集』有斐閣

見田宗介（著）『現代社会はどこに向かうか—高原のみばらしを切り開くこと』

岩波新書

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に指定されたキーワードについて、教科書を使って調べておくこと。キーワードは毎回の授業で発表します。

【その他の注意事項】

◇授業内での態度、理解しようとする取り組みは、成績に反映するものと考えてください。

社会学（秋学期）	ソウ 宋 アイ 愛
Sociology	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

前近代社会から近代社会へ、そして近代社会からいわゆる「高度情報化社会」へ変容してきた過程を遡る。＜メディア＞を中心概念として、それぞれの社会形態の特徴を解説する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
平常点	授業での意欲的な取り組みや理解しようとする姿勢を考慮します。	15%
小レポート	授業の内容についての小レポートを学期中に提出してもらいます（予定では3回）。	45%
期末レポート	授業の内容に関する資料を読み、レポートを「作成してもらいます。提出は学期末。	40%
評価の方法 授業内での態度、小レポート、期末レポートの複合的な結果を勘案します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	「現代社会」とは何か
2	近代とは何か	マルクス、マックス・ウェーバー
3	国民国家とは何か	帝国の解体、ナショナリズムの世紀
4	民族とは何か	「民族という虚構」
5	ホロコーストとは何か	バウマン、ハンナ・アーレント
6	マス・メディアとは何か(1)	近代新聞の誕生、出版資本主義
7	マス・メディアとは何か(2)	映画、ラジオの登場
8	マス・メディアとは何か(3)	戦争宣伝、プロパガンダ
9	記憶とは何か(1)	「八月ジャーナリズム」
10	記憶とは何か(2)	現象学的社会学
11	市民社会とは何か(1)	国家と社会の分離、市民ジャーナリズム
12	市民社会とは何か(2)	デモの社会学
13	民主主義とは何か(1)	「社会の木鐸」としてのメディア、公共圏
14	民主主義とは何か(2)	劇場型政治、ポピュリズム
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書を指定しませんが、以下の書籍は参考にとすると理解に役立つでしょう。

津田正太郎（著）『メディアは社会を変えるのかーメディア社会論入門』

世界思想社

山腰修三（編著）『入門 メディア・コミュニケーション』慶應義塾大学出版会

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に指定されたキーワードについて、教科書を使って調べておくこと。キーワードは毎回の授業で発表します。

【その他の注意事項】

◇授業内での態度、理解しようとする取り組みは、成績に反映するものと考えてください。

法学Ⅰ（憲法含む）	サカイリ 坂入 リョウ 遼
Law I	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

法学の基本を理解し、そして身近な社会現象を法的に考える力を磨いてもらう。これが本授業の目的である。具体的に本授業では、まず、社会における法の役割、裁判の位置付け、法の解釈といった基本的な法学の要点を押さえることを目指す。そして、代表的な法分野について、身近な社会現象を法的に捉えていくことを通じて理解を深めていく。

社会には、さまざまな法的問題があふれている。複雑な世の中を自立して生きていく上では、法的思考力は重要であり、この基礎を身につけるための場が本授業となる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1) 法に関心をもち、法学の基本を理解する	社会における法の位置付け、裁判制度、法の解釈といった法学の基本を理解できているかを、授業中の議論への貢献度や定期試験の結果にもとづき評価する。	30%
2) 学習した各法分野の基本事項を説明できるようになる	定期試験において、半期を通じて学んださまざまな法分野に関し基本事項を説明できるかを問い、その結果にもとづいて評価する。授業中の議論での有意義な発言も評価上考慮される。	30%
3) 身近な問題を法的に考える	授業では、身近な社会現象を取り上げ、それらを法的に考えるトレーニングも行う。こうした実践への取り組み状況に加え、その到達度を図るための定期試験の結果も評価上考慮される。	30%
4) 国内法と国際法の基本的な違いを理解し、説明できるようになる	国内法と国際法の基本的な違いを理解することは、法の可能性と限界を把握することにもつながる。これに関する到達度も、授業中の議論への貢献度、定期試験の結果により評価する。	10%
評価の方法 成績評価に占める割合は、授業中の議論への貢献度が30%、期末の確認テスト（定期試験）の点数が70%である。ただし、出席回数が全回数の3分の2以上であることが、成績評価を受ける条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業の内容、進め方、成績評価方法に関し説明する
2	法とはなにか	社会における法の役割について学ぶ
3	法と裁判	裁判の役割、裁判制度、訴訟手続に関する原則について学ぶ
4	裁判の基準となるもの	法律、裁判例などの位置付けについて理解する
5	法の解釈	事実の認定と法の解釈、法の解釈の性質・方法について学ぶ
6	憲法(1)	日本国憲法の特徴、基本的人権に関する規定について学ぶ
7	憲法(2)	統治機構に関する規定について学ぶ
8	犯罪と法	刑法、刑事手続と刑事訴訟法について学ぶ
9	家族生活と法	家族関係に関する民法の規定について学ぶ
10	財産関係と法	財産関係に関する民法の規定について学ぶ
11	労働と法	労働に関する法分野について学ぶ
12	経済活動と法	独占禁止法を中心とした経済法について学ぶ
13	国際法と国内法の違い	国際法が国内法と異なる点、その理由を学ぶ
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず、教員が配信する教材にもとづいて授業を進める。

◇ただし、自学自習の参考となる文献として次のものを挙げておく。

伊藤正己・加藤一郎編著『現代法学入門』（有斐閣、第4版、2005年）

奥田進一・高橋雅人・長友昭・長島光一編著『法学入門』（成文堂、2018年）

【履修条件等】

◇「法学Ⅰ」では、身近な社会現象を手掛かりにして、法を学ぶ上での基本、憲法を中心とする法の体系を広く理解してもらうことが中心となる。本授業で得た基本的理解をもとに、法学への理解を一層深めたい学生の皆さんには、「法学Ⅱ」をあわせて履修することをおすすめる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業では、身近なニュースなどを素材にして法的思考力を養うトレーニングを行う。

事前のアナウンスに応じて新聞などを読み、問題となる社会現象の基本的理解を得ておくこと。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語は厳禁とする。その他、授業態度は成績に影響することとなる。

法学Ⅰ（憲法含む）	ナガキ 長岐 イクヤ 郁也
Law I	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

初めて法律学を学ぶ学生諸君に法律学に対する興味や関心を持ってもらい、基本的な法原則・法概念、そして法の適用（解釈）などを習得してもらうことが本講義の目的である。

法律学は、初めて勉強する人にとっては取っ付きにくい学問であり、勉強の最初の段階で違和感や苦手意識を感じてしまう学生も多い。

そこで本講義では、いくつかの身近で具体的な事例を出発点として法の基礎知識を学ぶとともに、法の解釈とはどのようなものかを学生諸君と考えていくこととしたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
法律学に対する興味・関心を持つこと	身近な事例を用いることで、まずは自身の感覚や勘を頼りに考えてもらいながら、徐々に法的思考に基づいた見方ができるかを講義中の発言に基づいて評価する。	20%
憲法を中心とした法体系を理解すること	定期試験において法の成立、公布、施行の一連の流れを踏まえて上で、法の役割を問うことで評価する。	20%
法に与えられている役割を理解すること	定期試験においてそれぞれの法律の分野に関する問題を設け、理解の程度を評価する	20%
日常において発生する法律に関わる問題に対して自らの考えを述べることができること	定期試験において、日常のニュースなどで多くの事件を知ることができるが、それらに対して法律の視点からどのように捉えることができるか、また通常の視点とはどのような差異が生じるのかを認識することができるかを評価する。	40%
評価の方法 毎回の確認テスト(60%)、定期試験(40%)の結果をもって評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	
2	法学	近代社会における法の意義
3	法学	国家による法の規制
4	憲法	憲法の役割と意義、帝国憲法と憲法
5	憲法	基本的人権（平等権、自由権）
6	憲法	基本的人権（社会権、受益権）
7	憲法	統治機構論（内閣、国会、裁判所）
8	行政法	地方公共団体の法
9	民事法	日常生活の中の法の役割、権利と義務の関係
10	民事法	会社の組織、取引関係における法の役割
11	刑法	罪刑法定主義
12	刑法	刑罰について
13	訴訟法	裁判所の種類と役割及び裁判の手続き
14	まとめ	

【使用教材】

◇教科書は使用せず授業は進める。

なお、参考文献は以下のとおりです。

五十嵐清著『法学入門（第3版）』悠々社、2006年

星野英一著『法学入門』有斐閣、2010年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語は厳禁とする。

法学Ⅱ	サカイリ 坂入 リョウ 遼
Law II	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

本授業では、法学に関する基本的な理解にもとづき、経済活動と深く関係する法分野を中心に学ぶことを通じて法的思考力を磨いてもらう。

具体的に本授業では、民法（国内の取引の基本ルール）、国際取引法（私的取引に関する国際ルール）、経済法（経済の公法的規制）、国際経済法（国際経済についての公法的規制）を扱う。

ビジネスの世界では法的問題に直面することが常である。本授業を通じて、受講生は、経済活動との関わりがある法への理解を得るとともに、より深い法的思考力を身につけることができる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1) 学習した法分野に関する基本事項を説明できるようになる	民法、国際取引法、経済法、国際経済法を学習した上で、基本事項を説明できるようになったかどうかを問う。評価は、授業中の議論への貢献度、定期試験の結果にもとづいて行う。	20%
2) ビジネスに関する身近な問題を関連する法との関係で説明することができる	授業では身近なビジネス上の問題を取り上げ、それらを法的に考えるトレーニングも行う。こうした実践への取り組み状況に加え、その到達度を図るための定期試験の結果も評価上考慮される。	30%
3) 代表的な法的論点を裁判例などとの関係で理解し、説明することができる	学習した法分野の代表的な論点に対し、裁判例などとの関係を踏まえつつ、整理された説明ができるかを問う。評価は、授業中の議論への貢献度、定期試験の結果にもとづいて行う。	20%
4) 与えられた問題に対し法をどう適用できるかを説明することができる	代表的な裁判例を踏まえ、与えられた問題に対して法をどのように適用できるかを考え、決められた時間内に解答することができるかどうかを問う。授業中の議論への貢献度、定期試験の結果にもとづき評価する。	30%
評価の方法 成績評価に占める割合は、授業中の議論への貢献度が30%、期末の確認テスト（定期試験）の点数が70%である。ただし、出席回数が全回数の3分の2以上であることが、成績評価を受ける条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の内容、進め方、成績評価方法に関し説明する
2	民法(1)	契約をめぐる民法上の論点について学ぶ
3	民法(2)	物権をめぐる民法上の論点について学ぶ
4	民法(3)	不法行為をめぐる民法上の論点について学ぶ
5	国際取引法(1)	国際的な売買の取引条件に関するルールについて学ぶ
6	国際取引法(2)	貿易代金の決済に関するルールについて学ぶ
7	国際取引法(3)	国際取引紛争を解決するための裁判、仲裁の手続を学ぶ
8	経済法(1)	カルテルなど不当な取引制限に関する規制について学ぶ
9	経済法(2)	私的独占に関する規制について学ぶ
10	経済法(3)	企業の買収などに関する規制について学ぶ
11	経済法(4)	不公正な取引方法に関する規制について学ぶ
12	国際経済法(1)	関税、国内規制、数量制限に関する基本ルールを学ぶ
13	国際経済法(2)	貿易救済制度に関する規制について学ぶ
14	国際経済法(3)	世界貿易機関（WTO）の紛争解決制度について学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず、教員が配信する教材にもとづいて授業を進める。

◇ただし、自学自習の参考となる文献については、適宜授業の中で紹介する。

【履修条件等】

◇本授業では、「法学Ⅰ」で学んだ基本的な内容にもとづき、より深く法学を理解するための取り組みが行われる。そのため、「法学Ⅰ」をあわせて履修することをおすすめする。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業では、身近なニュースなどを素材にして法的思考力を養うトレーニングを行う。
事前のアナウンスに応じて新聞などを読み、問題となる社会現象の基本的理解を得ておくこと。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語は厳禁とする。その他、授業態度は成績に影響することとなる。

法学Ⅱ	ナガキ 長岐 イクヤ 郁也
Law II	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

日常生活を営む上では法律を意識する機会は多くないものの、多くの法律が関わるものである。とくにその中心には民法が置かれており、それに付随するさまざまな法律が存在している。本講義では、民法に定められる基本的なルールを学習するとともに、日常生活のトラブルにどのようにあてはめられ、解決が試みられるのかを学習する。時としてそのルールが修正されることもあるので、この点についても適宜触れていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日常生活における法の関わりを理解すること	民法を中心とした私法が日常生活にどのように関わるのかをイメージすることができること。	20%
法律の制度の趣旨を理解すること	ルールを理解するためには法律に定められる制度の立法趣旨を理解することが必要であるため、これについて試験において評価する。	30%
法律に定められるルールを事実にあてはめることができること	実際の出来事にどのような法律の制度を当てはめることができ、その結果としてどのように処理することが可能であるのかを試験において確認する。	40%
日常において発生する法律が関わる問題に対して自らの考えを述べることができること	定期試験において、日常のニュースなどで多くの事件を知ることができるが、それらに対して法律の視点からどのように捉えることができるか、また通常の視点とはどのような差異が生じるのかを認識することができるかを評価する。	10%
評価の方法 毎回の確認テスト(25%)、定期試験(75%)の結果をもって評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業内容及び授業方針の説明
2	民法の概要	民法典についての説明
3	契約(1)	買った物が壊れていたら
4	契約(2)	スーパーで食品を買ったら
5	契約(3)	ネット通販で靴を買ったら
6	契約(4)	友人に貸した自転車を取り戻したい
7	契約(5)	お金を貸したら
8	不法行為(1)	バイクで人身事故を起こしたら
9	不法行為(2)	ネット上で中傷されたら
10	契約(6)	アパートを貸したら
11	契約(7)	親が家を新築したら
12	婚姻	友人の結婚
13	離婚	親が離婚したら
14	相続	家族が亡くなったら
15	まとめ	近代市民法の原則とその修正、民法改正

【使用教材】

◇教科書は使用せず授業は進める。

◇参考文献等については、講義中に適宜案内する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語は厳禁とする。

心理学 I	イナミ カズエ 伊波 和恵
Psychology I	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

科学の領域で、心理学は「人間の心理と行動」の法則や原理に関する学問として発展してきました。この授業では、人間の心理を理解するうえで必要となる、以下のような基礎的な知識の理解を目標とします：（１）人間の心理社会的発達、（２）心と脳との関係、（３）人の知覚（とくに視覚）のメカニズム、（４）欲求と適応行動、（５）学習行動と記憶のメカニズム。

なお、授業は講義形式で行いますが、適宜、課題の提出を求めます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
生涯発達心理学の基礎知識の習得	試験および講義時の課題にて評価。発達メカニズム、発達心理学の概念理解、発達段階等の基礎理論の理解が十分であること。	25%
心と脳の関連性についての説明が、ある程度可能	試験および講義時の課題により評価。神経系や脳の構造と機能について、基本的知識を理解し、説明できること。	15%
人の知覚（とくに視覚）に関する基礎知識の習得	試験および講義時の課題にて評価。錯覚・社会的知覚・運動視等のメカニズムについて理解し、説明できること。	20%
欲求と適応行動について、基本的な事柄が説明可能	試験・講義時の課題にて評価。欲求と葛藤、防衛機制等の一連の適応行動について理解し、適切に説明ができること。	20%
学習と記憶のメカニズムに関する知識の習得	試験・講義時の課題にて評価。学習と記憶、忘却に関する知識を整理して理解し、適切に説明できること。	20%
評価の方法（上記、試験には、中間テストを含めます。） ①平常点20%（授業内課題提出）②中間テスト20% ③定期試験60%（一切持込不可）		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方・評価方法の説明 行動科学としての心理学
2	発達心理学①	心身の発達のメカニズム・発達モデル・発達段階説
3	発達心理学②	乳児期・幼児期・児童期
4	発達心理学③	青年期・成人期・老年期
5	生理心理学①	神経系の構造と機能・脳の構造と機能
6	生理心理学②	心身相関論
7	知覚心理学①	知覚・視覚・錯覚
8	知覚心理学②	社会的知覚・美術的表現・仮現運動
9	テスト・認知心理学	中間テスト・欲求と欲求不満・葛藤・欲求五階層説
10	認知心理学②	適応(防衛)機制・適応行動
11	学習心理学①	学習のメカニズム・学習のプロセス・学習性無力感
12	学習心理学②	記憶・忘却のメカニズム・メタ記憶
13	学習心理学③	記憶にまつわる心理的問題(記憶障害・記銘障害・認知症)
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト(範囲は全体)を実施する

【使用教材】

- ◇テキスト：岡村一成（編）『心理学―行動の科学―』東京教学社
- ◇その他、講義中に適宜紹介する。

【履修条件等】

- ◇心理学に興味を持ち、意欲がある学生。
- ◇「心理学Ⅱ」（秋学期開講）も併せて受講することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇翌週の内容をテキストで確認しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇中間テスト・確認テストには必ず出席し、受験すること。（中間テスト日程は、進行によってずれることがあるので、授業内に再度指示する。）
- ◇授業に関するあらゆる不正、ゲーム機・スマートフォン等の不適切な使用を禁じます。受講停止等、厳格に対応することもあります。

心理学 I	ウキヤ シュウイチ 浮谷 秀一
Psychology I	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

科学として発展してきた心理学が、今日まで解明してきた人間の心理と行動の特徴についてわかりやすく解説し、身近な学問として正しく理解してもらうことをねらいとしています。そのねらいの実現のために、人間の心理を理解するために必要な基礎的な領域（発達心理・生理心理・認知心理・適応心理・学習心理）を解説します。主に講義形式で授業を進め、適切な時期に、必要に応じて各種心理検査などを紹介する実習などを組み込んでいきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
発達とその特徴について理解すること	発達に影響する要因を理解することと発達段階の特徴を理解できているか評価する。	45%
生理心理のメカニズムを理解すること	生理心理のメカニズムを理解できているかで評価する。	5%
認知心理の特徴を理解すること	認知心理に関連する人間の特徴を理解できているかで評価する。	20%
適応心理の特徴を理解すること	適応するということがどのようなことかを理解できているかで評価する。	30%
評価の方法 出席は3分の2以上が単位認定の条件。 中間試験40%、最終試験60%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	心理学の成立	(1) 心理学とは
2	発達心理	(1) 発達とは (2) 発達の特質
3	発達心理	(3) 遺伝と環境[1]
4	発達心理	(3) 遺伝と環境[2]
5	発達心理	(4) 発達段階の特徴[1]
6	発達心理	(4) 発達段階の特徴[2]
7	発達心理	(4) 発達段階の特徴[2]
8	生理心理	(1) 神経系について
9	認知心理	(1) 感覚器官 (2) 知覚の一般的特徴
10	中間試験	解説を含む
11	適応心理	(1) 欲求とは？ (2) 欲求五階層説 (3) 葛藤
12	適応心理	(4) 欲求不満と欲求不満耐性
13	適応心理	(5) 適応機制
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇岡村一成（編）『心理学―行動の科学―』東京教学社

【履修条件等】

◇知的好奇心が旺盛であること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次週に取り上げることを提示するので、教科書の該当箇所を読むこと。

【その他の注意事項】

◇欠席をしないこと。

心理学Ⅰ	マツダ ミトコ 松田 美登子
Psychology I	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

科学として発展してきた心理学の「人間の心理と行動」の法則や原理について詳しく解説し、身近な学問として理解することを目標とします。

「心理学Ⅰ」では、人間の心理を理解する上で必要となる以下のような基礎的な領域を中心に授業を進めます。(1)人間の発達の仕組みと発達の変化、(2)心と脳との関係、(3)人間の視知覚の不思議、(4)欲求と適応行動、(5)学習行動と記憶のメカニズムをテーマに学習します。

授業は、主に講義を形式を中心とします。適時に、課題や心理テストを取り入れて、授業の理解を深めていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
人間の発達の仕組みと発達の変化について理解する	レポートおよび試験により評価。人間の誕生から死までの一連の発達プロセスや発達段階のトピックスについて理解し設問に回答できること。	25%
心と脳との関連性を理解する	試験により評価。人間の心と行動に大きく関連する神経系や脳の構造や機能について知り得たことを回答できること。	15%
人間の視知覚の不思議について理解する	課題および試験により評価。知覚の中の視知覚を中心とする。視覚における錯覚（錯視）や人間の経験や環境が影響を及ぼす社会的知覚、運動視等について講義と課題を通じて学習した内容を説明できる。	20%
人間の欲求と適応行動について理解する	レポートおよび試験により評価。欲求と葛藤および欲求不満について正しく理解し、環境との適応について考察し答えることができる。	20%
学習行動と記憶のメカニズムについて理解する	課題および試験により評価。学習理論について学び、神経症や問題行動の理解に繋げる。記憶と忘却について課題を通じて理解し説明できる。	20%
評価の方法 ①平常点：10%（リアクションペーパー・課題の提出、出席状況） ②レポートおよび宿題提出：30% ③定期試験60%（教科書・プリント類等、一切持込不可）。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の目的と進め方、成績評価基準等の説明 科学としての心理学とは？
2	発達心理	(1) 発達とは？ (2) 発達のしくみ
3	発達心理	(3) 発達段階の特徴[1] 乳児期～思春期
4	発達心理	(3) 発達段階の特徴[2] 青年期～老年期
5	生理心理	(1) 神経系のはたらき (2) 脳の構造
6	知覚心理	(1) 知覚の成立 モノの見え方の不思議
7	知覚心理	(2) 知覚の全体性 知覚におよぼす欲求や価値
8	知覚心理	(3) 運動の知覚 動いていないのに動いて見える？
9	認知心理	(1) 欲求とは？ (2) 欲求5階層説 (3) 葛藤と欲求不満
10	認知心理	(4) 適応機制 (5) 適応と不適応行動
11	学習心理	(1) 学習とは？ (2) 学習過程のメカニズム[1]
12	学習心理	(3) 学習過程のメカニズム[2] (4) 無気力は学習される？
13	学習心理	(5) 記憶と忘却
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：岡村一成（編）『心理学—行動の科学—』東京教学社

【履修条件等】

- ◇心理学に興味を持ち、意欲がある学生。
- ◇「心理学Ⅱ」も併せて受講することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇事前に指示した重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇課題やレポートは期限内に、必ず仕上げ提出すること。

心理学Ⅱ	イナミ カズエ 伊波 和恵
Psychology II	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、「心理学Ⅰ」をベースとし、応用心理学の以下の各論について学習します：(1) パーソナリティ（性格）と知能、(2) 人間理解の方法（心理アセスメント）、(3) 臨床心理学（とくにメンタルヘルス領域）、(4) 社会心理学（とくにコミュニケーション）。具体的には、自分の性格や心の状態の測定についての基礎的な知識を得るとともに、心理テストやワークシートを使って実習をすることで、自己理解を深めます。主に講義形式で授業を進めますが、適宜、心理テストやワークシートを用いた実習を行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
性格と知能に関する基礎知識の習得	試験・講義時の課題による評価。性格と知能の概念について理解し、説明できるとともに、知識を用いて自己分析できる。	30%
人間理解の方法（アセスメント）の基礎知識の習得	試験・講義時の課題による評価。心理アセスメントの方法と考え方について理解する。	20%
臨床心理学・メンタルヘルスの基礎知識の習得	試験・講義時の課題による評価。ストレスと心理的ケア、メンタルヘルス、精神疾患とその心理的ケアに関する基礎知識について理解する。	30%
社会心理学（コミュニケーション論）に関する基礎知識の習得	試験・講義時の課題による評価。対人認知、印象形成・援助行動・集団心理等、コミュニケーションにかかわる社会心理学の知識について理解する。	20%
評価の方法 ①平常点20%（授業内課題提出）②中間テスト20% ③定期試験60%（一切持込不可）		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション 性格心理学①	授業の進め方・評価方法の説明 パーソナリティ（性格）とは
2	性格心理学②	類型論・特性論
3	性格心理学③	知能の理解
4	人間理解の方法①	心理アセスメント(作業検査法・質問紙法)
5	人間理解の方法②	知能検査
6	人間理解の方法③	面接法・観察法
7	臨床心理学①	ストレス・メンタルヘルス・ストレスコーピング
8	臨床心理学②	メンタルヘルス不調・心身症・精神疾患・心理的ケア
9	臨床心理学③	カウンセリング・心理療法
10	臨床心理学④・テスト	中間テスト
11	社会心理学①	コミュニケーション論
12	社会心理学②	対人認知・対人魅力・対人コミュニケーション
13	社会心理学③	自己開示・自己呈示・恋愛
14	社会心理学④	集団行動・群集心理・流言・流行
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇テキスト：岡村一成（編）『心理学―行動の科学―』東京教学社

◇その他、講義中に適宜紹介する。

【履修条件等】

◇心理学に興味を持ち、意欲がある学生。

◇「心理学Ⅰ」（春学期開講）も併せて受講していること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇翌週の内容をテキストで確認しておくこと。

【その他の注意事項】

◇中間テスト・確認テストには必ず出席し、受験すること。（中間テスト日程は、進行によってずれることがあるので、授業内に再度指示する。）

◇授業に関するあらゆる不正、ゲーム機・スマートフォン等の不適切な使用を禁じます。
受講停止等、厳格に対応することもあります。

心理学Ⅱ	ウキヤ シュウイチ 浮谷 秀一
Psychology II	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、基礎的な分野を学んだ「心理学Ⅰ」を踏まえて応用的な分野を中心に学ぶことになります。解説する分野は、性格心理・臨床心理・社会心理・産業組織心理などです。主に講義形式で授業を進め、適切な時期に、必要に応じて各種心理検査などを紹介する実習などを組み込んでいきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
学習心理の特徴を理解すること	学習の理解および学習過程のメカニズムを理解できているかで評価する。	20%
性格心理の特徴を理解すること	性格の理解および性格を測定する方法を理解できているかで評価する。	20%
臨床心理の特徴を理解すること	心の病および心理療法について理解できているかで評価する。	20%
社会心理の特徴について理解すること	社会における人間行動について理解できているかで評価する。	20%
産業組織心理の特徴を理解すること	職場における人間関係について理解できているかで評価する。	20%
評価の方法 出席は3分の2以上が単位認定の条件 レポート40%、最終試験60%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	学習心理	(1) 学習とは
2	学習心理	(2) 学習過程のメカニズム [1]
3	学習心理	(2) 学習過程のメカニズム [2]
4	性格心理	(1) 性格とは (2) 性格の見方
5	性格心理	(3) 性格の測定法 [1]
6	性格心理	(3) 性格の測定法 [2]
7	性格心理	(3) 性格の測定法 [3]
8	性格心理	* 性格検査実習
9	臨床心理	(1) 心の病 (2) 心理療法 [1]
10	臨床心理	(2) 心理療法 [1]
11	社会心理	(1) 対人認知 (2) 対人関係の認知
12	社会心理	(3) 社会的影響 (4) 流言 (5) 流行
13	産業組織心理	(1) モチベーション
14	産業組織心理	(2) リーダーシップ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇岡村一成（編）『心理学―行動の科学―』東京教学社

【履修条件等】

◇知的好奇心が旺盛であること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次週に取り上げることを提示するので、教科書の該当箇所を読むこと。

【その他の注意事項】

◇欠席をしないこと。

心理学Ⅱ	マツダ ミトコ 松田 美登子
Psychology II	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、基礎的な分野を学んだ「心理学Ⅰ」をベースに応用的な分野を中心に学びます。

「心理学Ⅱ」では、パーソナリティ（性格）について理解を深めた後に、心理テスト等を使って自分の性格や心の状態を探っていきます。次に、ストレスが心身と行動に与える影響および心理治療について、心理テストやワークシートを使って実習することで自己理解を深めます。社会心理学では、他者との関わりの中で生きるために必要な対人認知や印象形成、さらに、集団心理の影響や怖さについて学習します。

主に講義形式で授業を進め、適時、心理テストやワークシートを用いた実習を組み込んでいきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
性格と知能 ーパーソナリティ の心理学ー	試験による評価。人間のパーソナリティ（性格）について、さまざまな観点で学習する。パーソナリティの一側面である知能について正しく理解し、自己理解に繋げる。	30%
人間理解の方法 ーアセスメントに ついてー	レポートおよび試験による評価。パーソナリティを理解するためのアセスメント（心理査定）として、心理テストの特徴と守備範囲を理解する。また、実際に心理テストを施行し、レポートにまとめる。	20%
心の病と心理療法 ー臨床心理学ー	課題および試験による評価。自分のストレスの状態をワークシート課題によって理解する。精神障害について正しく理解し、治療法についても学ぶ。	30%
人間の社会・集団 行動 ー社会心理学ー	試験による評価。社会で生きるために必要とされる、対人認知や社会行動、援助行動について理解する。さらに、集団心理と行動について学ぶことで、人間理解に繋げる。	20%
評価の方法 ①平常点：10%（リアクションペーパー・課題の提出、出席状況） ②レポートおよび宿題提出：30% ③定期試験60%（教科書・プリント類等、一切持込不可）		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	性格心理	(1) 性格とは
2	性格心理	(2) 性格の見方
3	性格心理	(3) 性格の理解[1]
4	性格心理	(4) 性格の理解[2]
5	人間理解の方法	(1) 心理アセスメント[1]（質問紙法・作業検査法）
6	人間理解の方法	(2) 心理アセスメント[2]（投影法検査・知能検査）
7	人間理解の方法	(3) 心理アセスメント[3]（面接法・観察法）
8	臨床心理学	(1) 現代がかかえる心の病
9	臨床心理学	(2) ストレスとストレス・コーピング
10	臨床心理学	(3) 心理療法
11	社会心理	(1) 対人認知 対人魅力
12	社会心理	(2) 自己開示と自己呈示
13	社会心理	(3) 集合行動と群衆行動
14	社会心理	(4) 流言と流行
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：岡村一成（編）『心理学―行動の科学―』東京教学社

【履修条件等】

- ◇心理学に興味を持ち、意欲がある学生。
- ◇「心理学Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇事前に指示した重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇課題やレポートは期限内に、必ず仕上げ提出すること

哲学	ユグ リユウイチ 弓削 隆一
Philosophy	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

「知識とは何か?」、「科学とは何か?」、「科学的知識の限界」などをめぐる哲学的考察を題材にして、哲学的なものの考え方を理解し、受講者が自ら哲学的にものを考え、またそれを表現できるようになることを目標とします。受動的に話を聞くだけの態度ではなく、議論に積極的に参加し、「共に考える」姿勢が求められます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
問題点の理解	哲学のさまざまな議論で、そもそも何が問題になっているというものの理解。授業中の質問・発言やリアクションペーパーで評価します。	20%
諸説の理解	対立する諸見解の内容と、それらの対立点の理解。授業中の発言やリアクションペーパー、期末レポートなどで評価します。	20%
議論への参加	哲学的問題について自分で考え、議論する練習。授業中の発言やリアクションペーパーで評価します。	20%
文章での表現	哲学的問題に関する自分の意見をまとめ、文章で表現すること。期末レポートなどで評価します。	40%
評価の方法 全体的には、授業中の積極性が30%、リアクションペーパーが30%、期末レポートが40%程度の配分で評価する予定です。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	哲学を勉強するときの心構え
2	知識とは何か？	「知っている」と言えるのはどういう場合か？
3	知識の源泉	合理主義と経験主義
4	科学的知識とは何か？(1)	論理実証主義の考え方(1)
5	科学的知識とは何か？(2)	論理実証主義の考え方(2)
6	科学的知識とは何か？(3)	論理実証主義の問題点
7	科学的知識とは何か？(4)	K. ポパーの反証主義
8	相対主義的な科学観(1)	T. クーンと「パラダイム」
9	相対主義的な科学観(2)	パラダイムの転換は反証によって起こるのか？
10	科学革命の実例	近代科学の誕生の前後の世界観の転換
11	科学的説明の領域の拡大(1)	ダーウィンの生物進化論
12	科学的説明の領域の拡大(2)	科学的世界像の中の「心」
13	「道徳」の問題(1)	近代の倫理学の2つの説：功利主義と義務論
14	「道徳」の問題(2)	非認知主義と道徳的实在論
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用しません。

◇必要に応じてプリントを作成します。

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習が必要な回については、講義の中で指示します。

【その他の注意事項】

◇授業に積極的に参加し、講師とともに授業を作っていく姿勢が必要です。

文学（現代文学）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Literature	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、日本の現代文学における何人かの重要な作家の作品を取り上げ、そこからどのような作者の思いが読み取れるかについて考える。それぞれの作者の文章の特徴や、表現の傾向を分析したり、作者の生活した土地や、交友関係、生い立ちなどが作風にどのように影響を与えているかについて考えたりしてみたい。また、お互いに、自分の好きな作家の作品を紹介し合い、各自の読書の世界を広げるような試みも行いたい。

この授業をきっかけに、読書の楽しみ方を学び、読書習慣を身につけてもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本文学の歴史	明治時代以降の日本文学の歴史を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
芥川龍之介の作品を読んで、内容や表現の特徴について考える	芥川龍之介の作品の内容や、表現の特徴、芥川の人間性、歩んだ人生などについて理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方、感想文などで評価する。	25%
太宰治の作品を読んで、内容や表現の特徴について考える	太宰治の作品の内容や、表現の特徴、太宰の人間性、歩んだ人生などについて理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方、感想文などで評価する。	25%
村上春樹の作品を読んで、内容や表現の特徴について考える	村上春樹の作品の内容や、表現の特徴、村上の人間性、歩んだ人生などについて理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方、感想文などで評価する。	25%
評価の方法 3分の2以上出席し、感想文などの課題を提出すること。 試験80%、感想文や発表の内容、受講態度等20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	日本文学の歴史	明治以降の日本文学の歴史について。
3	さまざまな作家の作品	重要な作家とその作品の内容・特徴について。
4	さまざまな作家の作品	
5	芥川龍之介の文学	芥川龍之介の作品を読み、表現の特徴や内容について理解を深めるとともに、芥川の生活環境や交友関係が作品に与えた影響について考える。
6	芥川龍之介の文学	
7	芥川龍之介の文学	
8	太宰治の文学	太宰治の作品を読み、表現の特徴や内容について理解を深めるとともに、太宰の生活環境や交友関係が作品に与えた影響について考える。
9	太宰治の文学	
10	太宰治の文学	
11	村上春樹の文学	村上春樹の作品を読み、表現の特徴や内容について理解を深める。また、海外で起こった村上春樹ブームや、村上の政治や社会問題に関する発言などについても考える。
12	村上春樹の文学	
13	村上春樹の文学	
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇読書が好きな人、今は苦手でも読書してみたいと思っている人など、積極的に授業に参加できる学生に履修してもらいたい。

◇日本語で書かれた文学作品を読むので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前回までに勉強したことは、きちんとノート整理し、理解した上で次の授業に臨むこと。

◇高校時代の教科書や、辞書、事典などで、授業で取り上げる作家や作品の概要を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇わからない言葉が出てきたら、積極的に辞書を使って調べること。

文学（源氏物語）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Literature	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

『源氏物語』に描かれている女君たちのなかでもとくに印象深い、紫の上、葵の上、六条御息所、藤壺女御、そして光源氏の母である桐壺更衣らを取り上げ、それらの女性がどのように描かれているのかに着目しながら『源氏物語』の本文を読み進めていく。

古語や文語文法の知識を深めるというよりも、私たちと同じ日本人が、1000年前にはどのように生活し、どのような物の考え方をしていたのかを知り、現代日本の根底に横たわる、日本人としての共通認識や常識について理解を深めることを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
『源氏物語』の作者や物語執筆の背景などについて理解する	歴史的な人物について答えられるだけでなく、漢字で正しく書けるようにすること。設問に対する回答、試験によって評価。	20%
授業で読むテキスト本文が、現代語訳のどの箇所にあたるかを理解し、正しく読む	テキストの音読を指名された時に、正しく読めるかどうか。	20%
本文に描かれている平安時代の風俗や習慣、考え方などについて理解を深める	授業で説明を受けた語句の意味等を正しく理解できているかどうか。また、漢字で正しく書けるかどうか。設問に対する回答、試験によって評価。	40%
『源氏物語』の登場人物について	本文に登場する人物について、お互いの関係を理解し、正しく系図にまとめられるかどうか。設問に対する回答、小テスト、試験によって評価。	20%
評価の方法 3分の2以上の出席で、受講態度・小テスト等20%、試験80%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイドダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	桐壺更衣	「桐壺」の巻を中心に講読し、平安時代の後宮や平安貴族の考え方、当時の結婚観等について解説する。
3	桐壺更衣	
4	桐壺更衣	
5	藤壺女御	藤壺女御に関する記述をピックアップして読み、光源氏の生涯に藤壺が与えた影響について考察する。
6	藤壺女御	
7	葵の上	「葵」の巻を中心に講読する。とくに「車争い」前後の葵と六条の心理を読み取り、この悲劇の原因をさぐる。
8	葵の上	
9	六条御息所	車争いの後に六条御息所の身に起こった現象を考察し、平安時代の人々の思想について理解を深める。 光源氏と六条のその後を、テキストで読み味わう。
10	六条御息所	
11	六条御息所	
12	紫の上	紫の上に関する記述をピックアップして読み、紫の上を造形した作者の紫式部の意図を考察する。
13	紫の上と女三の宮	
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇秋山虔、他（編集）『源氏物語読本』筑摩書房

【履修条件等】

- ◇日本語のテキストを音読する能力があること。
- ◇日本の伝統や歴史に興味があること。
- ◇日本の古い言葉で作品を読むので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇前回までに登場した人物について整理し、理解しておくこと。
- ◇前回までの授業で説明を受けた古語の意味を理解しておくこと。また習った漢字を読むようにしておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇テキストを持参しない場合は欠席と見なすので、必ずテキストを購入し、毎時間持参すること。

文学（歌舞伎）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Literature	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

江戸時代から演じられ続けている日本の伝統芸能、歌舞伎を取り上げ、ビデオ教材を用いながら、歌舞伎の成立や歴史、特徴、他の古典芸能との関連、鑑賞のポイントなどについて講義する。受講者全員で古典芸能を鑑賞に出かけることなどはしないが、個人的に鑑賞の機会を持ってくれることを期待する。

これからの国際化の時代、海外に出る機会もますます増えるだろう。諸外国の人々に、日本の伝統について堂々と説明できるようになってほしい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
歌舞伎の歴史について正しい知識を身につける	歌舞伎成立以前の芸能の歴史に始まり、江戸時代から近現代にいたるまでの歴史を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
歌舞伎の特徴について正しい知識を身につける	歌舞伎が演じられる舞台の構造、歌舞伎の登場人物に見られる特徴、衣装、大道具・小道具、セリフなど、現代演劇と違う特徴を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
歌舞伎の演目について自分の意見や感想を述べる	ビデオで鑑賞した歌舞伎の演目について、あらすじや内容、鑑賞のポイントを理解しているかどうか。自分の言葉で感想や意見を述べることができるかどうか。集中してビデオを鑑賞できたかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
歌舞伎が現代とどのようにつながっているかについて考える	歌舞伎が現代まで演じ続けられていることに対して、その理由や、現代社会に与えている影響などについて、自分の言葉で意見を述べることができるかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
評価の方法 3分の2以上出席し、感想文などの課題を提出すること。 試験80%、感想文の内容、ビデオの鑑賞態度等20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	歌舞伎の歴史	江戸時代から現代に至る歌舞伎の歴史について。
3	歌舞伎の特徴	歌舞伎と他の演劇との違い、歌舞伎らしさとは何か、等という点から、歌舞伎の特徴を学ぶ。
4	歌舞伎の特徴	
5	歌舞伎の登場人物	歌舞伎の登場人物の種類や特徴について。
6	歌舞伎の舞台	歌舞伎の演じられる舞台の構造と特徴について。
7	時代物と荒事	歌舞伎の時代物や荒事に見られる特徴や、代表的な演目の内容、鑑賞のポイントなどについて。
8	時代物と荒事	
9	世話物	歌舞伎の世話物に見られる特徴や、代表的な演目の内容、鑑賞のポイントなどについて。
10	世話物	
11	歌舞伎の音楽	歌舞伎で演奏される音楽の特徴について。
12	能・狂言と歌舞伎	能・狂言から作られた歌舞伎演目について。能・狂言の演目と歌舞伎演目との演じ方の違いについて。
13	能・狂言と歌舞伎	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。
14	総括・達成度の確認	

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

【履修条件等】

◇古典芸能や、演劇、ダンス、音楽などに、少しでも興味を持っている学生に履修してもらいたい。

◇日本の古い言葉で演じられる芸能を、字幕なしで鑑賞するので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習の必要はないが、能楽堂や劇場などで実際に能、狂言、歌舞伎を鑑賞した人は、感想文を提出すること。提出された感想文は、成績評価に含める。

【その他の注意事項】

◇ビデオ鑑賞することが多い授業なので、遅刻をすると他の受講生に迷惑をかけることになる。気をつけること。

文学（古典文学）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Literature	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、現代に生きるわれわれにも少なからず影響を与えている代表的な古典文学作品や、古典文学の影響を受けて書かれた近現代の小説を取り上げ、あらすじを知るとともに、その一部については原文で読み味わう。さらに、そこに描かれる昔の風俗や考え方についての講義を通して、日本人としての常識を身につけ、教養を深めることを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
和歌の歴史や用語について正しく理解する。和歌の現代語訳	和歌文学の歴史や用語を理解し、和歌を自分の言葉で現代語訳できるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
『今昔物語集』の特徴や説話の内容について正しく理解する	説話のあらすじや語句の意味、漢字の読み、説話のおもしろさのポイントなどについて正しく答えられるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
『平家物語』のあらすじを正しく理解する。『平家物語』をもとにした芸能の特徴について考察する	『平家物語』の主な登場人物や事件について正しく答えられるかどうか。『平家物語』と関連深い芸能である平曲や狂言などの特徴を説明できるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
江戸時代の文学作品のあらすじ、特徴を正しく理解する	江戸時代の文学の特徴や、あらすじ、登場人物について正しく答えられるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
評価の方法 3分の2以上出席し、レポートを提出すること。 レポート30%、試験50%、感想文などの内容・受講態度20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	言葉遊び	日本に伝わるさまざまな言葉遊びについて。
3	百人一首の恋歌	百人一首の恋歌を読み味わい、昔の人々と現代人との共通点や相違点について考察する。
4	百人一首の恋歌	
5	今昔物語集	『今昔物語集』の説話を読み、現代人との共通点や相違点について考察する。
6	今昔物語集	
7	今昔と芥川龍之介	『今昔物語集』所収話と、それをモチーフに書かれた芥川龍之介の小説『藪の中』を比較する。
8	今昔と芥川龍之介	
9	平家物語	『平家物語』のあらすじや人物関係を理解する。那須与一などの有名な場面をいくつか読み、さらに平家琵琶や『平家』の一場面を基にした狂言などの芸能を鑑賞する。
10	平家物語	
11	平家物語	
12	曽根崎心中	『曽根崎心中』のあらすじや人物関係を理解する。文楽の「曽根崎心中」をビデオで鑑賞する。
13	曽根崎心中	
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

【履修条件等】

- ◇高校時代に古典を選択していなかった人も十分受講可能だが、少なくとも文学に興味関心のある人に履修してもらいたい。
- ◇日本の古い言葉で書かれた文学作品を読むので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇前回までに勉強したことは、きちんとノート整理し、理解した上で次の授業に臨むこと。
- ◇高校時代の教科書や、辞書、事典などで、授業で取り上げる作品の概要を調べておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇レポートを一回課すが、何でもインターネットで調べて済ませようとせず、本で調べて勉強するようにしてほしい。

文学（能・狂言）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Literature	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

600年以上前から演じられ続けている日本の伝統芸能、能・狂言を取り上げ、ビデオ教材を用いながら、能・狂言の成立や歴史、他の文学作品への影響、鑑賞のポイントなどについて講義する。受講者全員で古典芸能を鑑賞に出かけることなどはしないが、個人的に鑑賞の機会を持ってくれることを期待する。

これからの国際化の時代、海外に出る機会もますます増えるだろう。諸外国の人々に、日本の伝統について堂々と説明できるようになってほしい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
能・狂言の歴史について正しい知識を身につける	能・狂言以前の芸能の歴史に始まり、形成期、大成期、近現代にいたるまでの歴史を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
能・狂言の特徴について正しい知識を身につける	能・狂言が演じられる能舞台の構造、能・狂言の登場人物に見られる特徴、衣装、大道具・小道具、セリフ、謡、舞など、現代演劇と違う特徴を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
能・狂言の演目について感想や意見を述べる	ビデオで鑑賞した能・狂言の演目について、あらすじや内容、鑑賞のポイントを理解しているかどうか。自分の言葉で感想や意見を述べることができるかどうか。集中してビデオを鑑賞できたかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
能・狂言が現代とどのようにつながっているかについて考える	能・狂言が現代まで演じ続けられていることに対して、その理由や、現代社会に与えている影響などについて、自分の言葉で意見を述べることができるかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
評価の方法 3分の2以上出席し、感想文などの課題を提出すること。 試験80%、感想文の内容、ビデオの鑑賞態度等20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	能・狂言の歴史	能・狂言誕生以前の芸能から近現代にいたるまでの能・狂言の歴史と特徴を学ぶ。
3	能・狂言の特徴	
4	狂言の登場人物	狂言の登場人物の種類や特徴について。
5	狂言の笑いの特徴	狂言の笑いの特徴と分類について。
6	狂言面や小道具	狂言面や小道具の種類や使い方について。
7	狂言の分類	狂言の曲柄による分類について。
8	能の登場人物	能の登場人物の種類や特徴について。
9	能の謡と舞	能の謡と舞の特徴と種類について。
10	能面や小道具	能面や小道具の種類や使い方について。
11	能の分類	能の曲柄による分類について。
12	能・狂言と歌舞伎	能・狂言から作られた歌舞伎演目について。能・狂言の演目と歌舞伎演目との演じ方の違いについて。
13	能・狂言と歌舞伎	
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考図書：網本尚子（訳）『角川ビギナーズクラシックス 謡曲・狂言』角川文庫
『狂言ハンドブック』三省堂
野村萬斎（著）・網本尚子（監修）『What is 狂言?』檜書店
『能って何?』新書館

【履修条件等】

- ◇古典芸能や、演劇、ダンス、音楽などに、少しでも興味を持っている学生に履修してもらいたい。
- ◇日本の古い言葉で演じられる芸能を、字幕なしで鑑賞するので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇予習の必要はないが、能楽堂や劇場などで実際に能、狂言、歌舞伎を鑑賞した人は、感想文を提出すること。提出された感想文は、成績評価に含める。

【その他の注意事項】

- ◇ビデオ鑑賞することが多い授業なので、遅刻をすると他の受講生に迷惑をかけることになる。気をつけること。

文章表現法（基礎）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。本講義では、「読む」、「書く」に関するさまざまな課題に取り組み、お互いに批評しあうことによって、表現力を高めることを目標とする。

具体的には、読みやすく、正しい文章の書き方を練習したり、新聞に出てくるレベルの漢字を練習したり、敬語の使い方を実践練習したりといった、基礎的な内容の学習を行う。大学生としてすぐに役立つ表現力や知識を身につけるよい機会であるので、真剣に取り組んでもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
練習問題を解くことによって、正しい文章の書き方を学ぶ	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題について、授業で学んだポイントをふまえた正しい答えを導き出せること。小テスト・宿題・試験で評価。	25%
日本語についての基礎知識を身につける	授業時間に、漢字や、語の正しい意味、語句の正しい用法などの練習問題に答えること。その答え方・小テスト・試験で評価。	25%
正しい敬語の使い方を覚える	尊敬語・謙譲語の正しい使い方を身につけること。生活のさまざまな場面で、正しい敬語を使いこなせるようになること。小テストと試験で評価。	25%
手紙の書き方を覚える	与えられた課題について、授業で学んだポイントをふまえ、正しい形式の手紙が書けること。提出した手紙で評価。	25%
評価の方法 3分の2以上出席し、宿題をすべて提出すること。 試験50%、課題提出や小テストの点数30%、受講態度20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	正しい文章の書き方	書き言葉と話し言葉の違い、正しい文体の選び方、助詞の使い方、語句の対応のさせ方、明確な修飾語の書き方、正しい読点の打ち方など、文章を書く上での基本事項を、練習問題に取り組むことで学ぶ。
3	正しい文章の書き方	
4	正しい文章の書き方	
5	正しい文章の書き方	
6	日本語の知識	難読漢字、四字熟語、慣用句、ことわざなどの基本的な日本語の知識を、練習問題に取り組むことで学ぶ。
7	日本語の知識	
8	日本語の知識	
9	敬語の使い方	敬語の種類や使い方の基本的な知識を、練習問題に取り組むことで学ぶ。さらに、具体的な日常の場面における敬語の使い方の実践的練習を行う。
10	敬語の使い方	
11	敬語の使い方	
12	敬語の使い方	
13	手紙の書き方	手紙の基本的な形式や、ルールについて学び、礼状や近況報告の手紙などを実際を書く。
14	手紙の書き方	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。

◇指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇出席回数が全体の3分の2に満たない者は受験停止とする。

◇授業に出席するだけでなく、実際に文章を書くことが勉強である。練習問題や課題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

文章表現法（実践）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。本講義では、主に「書く」ことに重点を置き、さまざまな課題に取り組み、お互いに批評しあうことによって、表現力を高めることを目標とする。

具体的には、読みやすく、正しい文章の書き方を練習問題を通して身につけ、その知識、技術を踏まえて、描写文、エッセイ、小論文、レポートなどを書いていく。大学生としてすぐに役立つ表現力や知識を身につけるよい機会であるので、真剣に取り組んでもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
読みやすい文章の書き方を身につける	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力しているかどうか。また、小テストや宿題の問題について、授業で学んだポイントをふまえた正しい答えを導き出せるかどうか。小テスト、提出課題の内容、試験で評価する。	25%
明確な文章が書けるようになる	何を述べたいのかが、読者に明確に伝わるように文章が書けたかどうか。提出された課題の内容で評価する。	30%
それぞれの文章の特徴を踏まえた、適切な文章が書けるようになる	レポート、小論文、エッセイなどが、それぞれどのような目的で書かれる文章なのかが正しく理解できているかどうか。形式に適った文章が書けたかどうか。提出された課題の内容、試験で評価する。	30%
誤字脱字のない、正確で読みやすい文章が書けるようになる	下書き、推敲の手順を踏まえて課題を書いているかどうか。誤字脱字に気をつけて書けたかどうか。提出された課題の内容で評価する。	15%
評価の方法 3分の2以上出席し、宿題をすべて提出すること。 試験30%、レポート・手紙などの課題の評価50%、受講態度20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	文章の書き方	練習問題に取り組み、文法的に正しく、読みやすく、明確な文章の書き方について学ぶ。
3	文章の書き方	
4	自己紹介文	読者に強くアピールできるような自己紹介文を書く。
5	メールの書き方	失礼のないメールの書き方を学ぶ。
6	さまざまな文章	エッセイや描写文など、さまざまな文章課題に取り組んで、文章力を磨く。
7	さまざまな文章	
8	小論文	小論文の基本的な構成や、書き方について学び、課題文型小論文とテーマ型小論文を書く。
9	小論文	
10	小論文	
11	レポート	レポートとは何かを正しく認識し、その基本的な形を身につけ、論理的な文章の書き方、用語について知識を深める。 与えられた課題について、自分で資料をさがし、実際にレポートを書く。
12	レポート	
13	レポート	
14	レポート	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇いわゆる留学生向けの日本語の授業ではなく、日本語を十分に習得できている人向けの応用的な内容であるので、とくに留学生は、自分の日本語能力を考慮した上で受講してほしい。日本語の応用力が不足している留学生には、「文章表現法（基礎）」の履修をすすめる。また、提出課題の多い授業なので、日本人学生の場合も、国語力に自信のない人は、よく考えてから受講してほしい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。
指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇出席回数が全体の3分の2に満たない者は受験停止とする。
◇授業に出席するだけでなく、実際に文章を書くことが勉強である。練習問題や課題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

文章表現法（総合）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。本講義では、ひとりひとりが「読む」、「書く」に関するさまざまな課題に取り組み、お互いに批評しあうことによって、表現力を高めることを目標とする。

具体的には、練習問題を解いて添削指導を受けたり、与えられた課題について実際に自分で調査し、考えをまとめて短いレポートを作成したり、現実の場面に即した敬語の使い方を実践練習したり、といった学習を行う。大学生としてすぐに役立つ表現力や知識を身につけるよい機会であるので、真剣に取り組んでもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
練習問題を解くことによって、正しい文章の書き方を学ぶ	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題について、授業で学んだポイントをふまえた正しい答えを導き出せること。	10%
日本語についての基礎知識を身につける	授業時間に、漢字や、語の正しい意味、語句の正しい用法などの練習問題に答えること。その答え方と試験で評価。	10%
レポート・小論文の書き方を覚える	与えられた課題について、授業で学んだポイントをふまえ、正しい形式のレポートが書けること。レポートと試験で評価。	30%
正しい敬語の使い方を覚える	尊敬語・謙譲語の正しい使い方を身につけること。生活のさまざまな場面で、正しい敬語を使いこなせるようになること。試験で評価。	30%
手紙の書き方を覚える	与えられた課題について、授業で学んだポイントをふまえ、正しい形式の手紙が書けること。提出した手紙と試験で評価。	20%
評価の方法 3分の2以上出席し、宿題をすべて提出すること。 試験50%、レポート・手紙などの課題の評価30%、受講態度20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	正しい文章の書き方	練習問題に取り組み、文法的に正しく、読みやすく、明確な文章の書き方について学ぶ。
3	正しい文章の書き方	
4	正しい文章の書き方	
5	日本語の基礎知識	難読漢字、四字熟語、慣用句、ことわざなどの練習問題に取り組む。
6	日本語の基礎知識	
7	レポートの書き方	レポートとは何かを正しく認識し、基本的な形を身につけ、論理的な文章の書き方、用語について知識を深める。 与えられた資料に基づいて、実際にレポートを書く。
8	レポートの書き方	
9	レポートの書き方	
10	レポートの書き方	
11	敬語の使い方	敬語の種類や使い方について、練習問題を用いて学び、身につける。
12	敬語の使い方	
13	手紙の書き方	手紙の基本的な形式や、ルールについて学び、礼状や近況報告の手紙などを実際に書く。
14	手紙の書き方	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇いわゆる留学生向けの日本語の授業ではなく、日本語を十分に習得できている人向けの応用的な内容であるので、留学生の受講希望者は、自分の日本語能力を考慮した上で受講してほしい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。
- ◇指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇出席回数が全体の3分の2に満たない者は受験停止とする。
- ◇授業に出席するだけでなく、実際に文章を書くことが勉強である。練習問題や課題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

文章表現法（漢検）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。そのためには、日常的に使う漢字に関する知識は絶対に必要なものと考えられる。本講義では、漢字検定2級の問題に取り組むことにより、大学生にとって必要な漢字の知識を身につけ、それを使いこなせるようになることを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
準2級、2級に配当された漢字の読みを覚える	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題に積極的に取り組むこと。小テスト・宿題・試験で評価。	30%
出題予想漢字を分野別に学び、正しい知識を身につける	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題に積極的に取り組むこと。小テスト・宿題・試験で評価。	30%
特殊な読みや当て字など、難読漢字について学ぶ	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題に積極的に取り組むこと。小テスト・宿題・試験で評価。	20%
模擬試験に取り組む、出題形式に慣れる	間違えた問題は何度も繰り返し復習し、知識が定着するよう努力すること。試験で評価。	20%
評価の方法 3分の2以上出席し、宿題をすべて提出すること。 試験70%、小テストの点数、受講態度30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	漢字の読み	漢字の音読みを中心に練習問題に取り組む。
3	漢字の読み	漢字の訓読みを中心に練習問題に取り組む。
4	漢字の部首	練習問題を解くことで、主な漢字の部首を覚える。
5	熟語の構成	熟語の構成のしかたを理解する。
6	熟語の構成	与えられた漢字を用いて、熟語を作れるようになる。
7	対義語・類義語	対義語、類義語の関係を理解する。
8	四字熟語	四字熟語の組み立てを理解する。
9	四字熟語	練習問題を解くことで、主な四字熟語を覚える。
10	送り仮名	送り仮名のルールを理解する。
11	同音同訓異字	練習問題を解くことで、同音同訓異字を覚える。
12	書き取り	正確に漢字が書けるようになる。
13	書き取り	誤字訂正ができるようになる。
14	模擬試験	本番の形式で模擬問題を解き、自分の弱点を理解する。
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇留学生向けの日本語の授業ではなく、日本人向けの「日本漢字能力検定（漢検）」2級合格を目指す授業なので、留学生にはかなり難しい内容である。自分の日本語能力を考慮した上で受講してほしい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。

◇指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇出席回数が全体の3分の2に満たない者は受験停止とする。

◇授業に出席するだけでなく、実際に漢字を覚えることが勉強である。練習問題や宿題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

生命科学（春学期）	フルタ レイコ 古田 玲子
Life Science	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

ヒトと他の生物との共通点と相違点、がん、若者に蔓延している Sexually Transmitted Infection（S T I：性感染症）、人獣共通感染症、有害物質、生物毒、臓器移植、生殖医療および生物の多様性について学び、生命現象を理解し、健康を維持するために必要な知識を養うことを目的としています。最先端の研究や最近の話題を取り入れながら判りやすく解説していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
生物学および医学的な基礎知識を学ぶ	本試験で評価する。人間と他の生物の共通点と相違点、人体の臓器と機能、細胞についての設問に答えられること。	30%
病気の原因、予防について基礎的な知識を学ぶ	本試験で評価する。がん、S T I、人獣共通感染症、有害物質、有害生物について理解していること。病気の予防についての知識が習得できていること。	40%
生命科学全般について理解を深め生命倫理、生物多様性についての意義を考える	本試験で評価する。生命科学に関する資料を読み、正確に理解し、意見が述べられるか。生命科学について、基礎的な知識を習得した上で、臓器移植、生殖医療および生物の多様性について、考えることができること。	10%
生命科学に関する資料を正確に理解した上で、自分の意見を述べるができる	レポートで評価する。生命科学に関する興味のあるテーマについて、レポートにまとめる。正確に理解し、まとめることができること。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提とし、本試験80%とレポート20%で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業内容の説明およびレポートの作成方法について学ぶ
2	人体の構造と機能	臓器、組織、細胞、遺伝子について学ぶ
3	ヒトと他生物の共通点と相違点	ヒトとイヌ、マウスなどの哺乳類、鳥類、爬虫類、魚類、両生類などの他の生物との共通点と相違点について学ぶ
4	腫瘍についての基礎的知識	腫瘍の発生と遺伝子異常、良性腫瘍と悪性腫瘍（がん）のちがい、原因と予防および検査法について学ぶ
5	早期がんと進行がん	がんの進行度と治療法、予後について学ぶ
6	各臓器のがん①	肺がんについて学ぶ
7	各臓器のがん②	胃がん、大腸がんなどの消化器がんについて学ぶ
8	各臓器のがん③	乳がん、子宮がん（子宮頸がん、子宮体がん）について学ぶ
9	各臓器のがん④	皮膚がんなど、その他のがんについて学ぶ
10	S T I について①	エイズについて学ぶ
11	S T I について②	ヒトパピローマウイルス（HPV）感染症、梅毒、クラミジア感染症など、S T I の原因、症状、予防および治療について学ぶ
12	有害物質と生物毒	タバコ、麻薬、アスベストなどの有害物質と毒のある生物について学ぶ
13	人獣共通感染症・動物が媒介する感染症	B S E、狂犬病、インフルエンザ、デング熱、エキノコックスなどの人獣共通感染症や動物が媒介する感染症について学ぶ
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考資料と用語集を配布する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇生命科学に関することで話題になっていることの情報収集。

【その他の注意事項】

◇授業に集中し、疑問点は積極的に質問してください。

生命科学（秋学期）	フルタ レイコ 古田 玲子
Life Science	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

ヒトと他の生物との共通点と相違点、がん、若者に蔓延している Sexually Transmitted Infection（S T I：性感染症）、人獣共通感染症、有害物質、生物毒、臓器移植、生殖医療および生物の多様性について学び、生命現象を理解し、健康を維持するために必要な知識を養うことを目的としています。最先端の研究や最近の話題を取り入れながら判りやすく解説していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
生物学および医学的な基礎知識を学ぶ	本試験で評価する。人間と他の生物の共通点と相違点、人体の臓器と機能、細胞についての設問に答えられること。	30%
病気の原因、予防について基礎的な知識を学ぶ	本試験で評価する。がん、S T I、人獣共通感染症、有害物質、有害生物について理解していること。病気の予防についての知識が習得できていること。	40%
生命科学全般について理解を深め生命倫理、生物多様性についての意義を考える	本試験で評価する。生命科学に関する資料を読み、正確に理解し、意見が述べられるか。生命科学について、基礎的な知識を習得した上で、臓器移植、生殖医療および生物の多様性について、考えることができること。	10%
生命科学に関する資料を正確に理解した上で、自分の意見を述べるができる	レポートで評価する。生命科学に関する興味のあるテーマについて、レポートにまとめる。正確に理解し、まとめることができること。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提とし、本試験80%とレポート20%で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業内容の説明およびレポートの作成方法について学ぶ
2	人体の構造と機能	臓器、組織、細胞、遺伝子について学ぶ
3	ヒトと他生物の共通点と相違点	ヒトとイヌ、マウスなどの哺乳類、鳥類、爬虫類、魚類、両生類などの他の生物との共通点と相違点について学ぶ
4	腫瘍についての基礎的知識	腫瘍の発生と遺伝子異常、良性腫瘍と悪性腫瘍（がん）のちがい、原因と予防および検査法について学ぶ
5	早期がんと進行がん	がんの進行度と治療法、予後について学ぶ
6	各臓器のがん①	肺がんについて学ぶ
7	各臓器のがん②	胃がん、大腸がんなどの消化器がんについて学ぶ
8	各臓器のがん③	乳がん、子宮がん（子宮頸がん、子宮体がん）について学ぶ
9	各臓器のがん④	皮膚がんなど、その他のがんについて学ぶ
10	S T I について①	エイズについて学ぶ
11	S T I について②	ヒトパピローマウイルス（HPV）感染症、梅毒、クラミジア感染症など、S T I の原因、症状、予防および治療について学ぶ
12	S T I について③	S T I について重要なポイントを確認する
13	有害物質と生物毒	タバコ、麻薬、アスベストなどの有害物質と毒のある生物について学ぶ
14	人獣共通感染症・動物が媒介する感染症	B S E、狂犬病、インフルエンザ、デング熱、エキノコックスなどの人獣共通感染症や動物が媒介する感染症について学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考資料と用語集を配布する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇生命科学に関すること話題になっていることの情報収集。

【その他の注意事項】

◇授業に集中し、疑問点は積極的に質問してください。

国際関係論（春学期）	クロサワ アイミ 黒澤 愛美
International Relations	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

まず、国際関係とは何かというところから始めて、国際関係論の基礎知識を身につけます。そして、その基礎知識を元に、現代の国際社会が抱える諸問題を議論します。現代の国際社会には数多くの問題がありますが、この授業は、日本で活動する国際人として知っておくべき問題を優先して扱います。問題の現状理解にとどまらず、経緯や今後の課題まで追究します。また、関連する時事ニュースも積極的に取り上げます。基本的に講義形式で進みますが、国際問題について自分なりに考える機会が頻繁に与えられます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
国際関係論の基礎知識がある	設問に対する回答によって評価。 授業で学習した内容について、指定された用語を用いながら論理的に記述できること。	10%
国際関係史の大きな流れを理解している	設問に対する回答によって評価。 授業で学習した内容について、重要事項を押さえながら簡潔に記述できること。	20%
国際問題の概要を理解している	設問に対する回答によって評価。 授業で学習した国際問題について、重要事項を押さえながら論理的に記述できること。	20%
国際問題を議論することができる	設問に対する回答によって評価。 授業で学習した国際問題について、自分の主張を論理的かつ説得的に記述できること。	50%
評価の方法 3分の2以上の出席を前提として授業中の課題50%、期末試験50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業ガイダンス、国際関係とは何か
2	国際関係論の基礎知識	国際関係の主体、グローバリゼーション
3	国際関係史	第一次世界大戦、第二次世界大戦
4	国際関係史	冷戦期の国際社会
5	国際関係史	国共内戦、朝鮮戦争
6	国際関係史	冷戦後の国際社会
7	国際問題	歴史問題
8	国際問題	日韓歴史問題
9	国際問題	領土問題
10	国際問題	安全保障、軍事
11	国際問題	経済、貿易
12	国際問題	環境、エネルギー
13	国際問題	人権
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇配布資料を使用します。

【履修条件等】

◇初回に必ず出席してください。

◇受講マナーを守り、ほかの受講者に迷惑を掛ける行動は慎んでください。

◇板書の撮影を禁止します。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇普段からインターネットやテレビで国際ニュースを見るように心掛けましょう。

【その他の注意事項】

◇国際情勢に鑑みて、授業計画を変更することがあります。

国際関係論（秋学期）	クロサワ アイミ 黒澤 愛美
International Relations	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

まず、国際関係とは何かというところから始めて、国際関係論の基礎知識を身につけます。そして、その基礎知識を元に、現代の国際社会が抱える諸問題を議論します。現代の国際社会には数多くの問題がありますが、この授業は、日本で活動する国際人として知っておくべき問題を優先して扱います。問題の現状理解にとどまらず、経緯や今後の課題まで追究します。また、関連する時事ニュースも積極的に取り上げます。基本的に講義形式で進みますが、国際問題について自分なりに考える機会が頻繁に与えられます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
国際関係論の基礎知識がある	設問に対する回答によって評価。 授業で学習した内容について、指定された用語を用いながら論理的に記述できること。	10%
国際関係史の大きな流れを理解している	設問に対する回答によって評価。 授業で学習した内容について、重要事項を押さえながら簡潔に記述できること。	20%
国際問題の概要を理解している	設問に対する回答によって評価。 授業で学習した国際問題について、重要事項を押さえながら論理的に記述できること。	20%
国際問題を議論することができる	設問に対する回答によって評価。 授業で学習した国際問題について、自分の主張を論理的かつ説得的に記述できること。	50%
評価の方法 3分の2以上の出席を前提として授業中の課題50%、期末試験50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業ガイダンス、国際関係とは何か
2	国際関係論の基礎知識	国際関係の主体、グローバリゼーション
3	国際関係史	第一次世界大戦、第二次世界大戦
4	国際関係史	冷戦期の国際社会
5	国際関係史	国共内戦、朝鮮戦争
6	国際関係史	冷戦後の国際社会
7	国際問題	歴史問題
8	国際問題	日韓歴史問題
9	国際問題	領土問題
10	国際問題	安全保障、軍事
11	国際問題	経済、貿易
12	国際問題	環境、エネルギー
13	国際問題	人権
14	国際問題	そのほかの国際問題、授業の補足
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇配布資料を使用します。

【履修条件等】

◇初回に必ず出席してください。

◇受講マナーを守り、ほかの受講者に迷惑を掛ける行動は慎んでください。

◇板書の撮影を禁止します。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇普段からインターネットやテレビで国際ニュースを見るように心掛けましょう。

【その他の注意事項】

◇国際情勢に鑑みて、授業計画を変更することがあります。

統計学（春学期）	マツモト ユウキ 松本 勇樹
Statistics	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

人間が生きていくうえではあらゆる局面で意思決定をしなければならない。経験やカン
のみに頼って意思決定を行うと誤った意思決定を行う場合が多い。そこで客観的に測定さ
れた数値を用いることによって正しい意思決定を行うことができるようになる。本講義で
はビジネスで使用する数字や統計の感覚を養うことを持徳的とする。概算や四捨五入など
の基本から初めて、割合や変化の仕組みを学ぶ。その後、記述統計学と多変量解析の中か
ら、身近なデータを使用して、統計の考え方について理解する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
数字の感覚を養う	設問に対する回答によって評価する。与えられた問題に対して正しい計算ができるかを評価する。	30%
データを整理する	設問に対する回答によって評価する。与えられた問題に対して決められた基準に従って、データを正しく分類することができるかを評価する。	20%
統計計算を行う	設問に対する回答によって評価する。与えられた問題に対して、正しい計算を行い、その結果からどのようなことが分かるかを評価する。	50%
評価の方法 50%以上の出席を前提として、授業内課題15%、小テスト15%、期末試験70%の合計点で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	本講義のテーマ、目的・概要、講義方針等を確認する 併せて、シラバスに基づく具体的な講義内容を説明する
2	概算と電卓の操作方法	電卓の操作方法を確認するとともに、データを概算で扱う感覚を養う
3	比率	数値を比較するための手法として比率の考え方を習得する
4	変化(1)	指数と倍率について理解する
5	変化(2)	変化率について理解する
6	度数分布	収集したデータを分類し、度数分布表とヒストグラムを作成する
7	代表値	平均とメディアンについて理解する
8	散らばりの代表値(1)	偏差の概念から、標準偏差について理解する
9	小テスト(1)	標準偏差の演習を行い、小テストを実施する
10	標準化・変動係数	平均・標準偏差が異なる2つの分布に属するデータを比較する
11	散布図	2つの変数にどのような関係があるのか散布図を用いて把握する
12	相関係数	2つの変数の関係を1つの数値で表す
13	小テスト(2)	相関係数の復習を行い、小テストを実施する
14	正規分布	代表的な分布である正規分布の性質とその利用法について学ぶ

【使用教材】

◇配布資料を使用する。

【履修条件等】

◇継続して受講しないと理解度は高まらないので、休まず出席すること。

√機能がっている12桁以上の電卓を必ず持参すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配布資料に記載されている問題を必ず解くこと。

【その他の注意事項】

◇繰り返し解説を行うので、数学や計算に対しての過度な恐怖心や思い込みをしないで講義に参加してほしい。

統計学（秋学期）	マツモト ユウキ 松本 勇樹
Statistics	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

人間が生きていくうえではあらゆる局面で意思決定をしなければならない。経験やカン
のみに頼って意思決定を行うと誤った意思決定を行う場合が多い。そこで客観的に測定さ
れた数値を用いることによって正しい意思決定を行うことができるようになる。本講義で
はビジネスで使用する数字や統計の感覚を養うことを持徳的とする。概算や四捨五入など
の基本から初めて、割合や変化の仕組みを学ぶ。その後、記述統計学と多変量解析の中か
ら、身近なデータを使用して、統計の考え方について理解する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
数字の感覚を養う	設問に対する回答によって評価する。与えられた問題に対して正しい計算ができるかを評価する。	30%
データを整理する	設問に対する回答によって評価する。与えられた問題に対して決められた基準に従って、データを正しく分類することができるかを評価する。	20%
統計計算を行う	設問に対する回答によって評価する。与えられた問題に対して、正しい計算を行い、その結果からどのようなことが分かるかを評価する。	50%
評価の方法 50%以上の出席を前提として、授業内課題15%、小テスト15%、期末試験70%の合計点で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	本講義のテーマ、目的・概要、講義方針等を確認する併せて、シラバスに基づく具体的な講義内容を説明する
2	概算と電卓の操作方法	電卓の操作方法を確認するとともに、データを概算で扱う感覚を養う
3	比率	数値を比較するための手法として比率の考え方を習得する
4	変化(1)	指数と倍率について理解する
5	変化(2)	変化率について理解する
6	度数分布	収集したデータを分類し、度数分布表とヒストグラムを作成する
7	代表値	平均とメディアンについて理解する
8	散らばりの代表値(1)	偏差の概念から、標準偏差について理解する
9	小テスト(1)	標準偏差の演習を行い、小テストを実施する
10	標準化・変動係数	平均・標準偏差が異なる2つの分布に属するデータを比較する
11	散布図	2つの変数にどのような関係があるのか散布図を用いて把握する
12	相関係数	2つの変数の関係を1つの数値で表す
13	小テスト(2)	相関係数の復習を行い、小テストを実施する
14	正規分布	代表的な分布である正規分布の性質とその利用法について学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇配布資料を使用する。

【履修条件等】

◇継続して受講しないと理解度は高まらないので、休まず出席すること。

√機能がっている12桁以上の電卓を必ず持参すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配布資料に記載されている問題を必ず解くこと。

【その他の注意事項】

◇繰り返し解説を行うので、数学や計算に対しての過度な恐怖心や思い込みをしないで講義に参加してほしい。

就職特講	ノザワ マキコ 野沢 牧子
Special Seminar for Job Seeking	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

長期化する厳選採用と働き方の多様化に伴い、大学生の就職環境は厳しい状況にあります。本講義では、履歴書やエントリーシートの書き方、業界・企業・職種研究、筆記試験・面接・グループワーク対策など、就職に直接役立つ知識の習得と演習を進めていきます。業界研究セミナーや内定者報告会等も実施し、臨場感ある準備講座を展開します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本企業における雇用慣行、就職活動の仕組み、基本的なワークルールについて理解する	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
「働くこと」への理解を深め、社会人としてのふるまい、言動、マナーを身につける	出席態度、講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	40%
自己理解・自己分析を深めるとともに、数多くある選択肢の中から、自らの職業適性を知る	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
さまざまな就職試験に対応する力を身につける	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
評価の方法 職業意識の形成と卒業後の社会人基礎力の向上を目的とすることから、出席評価（取り組み姿勢・参加態度含む）70%、レポートおよび提出物評価30%。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	就職活動の現状の理解	就職活動を始めるにあたって考えるべきこと（雇用環境とデータで見る学卒者就職の現状、正規・非正規雇用の生涯賃金等）
2	自己分析Ⅰ	自分史の作成、SPIについて
3	自己分析Ⅱ	自分の志向と適正を考える、学生時代に頑張ったこと
4	自己PRのしかたⅠ	社会人基礎力から強みを考える、自己PR
5	自己PRのしかたⅡ	自己紹介書の完成
6	キャリア情報交流会	OBOGの話から、仕事のやりがいや職業を知る
7	志望先の選定Ⅰ	就職の軸
8	志望先の選定Ⅱ	業界、職種理解
9	志望先の選定Ⅲ	業界情報の捉え方、情報の取捨選択について、求人票の見方
10	合同企業説明会	合同企業説明会
11	志望動機の完成	想定業界、企業での作成
12	選考への対策Ⅰ	多様なESへの対応
13	選考への対策Ⅱ	面接対策、マナー
14	選考への対策Ⅲ	グループディスカッション対策
15	活動計画策定・発表	履歴書・就職の軸・活動計画の策定最終確認

【使用教材】

◇とくになし。講義資料およびワークシートは随時配布する。

【履修条件等】

◇3年生で民間企業への就職を考えている学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇業界研究においては、事前に web、新聞、書籍等を通じた情報収集を要請することがある。

◇事前にワークシートを配布し、次回講義までに記入してくる課題を提示することがある。

【その他の注意事項】

◇本講義においては、知識や経験の蓄積や振り返りを重視するため、1度の欠席が大きなハンデとなることもあるので留意されたい。

就職特講	ミヤジ ユカ 宮地 由夏
Special Seminar for Job Seeking	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

長期化する厳選採用と働き方の多様化に伴い、大学生の就職環境は厳しい状況にあります。本講義では、履歴書やエントリーシートの書き方、業界・企業・職種研究、筆記試験・面接・グループワーク対策など、就職に直接役立つ知識の習得と演習を進めていきます。業界研究セミナーや内定者報告会等も実施し、臨場感ある準備講座を展開します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本企業における雇用慣行、就職活動の仕組み、基本的なワークルールについて理解する	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
「働くこと」への理解を深め、社会人としてのふるまい、言動、マナーを身につける	出席態度、講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	40%
自己理解・自己分析を深めるとともに、数多くある選択肢の中から、自らの職業適性を知る	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
さまざまな就職試験に対応する力を身につける	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
評価の方法 職業意識の形成と卒業後の社会人基礎力の向上を目的とすることから、出席評価（取り組み姿勢・参加態度含む）70%、レポートおよび提出物評価30%。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	就職活動の現状の理解	就職活動を始めるにあたって考えるべきこと（雇用環境とデータで見る学卒者就職の現状、正規・非正規雇用の生涯賃金等）
2	自己分析Ⅰ	自分史の作成、SPIについて
3	自己分析Ⅱ	自分の志向と適正を考える、学生時代に頑張ったこと
4	自己PRのしかたⅠ	社会人基礎力から強みを考える、自己PR
5	自己PRのしかたⅡ	自己紹介書の完成
6	キャリア情報交流会	OBOGの話から、仕事のやりがいや職業を知る
7	志望先の選定Ⅰ	就職の軸
8	志望先の選定Ⅱ	業界、職種理解
9	志望先の選定Ⅲ	業界情報の捉え方、情報の取捨選択について、求人票の見方
10	合同企業説明会	合同企業説明会
11	志望動機の完成	想定業界、企業での作成
12	選考への対策Ⅰ	多様なESへの対応
13	選考への対策Ⅱ	面接対策、マナー
14	選考への対策Ⅲ	グループディスカッション対策
15	活動計画策定・発表	履歴書・就職の軸・活動計画の策定最終確認

【使用教材】

◇とくになし。講義資料およびワークシートは随時配布する。

【履修条件等】

◇3年生で民間企業への就職を考えている学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇業界研究においては、事前に web、新聞、書籍等を通じた情報収集を要請することがある。

◇事前にワークシートを配布し、次回講義までに記入してくる課題を提示することがある。

【その他の注意事項】

◇本講義においては、知識や経験の蓄積や振り返りを重視するため、1度の欠席が大きなハンデとなることもあるので留意されたい。

就職特講（留学生対象）	イトカワ ユウ 糸川 優
Special Seminar for Job Seeking	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

卒業後に、日本で働くことを希望する留学生が対象。

働くことの意味、どのような働き方が望ましいかを考え、自分に合った企業探し、就職活動のしくみを扱う。

エントリーシートや面接のための準備をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本の就職事情を学び、活動計画を立てる	日本の就職事情を学んで就職活動のしくみと流れを理解する。それに沿っていま何をしなければならないかを考え、活動計画を立てる。課題などをもとに評価する。	40%
日本の企業、業種、職種を研究する	日本の業種、職種を理解し、企業研究の方法を身につけているかどうかを、課題などをもとに評価する。	30%
具体的な就職活動の準備をする	就職活動のためにすべきことを理解し、準備をする。課題などをもとに評価する。	30%
評価の方法 授業参加度20%、協働作業への貢献度10%、課題45%、口頭表現25%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	
2	ガクチカ	特性とエピソード
3	企業とのマッチング	希望する企業とアピールポイント
4	アウトライン・草稿	
5	F B	
6	F B	
7	口頭表現練習	時間内での口頭表現
8	中間テスト	口頭試験
9	面接	面接の種類とビジネスマナー
10	ディスカッションとは	よいディスカッションの条件、動画視聴
11	ディスカッション1	ディスカッションの実際とF B
12	ディスカッション2	ディスカッションの実際とF B
13	予備日	
14	働く人の権利と義務	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇適宜プリントを配布する。

【履修条件等】

◇日本で就職を希望する留学生で、3年生が対象（それ以外は受け入れない）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇あらかじめ配布したものがあある場合には、予習をしておくこと。

【その他の注意事項】

◇積極的な参加を求める。

就職特講（留学生対象）	コバヤシ ヒロノリ 小林 寛典
Special Seminar for Job Seeking	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

卒業後に日本での就職を希望する留学生は年々多くなっています。本格的な就職活動が始まる3年生の3月までに円滑な就職活動が行えるようさまざまな準備をしておく必要があります。

この授業では留学生に日本特有の就職事情を紹介すると同時に、日本の企業に就職するためにどんな能力が必要で何を準備しておけばいいのかを具体的に示し、3月から迷いなく活動ができるようサポートします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本の就職事情を学び、活動計画を立てる	具体的な活動計画を立てることができるか、課題などをもとに評価する。	40%
日本の企業、業種、職種を研究する	さまざまな業種、職種を理解し、企業研究の方法を身につけていくかどうかを課題などで評価する。	30%
具体的な就職活動の準備をする	就職するために何をしなければならないかを理解し、方法を身につけたかどうかを課題などで評価する。	30%
評価の方法 授業への参加姿勢、課題、期末課題を総合的に評価する。 学期の3分の1を超えて欠席した場合、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業内容と授業の進め方についての説明
2	日本の就職習慣を学ぶ①	・日本の就職活動のしくみと流れ ・就職とアルバイトの違い
3	日本の就職習慣を学ぶ②	・インターンシップとは
4	企業研究、職業研究①	・日本の企業が求める人材
5	企業研究、職業研究②	・職種と業種、職業適性
6	企業研究、職業研究③	・企業の選び方、業界研究と企業研究
7	企業研究、職業研究④	・資格と日本語能力
8	具体的な準備①	・情報の調べ方（求人票、ハローワーク、就活ナビ）
9	具体的な準備②	・敬語とビジネスマナー
10	具体的な準備③	・履歴書、エントリーシート、メールの書き方
11	具体的な準備④	・面接、グループディスカッション対策
12	就職活動の現実①	・先輩の経験談を聞く「内定者報告会」
13	就職活動の現実②	・在留資格（ビザ）について
14	就職活動の現実③	・活動計画の確認
15	総括、達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する。

【使用教材】

◇とくになし。必要に応じて資料を配布します。

【履修条件等】

◇3年生で日本の民間企業への就職を考えている留学生は必ず履修してください。

進路が未定でも、日本での就職の可能性があれば、履修を強く勧めます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇各学習項目を学ぶに際し、情報収集をしたり、活動計画を立ててまとめたりする課題が課されます。事前学習をしなければ、授業内容を十分に理解できないことがあるので、必ず準備をしてください。

【その他の注意事項】

◇上記の授業計画は、受講人数や大学内行事日程などを勘案して変更することがあります。

コンピュータ・サイエンス	エザキ カズオ 江崎 和夫
Computer Science	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

社会においては、コンピュータを使って仕事を行うことが増えています。また、本学においてさまざまな科目を学習していくための基礎としてコンピュータを理解し、操作できることは重要です。そこで本科目は、ビジネス文書や、ビジネスデータの加工などができるコンピュータリテラシーのスキル（技能）を身につけることを目指します。そのために、パソコンの基本ソフト（OS）である Windows の基本的な操作を学習した後、ワープロソフトの Microsoft Word を使った日本語文書の作成、表計算ソフトの Microsoft Excel を使った表計算処理やグラフの作成、プレゼンテーションソフトの Microsoft Powerpoint を使った発表用資料の作成などについて、実践的な演習を行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コンピュータを活用するために必要な基礎知識を理解していること	操作の習熟度を課題の作成によって評価。OS の使い方やファイルやフォルダの管理等が適切に行えること。ブラウザや検索エンジンを使って適切な情報を検索することができる。	10%
ワープロソフトでビジネス文書やチラシなどを作成するスキルを身につけていること	操作の習熟度を課題の作成によって評価。文字のタイピングおよび Word を使ってビジネス文書やビジュアル資料を作成できる操作や設定を行うことができる。表や画像を利用して効果的な文書をレイアウトできる。	30%
表計算ソフトの基本を理解し、関数を活用したデータ処理やグラフの作成ができること	操作の習熟度を課題の作成によって評価。Excel を操作してワークシートの編集を行い、データにあった関数を適切に活用した表計算ができること、用途に合わせた適切なグラフを作成できること。	30%
プレゼンテーションソフトを使って効果的な発表資料が作成できること	操作の習熟度を課題の作成によって評価。プレゼンテーションソフトの Powerpoint を使って、画像やアニメーションを効果的に活用して発表資料を作成することができる。	10%
評価の方法 3分の2以上の出席を前提として、授業参画度20%、課題の演習40%、試験40%の割合で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、学内 P C の利用方法、タイピング実習
2	コンピュータの基本操作	Windows の基本、インターネットの使い方と活用方法
3	Word の操作演習 1	文字の入力方法、ファイルの操作、ページ設定
4	Word の操作演習 2	書式設定、編集、文字の装飾、表（罫線）の活用
5	Word の操作演習 3	画像等を活用したビジュアルな文書の作成
6	Word の操作演習 4	ビジネス文書を作成する総合演習
7	Excel の操作演習 1	基本的なワークシート編集、関数の基本
8	Excel の操作演習 2	表と罫線、グラフの作成
9	Excel の操作演習 3	関数（IF、RANK 等）、ソート
10	Excel の操作演習 4	関数（VLOOKUP、COUNTIF 等）、フィルタ
11	Powerpoint の操作演習 1	スライド作成、文字や画像の活用
12	Powerpoint の操作演習 2	図形、Smartart を活用したビジュアル資料作成
13	総合演習	総合演習課題を使った習熟度の確認
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇『Word & Excel 2016 基本技』技術評論社

【履修条件等】

◇コンピュータの初心者を対象としているので、履修条件はとくにない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業の最後に事前学習の指示をするので、教科書の該当ページを読むとともに、事前学習課題を作成してください。

【その他の注意事項】

◇演習を通じて習熟度を上げる必要があるため、全回出席が基本である。遅刻は 2 回で欠席 1 回とする。全授業の 3 分の 1（5 回）欠席した場合は、単位が認められない。

コンピュータ・サイエンス	クロキ ヒロシ 黒木 弘司
Computer Science	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

現代では大企業は言うに及ばず、ほとんどの企業や大学にはコンピュータが取り入れられ、その多くで Microsoft 社の Word、Excel、PowerPoint が文書の作成やプレゼンテーション資料に使用されています。本講義では、今後使用する機会が増える Word や Excel、PowerPoint による文書の作成や表計算、プレゼンテーション資料の作成について、実習を通して基本的な操作方法を習得することを目的とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
Microsoft Word の基本操作を理解し、分かりやすい文書の作成ができる	実技試験によって評価。 Microsoft Word を使用した基本的な文章の作成ができ、グラフィックや表などを使った分かりやすい文書の作成ができること。	30%
Microsoft Excel の基本操作を理解し、表の作成やデータの操作、グラフの作成ができる	実技試験によって評価。 Microsoft Excel を使用した基本的なデータの入力や表の作成、関数の使用ができ、用途に合わせたグラフの選定やデータの操作ができること。	40%
Microsoft PowerPoint の基本操作を理解し、効果的なプレゼンテーション資料の作成ができる	実技試験によって評価。 Microsoft PowerPoint を使用して図形や SmartArt グラフィックを使った基本的なプレゼンテーション資料の作成ができ、発表方法に合わせて画面切り替えやアニメーションを効果的に用いることができること。	20%
Microsoft Word、Excel、PowerPoint で作成したデータを共有することができる	実技試験によって評価。 Microsoft Excel の表を Microsoft Word の文書に貼り付けることができること。 Microsoft Excel のデータを使って Microsoft Word の差し込み印刷ができること。 Microsoft Word の文書を Microsoft PowerPoint で利用することができること。	10%
評価の方法 3分の2以上の出席を前提として、試験80%、授業内の課題20%。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンスと Windows の基本操作	授業の進め方、Windows の基礎
2	Word、Excel、PowerPoint の基本操作	Word、Excel、PowerPoint の概要、起動／終了、画面の構成
3	Word の操作実習(1)	文書の作成
4	Word の操作実習(2)	グラフィック機能の使用
5	Word の操作実習(3)	表のある文書の作成
6	Excel の操作実習(1)	データの入力
7	Excel の操作実習(2)	表の作成
8	Excel の操作実習(3)	グラフの作成
9	Excel の操作実習(4)	データの分析
10	PowerPoint の操作実習(1)	プレゼンテーションの作成
11	PowerPoint の操作実習(2)	スライドショーの実行
12	データ共有の操作実習	Word、Excel、PowerPoint 間でのデータ共有
13	総合練習	総合問題を使って習熟度の確認
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇『よくわかる Word 2019 & Excel 2019 & PowerPoint 2019』富士通エフ・オー・エム株式会社（FOM 出版）

【履修条件等】

◇履修条件は特にありませんが、ある程度 Windows の使用やタイピングができることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業の最後に次回の授業内容をお知らせしますので、教科書の該当ページを読んでくること。

【その他の注意事項】

◇前回までの授業を理解しておくことが前提になるので、できるだけ欠席しないこと。
◇上記の授業計画は受講者の既習レベルなどにより、変更する場合があります。

情報学（春学期）	オニキ カズナオ 鬼木 一直
Informatics	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

企業で業務を遂行するにあたり、Microsoft 社の『Excel』、『Word』、『PowerPoint』は必須アイテムともいえるソフトとなっています。これらのソフトを使いこなすためにパソコン一般知識、アプリケーション操作、情報モラル&セキュリティを学ぶことが必要です。本授業ではタイピングの練習、表計算、グラフ作成などを通じ、日常の企業活動で発生するさまざまなコンピュータ知識、スキルを習得します。また、授業の中で実際に準2級・3級等のP検（ICTプロフィシエンシー検定試験）を行い、資格の取得も可能です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
タイピング速度60文字／分以上を目標とする	毎授業の最初に5分間のタイピングテストを行いその点数および上達度を評価する。 また、授業時間の中でP検タイピング本試験を行いその結果を評価する。	20%
Microsoft Word を活用し、簡単な文書の作成、編集ができること	設問に対する解答と実技試験によって評価。 Microsoft Word の操作に関する基本的な設問に解答できること。指示に従い簡単な非定型文書の編集をすることができること。	25%
Microsoft Office を活用し、計算式や表などを含む定型フォーマットの作成ができること	設問に対する解答と実技試験によって評価。 Microsoft Excel の操作に関する基本的な設問に解答できること。指示に従い簡単な表やグラフを含む文書の編集をすることができること。	25%
コンピュータ用語、ネットワークシステム、情報モラルを理解する	確認問題に対する解答によって評価。 コンピュータに関する知識、通信ネットワーク技術、ウィルス対策を含むセキュリティや法規に関する基本的な設問に解答できること。	30%
評価の方法 毎回行うタイピングテスト10%、授業時間内の演習30%、試験60%。 試験はP検タイピング試験・P検本試験（準2級または3級）の結果を勘案する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	講義内容、本試験の内容等についての説明
2	ワープロ (1)	タイピングの基本を学び、文書の編集などの演習を行う
3	ワープロ (2)	図の挿入や図形の作成、表の作成や編集などの演習を行う
4	表計算 (1)	表計算ソフトの操作を学び、関数を利用した計算などの演習を行う
5	表計算 (2)	グラフの編集、表データの並べ替えなどの演習を行う
6	表計算 (3)	データの集計、シートの編集などの演習を行う
7	コンピュータ知識	コンピュータに関する一般的な技術用語を学ぶ
8	情報通信ネットワーク	情報通信システムに関する一般的な技術用語を学ぶ
9	情報モラルと情報セキュリティ	インターネットのセキュリティ対策、個人情報やプライバシーの保護について学ぶ
10	I C Tを活用した問題解決	フローチャート、データベースの活用法について学び、演習を行う
11	P 検タイピング本試験	本試験のタイピング試験免除対象となる P 検タイピング試験の合格を目指す
12	模擬試験	実際の検定試験と同じ C B T 方式での模擬試験を体験し、解答方法に慣れるとともに、弱点の克服を行う
13	P 検本試験	P 検本試験（準 2 級または 3 級）を行う
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教材は教室に備え付けのものを使用するので購入は不要。
- ◇他に、検定試験の受験料が必要（昨年実績4,100円）。

【履修条件等】

- ◇ Microsoft Windows / Word / Excel の基本的な操作ができること。
- ◇「コンピュータ・サイエンス」を履修済み程度のパソコンスキルを習得していること。
- ◇授業時間内に P 検（準 2 級または 3 級）を受験すること。
- ◇基本的に P 検 3 級以上を取得しているものは履修できない。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇タイピングの練習をしておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇授業時間内に P 検タイピング試験、P 検（準 2 級または 3 級）の本試験を実施する。
- ◇P 検（I C T プロフィシエンシー検定試験）に関しては以下の WEB サイトを参照のこと。<http://www.pken.com/>（I C T プロフィシエンシー検定協会）
- ◇P 検に合格した場合は本授業単位の 2 単位に加え、さらに 1 単位を取得できる。（ただし、別途手続きが必要）

情報学（秋学期）	オニキ カズナオ 鬼木 一直
Informatics	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

企業で業務を遂行するにあたり、Microsoft 社の『Excel』、『Word』、『PowerPoint』は必須アイテムともいえるソフトとなっています。これらのソフトを使いこなすためにパソコン一般知識、アプリケーション操作、情報モラル&セキュリティを学ぶことが必要です。本授業ではタイピングの練習、表計算、グラフ作成などを通じ、日常の企業活動で発生するさまざまなコンピュータ知識、スキルを習得します。また、授業の中で実際に準2級・3級等のP検（ICTプロフィシエンシー検定試験）を行い、資格の取得も可能です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
タイピング速度60文字／分以上を目標とする	毎授業の最初に5分間のタイピングテストを行いその点数および上達度を評価する。 また、授業時間の中でP検タイピング本試験を行いその結果を評価する。	20%
Microsoft Word を活用し、簡単な文書の作成、編集ができること	設問に対する解答と実技試験によって評価。 Microsoft Word の操作に関する基本的な設問に解答できること。指示に従い簡単な非定型文書の編集をすることができること。	25%
Microsoft Office を活用し、計算式や表などを含む定型フォーマットの作成ができること	設問に対する解答と実技試験によって評価。 Microsoft Excel の操作に関する基本的な設問に解答できること。指示に従い簡単な表やグラフを含む文書の編集をすることができること。	25%
コンピュータ用語、ネットワークシステム、情報モラルを理解する	確認問題に対する解答によって評価。 コンピュータに関する知識、通信ネットワーク技術、ウィルス対策を含むセキュリティや法規に関する基本的な設問に解答できること。	30%
評価の方法 毎回行うタイピングテスト10%、授業時間内の演習30%、試験60%。 試験はP検タイピング試験・P検本試験（準2級または3級）の結果を勘案する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	講義内容、本試験の内容等についての説明
2	ワープロ (1)	タイピングの基本を学び、文書の編集などの演習を行う
3	ワープロ (2)	図の挿入や図形の作成、表の作成や編集などの演習を行う
4	表計算 (1)	表計算ソフトの操作を学び、関数を利用した計算などの演習を行う
5	表計算 (2)	グラフの編集、表データの並べ替えなどの演習を行う
6	表計算 (3)	データの集計、シートの編集などの演習を行う
7	コンピュータ知識	コンピュータに関する一般的な技術用語を学ぶ
8	情報通信ネットワーク	情報通信システムに関する一般的な技術用語を学ぶ
9	情報モラルと情報セキュリティ	インターネットのセキュリティ対策、個人情報やプライバシーの保護について学ぶ
10	I C Tを活用した問題解決	フローチャート、データベースの活用法について学び、演習を行う
11	P 検タイピング本試験	本試験のタイピング試験免除対象となる P 検タイピング試験の合格を目指す
12	実技試験の対策	C B T 方式（コンピュータ対話式）の実技試験を体験し慣れる
13	模擬試験	実際の検定試験と同じ C B T 方式での模擬試験を体験し、解答方法に慣れるとともに、弱点の克服を行う
14	P 検本試験	P 検本試験（準 2 級または 3 級）を行う
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教材は教室に備え付けのものを使用するので購入は不要。
- ◇他に、検定試験の受験料が必要（昨年実績4,100円）。

【履修条件等】

- ◇ Microsoft Windows / Word / Excel の基本的な操作ができること。
- ◇「コンピュータ・サイエンス」を履修済み程度のパソコンスキルを習得していること。
- ◇授業時間内に P 検（準 2 級または 3 級）を受験すること。
- ◇基本的に P 検 3 級以上を取得しているものは履修できない。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇タイピングの練習をしておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇授業時間内に P 検タイピング試験、P 検（準 2 級または 3 級）の本試験を実施する。
- ◇P 検（I C T プロフィシエンシー検定試験）に関しては以下の WEB サイトを参照のこと。<http://www.pken.com/>（I C T プロフィシエンシー検定協会）
- ◇P 検に合格した場合は本授業単位の 2 単位に加え、さらに 1 単位を取得できる。（ただし、別途手続きが必要）

情報処理 I	エザキ カズオ 江崎 和夫
Information Processing I	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

本科目は、マイクロソフトの検定試験であるオフィススペシャリスト（MOS）の、表計算ソフトの Microsoft Excel の対策講座です。MOS の Excel は、企業の評価も高い世界共通の検定試験です。Excel が企業の実務で活用できるレベルのスキル（技能）に達していることを就職のときにアピールできます。ビジネスデータの加工などができるコンピュータリテラシーのスキル（技能）を身につけるとともに、検定試験の準備をすることを目指します。そのために、Excel を使った表計算処理やグラフの作成について、MOS の実践的な演習を通じて行います。MOS（Excel）の模擬問題を多く解くことによって、検定試験対策を行うとともに、実践的な実務能力の向上を図ります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
表計算ソフトの基本操作、関数を活用したデータ処理やグラフの作成ができる	操作の習熟度を課題の作成によって評価。基本的な Excel の操作をしてワークシートの編集を行い、データにあった関数を適切に活用した表計算ができること、用途に合わせた適切なグラフを作成できること。	20%
ワークシートとセルに関する操作や設定を行うことができる	MOS (Excel) の模擬問題の作成によって評価。ワークシートとブックに関する設定、セルやセル範囲へのデータ挿入、書式設定、セルの条件付き書式の設定などができること。	20%
数式や関数を使用した、データ集計や条件付きの計算演習を実行できる	MOS (Excel) の模擬問題の作成によって評価。数式や関数を使用した、データ集計や条件付きの計算、文字列の関数の書式設定などができる。	20%
テーブルを使用した演算の実行ができる	MOS (Excel) の模擬問題の作成によって評価。テーブルの作成、フィルターの使用ができる。データベース機能の並べ替えをができる。	20%
グラフやオブジェクトの作成ができる	MOS (Excel) の模擬問題の作成によって評価。グラフの作成、グラフの種類選択、書式設定ができる。図形、Smartart などのオブジェクトの挿入ができる。	20%
評価の方法 3分の2以上の出席を前提として、授業参画度20%、課題の演習40%、試験40%の割合で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、MOS（Excel）検定試験の方式・内容
2	Excel の基本操作確認	数式、関数の基本操作。MOS の関数の問題の例
3	ワークシートの管理	ワークシートとブックに関する模擬問題
4	セルとデータ管理	セルやセル範囲へのデータ挿入、書式設定の模擬問題
5	セルの条件付き書式	セルの条件付き書式の設定
6	数式や関数を使った集計	データ集計を行う関数、小計、3D集計
7	条件付関数、文字列関数	条件付きの計算の関数、文字列の変更の関数
8	テーブルを使用した演習	テーブルの作成、フィルター
9	データベース、並べ替え	並べ替えの模擬問題
10	グラフの作成と書式設定	グラフの作成、種類、書式設定の模擬問題
11	図形、Smartart	図形、Smartart を活用したビジュアル資料作成の模擬
12	総合演習	総合演習課題を使った習熟度の確認
13	模擬問題の総合演習	MOS (Excel) の模擬問題を使った総合演習
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：『30レッスンで絶対合格 MOS Excel 2016 テキスト＋問題集』
技術評論社

【履修条件等】

◇履修条件はとくにない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業の最後に事前学習の指示をするので、教科書の該当ページを読むとともに、事前学習課題を作成してください。

【その他の注意事項】

◇演習を通じて習熟度を上げる必要があるため、全回出席が基本です。遅刻は2回で欠席1回とする。全授業の3分の1（5回）欠席した場合は、単位が認められません。

情報処理Ⅱ	エザキ カズオ 江崎 和夫
Information Processing II	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

本科目は、マイクロソフトの検定試験であるオフィススペシャリスト（MOS）の、表計算ソフトの Microsoft Excel の対策講座です。「情報処理Ⅰ」の内容を深め、模擬問題を多く解き、企業の実務に使える実践力を身につけるとともに、合格する確率を上げることを目指します。MOS の Excel は、企業の評価も高い世界共通の検定試験です。Excel が企業の実務で活用できるレベルのスキル（技能）に達していることを就職のときにアピールできます。ビジネスデータの加工などができるコンピュータリテラシーのスキル（技能）を身につけるとともに、検定試験の準備をすることを目指します。MOS（Excel）の模擬問題を多く解くことによって、検定試験対策を行うとともに実践的な実務能力の向上を図ります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
表計算ソフトの基本操作、関数を活用したデータ処理やグラフの作成ができる	操作の習熟度を課題の作成によって評価。基本的な Excel の操作をしてワークシートの編集を行い、データにあった関数を適切に活用した表計算ができること、用途に合わせた適切なグラフを作成できること。	20%
ワークシートとセルに関する操作や設定を行うことができる	MOS（Excel）の模擬問題の作成によって評価。ワークシートとブックに関する設定、セルやセル範囲へのデータ挿入、書式設定、セルの条件付き書式の設定などができること。	20%
数式や関数を使用した、データ集計や条件付きの計算演習を実行できる	MOS（Excel）の模擬問題の作成によって評価。数式や関数を使用した、データ集計や条件付きの計算、文字列の関数の書式設定などができる。	20%
テーブルを使用した演算の実行ができる	MOS（Excel）の模擬問題の作成によって評価。テーブルの作成、フィルターの使用ができる。データベース機能の並べ替えをができる。	20%
グラフやオブジェクトの作成ができる	MOS（Excel）の模擬問題の作成によって評価。グラフの作成、グラフの種類選択、書式設定ができる。図形、Smartart などのオブジェクトの挿入ができる。	20%
評価の方法 3分の2以上の出席を前提として、授業参画度20%、課題の演習40%、試験40%の割合で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、MOS（Excel）検定試験の方式・内容
2	Excel の操作の確認	数式、関数の操作の確認のための模擬問題演習
3	ワークシート管理の模擬	ワークシートとブックに関する操作の模擬問題
4	セルとデータ管理の模擬	セルの条件付き書式の設定の種類の設定の模擬問題
5	数式や関数を使った集計	関数、小計、3D集計、ピボット集計の模擬問題
6	条件付関数、文字列関数	条件付きの計算の関数、文字列の変更の関数の模擬問題
7	テーブルを使用した演習	テーブルの作成、フィルター、抽出の詳細設定の模擬
8	データベース、並べ替え	データベースの機能の模擬問題、並べ替えの模擬問題
9	グラフの作成と書式設定	グラフの作成、種類、書式設定の模擬問題
10	図形、Smartart	図形、Smartart、ビジュアル資料作成の模擬問題
11	対策が必要な分野	MOS（Excel）の対策が必要な分野のポイント
12	総合演習	総合演習課題を使った習熟度の確認
13	模擬問題の総合演習 1	MOS（Excel）の模擬問題を使った総合演習 1
14	模擬問題の総合演習 2	MOS（Excel）の模擬問題を使った総合演習 2
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇『30レッスンで絶対合格 MOS Excel 2016 テキスト+問題集』技術評論社

【履修条件等】

◇「コンピュータ・サイエンス」を履修していることが望ましい。また、できるだけ、「情報処理Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業の最後に事前学習の指示をするので、教科書の該当ページを読むとともに、事前学習課題を作成してください。

【その他の注意事項】

◇演習を通じて習熟度を上げる必要があるので、全回出席が基本です。遅刻は2回で欠席1回とする。全授業の3分の1（5回）欠席した場合は、単位が認められません。

多文化理解Ⅲ（ハラール／イスラム市場）	シミズ 清水 イケダ 池田 トシキ 俊樹 セイヤ 誠也
Multicultural Issues Ⅲ	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では、文化・宗教・食習慣・金融ルールなどが異なるハラール／イスラム市場を中心とした市場の理解を深め、ビジネスを行う上で重要とされる「事業開発ノウハウ」の習得を目的とします。

年々人口が増加し、経済が成長しているムスリム人口は、無視できない存在になっています。国内の市場が衰退するなか、今後はハラール／イスラム市場の理解が重要になります。本講義では、世界における最新の（とくにハラール／イスラム）市場環境を包括的に取り上げ、事業開発のエッセンスを学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1) ハラール／イスラム市場に関する理解	本講義を通して得られるハラール／イスラム市場に関する多岐に渡る動向を十分に理解ができているか？ 評価方法は、各講義で提出するペーパー、期末試験での評価を前提とする。	35%
2) 同市場における事業アイディアの創造・独自性とその倫理的な整理	ハラール／イスラム市場における事業アイディアとその実現性や事業性を十分に整理、説明できているか？ 評価方法は、各講義で提出するペーパー、期末試験での評価を前提とする（履修人数によってはグループワークの結果も反映される）。	35%
3) 講義全体の理解と論理的な思考力	本講義を通して得られる情報を論理的に紐付けてアウトプットできるか？ 評価方法は期末の試験を中心に行います。	30%
評価の方法 この授業では、期末試験、各講義での授業への貢献、グループワークによる採点で評価します。単に、調べれば得ることのできる情報を求めるわけではなく、各講義で講師から提供される情報などを自分の頭で考え整理し、得られた各情報を有機的につなげる力が求められます。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	導入講義	本講義の全体構成と目的等の説明
2	事業開発のステップ	事業開発の概論に関する講義
3	世界の市場環境の把握	世界市場の現状および今後の見通しに関する講義
4	ムスリム市場の把握	ハラール／ムスリム市場の現状と今後の見通しの説明
5	イスラム教の理解	イスラム教の概念的な整理
6	前半の講義の振り返り	ここまでの講義を総括し、学生の理解力を把握
7	事例の紹介(1)	アウトバウンドに関連する先行企業の成功・失敗事例の紹介
8	事例の紹介(2)	インバウンドに関連する先行企業の成功・失敗事例の紹介
9	イスラム金融の理解	イスラム金融の仕組みとイスラムビジネスのリスクの整理
10	事業考察の構成要件	グループワークのために必要なフレームワークの整理
11	グループワーク準備	ハラール／ムスリム市場参入の事業アイディアの立案
12	グループワーク	事業アイディアの発表、フィードバック
13	事業アイディアの事例	最新の取り組みに関する紹介
14	全体の総括	講義全体を通じた総括、質疑応答など
15	期末試験	学習達成度の確認を目的とした期末試験の実施

【使用教材】

◇教科書：とくにありません。毎講義、必要な資料は準備されています。

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇本講義では、多角的な視点が求められ、講義を通して紹介される参考文献などは時間を見つけて事前に学習してください。また、インターネットなどでもさまざまな事例が紹介されていますので、各講義の中で触れられた内容などに関しては各自で興味を持って調べるなりすることをお勧めします。

【その他の注意事項】

◇本講義では、答えがない分野における考察、検討を重要視します。そのために必要な情報などは講義を通して得られますが、講義で得られた情報を元にしたアイディア、その妥当性などの検討は自分の頭で考えることが求められます。講義で得られた情報を記憶する事しか行いたくない学生は、この講義には向かないと考えられます。一方で、さまざまな文化、宗教、歴史、価値観などに興味を持ち、自らの経験などを踏まえたアイディアを考えることが好きな学生にとっては、ハラール／イスラム市場における最先端の情報が得られると考えられ、履修をお勧めします。

健康と運動 I	イノウエ コウト 井上 航人
Health and Sports I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう、運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的に行うことができること	30%
自己管理を行い、積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業方針・評価について
2	実技 (集団型スポーツ)	集団の団結力が試されるスポーツ種目であるバスケットボールやアルティメットを題材に学ぶ (履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
3		
4		
5		
6		
7		
8	講義	①運動と健康の関係について
9		②生活習慣病について
10	実技 (ネット型スポーツ)	小集団のネット型スポーツ種目であるバドミントンや卓球を題材に学ぶ (履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
11		
12		
13		
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動 I	タジマ トシミ 田島 外志美
Health and Sports I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、近年若者に増加している性感染症などの疾病の理解と、予防するための知識を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体力トレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につながる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康三原則（運動・栄養・休養）の理解し、健康を維持するための知識を有すること。	20%
現代社会で問題となっている疾病理解と、その予防について理解し、自己管理につながる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 若者で問題になっている性感染症（STD）に関する正しい知識と、その予防法についての知識を有すること。	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月1回の測定（体脂肪・血圧・BMI）ができること。	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取り組み30%、グループワーク30%		

【授業計画】

回	テーマ・内 容
1	ガイダンス：授業方針・評価について 現状把握：体脂肪・血圧・基礎代謝測定
2 3	チームビルディング ｝ アダプテッドスポーツ
4 7	実技：集団型スポーツ①② ｝ 集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメット、フットサル等を題材に学ぶ
8 9	講義①：健康と運動の関係について（健康の三原則と運動） ｝ 講義②：疾病から身体を守る（性感染症の現状把握、予防法について）
10 13	実技：ネット型スポーツ①② ｝ 小集団のネット型スポーツ種目：卓球、バドミントン等を題材に学ぶ
14	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇80分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動Ⅱ	イノウエ コウト 井上 航人
Health and Sports II	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう、運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的に行うことができること	30%
自己管理を行い、積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業方針・評価について
2	実技 (集団型スポーツ)	集団の団結力が試されるスポーツ種目であるバスケットボールやフットサルを題材に学ぶ (履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合があります)
3		
4		
5		
6		
7		
8	講義	①基礎代謝について
9		②性感染症について
10	実技 (ネット型スポーツ)	小集団のネット型スポーツ種目であるソフトバレーやスポンジテニスを題材に学ぶ (履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合があります)
11		
12		
13		
14		
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動Ⅱ	タジマ トシミ 田島 外志美
Health and Sports II	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、近年増加している生活習慣病の理解と、予防するための運動方法を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体力トレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 基礎代謝を高め、太り難い身体を維持する知識を有すること。	20%
現代社会で問題となっている疾病理解と、その予防について理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病に関する正しい知識と、その予防法についての知識を有すること。	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月1回の測定（体脂肪・血圧・BMI）ができること。	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取り組み30%、グループワーク30%		

【授業計画】

回	テーマ・内 容
1	ガイダンス：授業方針・評価について 現状把握：体脂肪・血圧・基礎代謝測定
2	チームビルディング
3	アダプテッドスポーツ
4	実技：集団型スポーツ①②
8	集団の団結力が試されるスポーツ種目：バスケットボール、ダブルダッチ等を題材に学ぶ
9	講義①：健康と運動の関係について（基礎代謝と運動）
10	講義②：疾病から身体を守る（生活習慣病と運動）
11	実技：ネット型スポーツ①②
14	小集団のネット型スポーツ種目：ソフトボール、インディアカ等を題材に学ぶ
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動Ⅲ	イノウエ コウト 井上 航人
Health and Sports III	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう、運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的に行うことができること	30%
自己管理を行い、積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業方針・評価について
2	実技 (集団型スポーツ)	集団の団結力が試されるスポーツ種目であるバスケットボールやアルティメットを題材に学ぶ (履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
3		
4		
5		
6		
7		
8	講義	①運動と健康の関係について
9		②生活習慣病について
10	実技 (ネット型スポーツ)	小集団のネット型スポーツ種目であるバドミントンや卓球を題材に学ぶ (履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
11		
12		
13		
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動Ⅲ	タジマ トシミ 田島 外志美
Health and Sports III	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、スポーツによる傷害（外傷・障害）の現状を理解し、傷害の起こしにくい「からだ作り」、予防するための知識を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体力トレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が関係する傷害の発生メカニズムと対処法を学び、適切な行動ができる力を身につけること	講義後、提出されたレポートによって評価。 スポーツ傷害（外傷・障害）の理解、外傷が発生した際の対処方法の知識を有すること。	20%
傷害を起こしにくい「からだ作り」について学び、実践可能なトレーニングの知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 加齢とともに低下していく筋力・体力の維持に必要なトレーニングの必要性と、トレーニングに関する正しい知識を有すること	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月1回の測定（体脂肪・血圧・BMI）ができること。	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取り組み30%、グループワーク30%		

【授業計画】

回	テーマ・内 容
1	ガイダンス：授業方針・評価について 現状把握：体脂肪・血圧・基礎代謝測定
2 3	チームビルディング ）アダプテッドスポーツ
4 7	実技：集団型スポーツ①② ）集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメット、フットサル等を題材に学ぶ
8 9	講義①：スポーツ障害の予防法について ）講義②：年齢に合わせた体力トレーニングの必要性
10 13	実技：ネット型スポーツ①② ）小集団のネット型スポーツ種目：卓球、バドミントン等を題材に学ぶ
14	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇80分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動IV	イノウエ コウト 井上 航人
Health and Sports IV	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう、運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的に行うことができること	30%
自己管理を行い、積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業方針・評価について
2	実技 (集団型スポーツ)	集団の団結力が試されるスポーツ種目であるバスケットボールやフットサルを題材に学ぶ (履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合があります)
3		
4		
5		
6		
7		
8	講義	①基礎代謝について
9		②性感染症について
10	実技 (ネット型スポーツ)	小集団のネット型スポーツ種目であるソフトバレーやスポンジテニスを題材に学ぶ (履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合があります)
11		
12		
13		
14		
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動IV	タジマ トシミ 田島 外志美
Health and Sports IV	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、近年話題になっているロコモティブシンドロームの理解と、予防するための運動方法を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体力トレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動不足が身体におよぼす影響を学び、その予防方法を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 運動器の障害により移動機能が低下するロコモティブシンドロームとその予防法の正しい知識を有すること。	20%
自己に適した運動の強度や種類についての知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 運動処方のひとつの尺度である「心拍数」を使って、自己に適した運動強度を算出できること。	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月1回の測定（体脂肪・血圧・BMI）ができること。	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取り組み30%、グループワーク30%		

【授業計画】

回	テーマ・内 容
1	ガイダンス：授業方針・評価について 現状把握：体脂肪・血圧・基礎代謝測定
2 3	チームビルディング ）アダプテッドスポーツ
4 8	実技：集団型スポーツ①② ）集団の団結力が試されるスポーツ種目：バスケットボール、ダブルダッチ等を題材に学ぶ
9 10	講義①：ロコモティブシンドロームについて ）講義②：運動と心拍数の関係性について
11 14	実技：ネット型スポーツ①～③ ）小集団のネット型スポーツ種目：卓球、バドミントン等を題材に学ぶ
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

日本語Ⅲ（留学生科目）	イトカワ ユウ 糸川 優
Japanese Language III	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面における日本語コミュニケーション能力の養成を目的に、ビジネス日本語の基本語彙の習得を重ね、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の練習を重ねて習熟することを目標とする。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現も確認し、ビジネス場面における人間関係や場面背景を理解できるような練習もする。さらに、BJT ビジネス日本語能力テストの受験準備をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%
評価の方法 授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	日本語能力評価テスト	授業計画と評価の説明、日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	ビジネス日本語の基礎	個人情報 1
4	ビジネス日本語の基礎	個人情報 2
5	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査 1
6	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査 2、出張 1
7	ビジネス日本語の基礎	出張 2
8	ビジネス日本語の基礎	販売員増員の提案
9	ビジネス日本語の基礎	インタビュー 1
10	ビジネス日本語の基礎	インタビュー 2
11	ビジネス日本語の基礎	日程調整
12	ビジネス日本語の基礎	衣料品業界
13	ビジネス日本語の基礎	展示会
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：小野塚若菜ほか（2015）『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集
聴く・読む・話す・書く』ジャパントイムズ

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
- ◇意欲を持って学習に取り組むこと。
- ◇必要に応じて授業外に補習授業を課すので、積極的に出席すること。
- ◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
- ◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

日本語Ⅲ（留学生科目）	コバヤシ ヒロノリ 小林 寛典
Japanese Language III	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面における日本語コミュニケーション能力の養成を目的に、ビジネス日本語の基本語彙の習得を重ね、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の練習を重ねて習熟することを目標とする。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現も確認し、ビジネス場面における人間関係や場面背景を理解できるような練習もする。さらに、BJTビジネス日本語能力テストの受験準備をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%
評価の方法 授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業計画と評価の説明
2	ビジネス日本語の基礎	個人情報 1
3	ビジネス日本語の基礎	個人情報 2
4	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査 1
5	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査 2、出張 1
6	ビジネス日本語の基礎	出張 2
7	ビジネス日本語の基礎	販売員増員の提案
8	ビジネス日本語の基礎	インタビュー 1
9	ビジネス日本語の基礎	インタビュー 2
10	ビジネス日本語の基礎	日程調整
11	ビジネス日本語の基礎	衣料品業界
12	ビジネス日本語の基礎	展示会
13	ビジネス日本語の基礎	業務フローチャート
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集
聴く・読む・話す・書く』ジャパントイムズ

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
- ◇意欲を持って学習に取り組むこと。
- ◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
- ◇上記の授業計画は受講人数などを勘案して変更することがある。

日本語Ⅲ（留学生科目）	シオタニ ユミコ 塩谷 由美子
Japanese Language III	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面における日本語コミュニケーション能力の養成を目的に、ビジネス日本語の基本語彙の習得を重ね、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の練習を重ねて習熟することを目標とする。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現も確認し、ビジネス場面における人間関係や場面背景を理解できるような練習もする。さらに、BJTビジネス日本語能力テストの受験準備をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%
評価の方法 授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業計画と評価の説明
2	ビジネス日本語の基礎	個人情報 1
3	ビジネス日本語の基礎	個人情報 2
4	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査 1
5	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査 2、出張 1
6	ビジネス日本語の基礎	出張 2
7	ビジネス日本語の基礎	販売員増員の提案
8	ビジネス日本語の基礎	インタビュー 1
9	ビジネス日本語の基礎	インタビュー 2
10	ビジネス日本語の基礎	日程調整
11	ビジネス日本語の基礎	衣料品業界
12	ビジネス日本語の基礎	展示会
13	ビジネス日本語の基礎	業務フローチャート
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集
聴く・読む・話す・書く』ジャパントイムズ

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
- ◇意欲を持って学習に取り組むこと。
- ◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
- ◇上記の授業計画は受講人数などを勘案して変更することがある。

日本語Ⅳ（留学生科目）	イトカワ ユウ 糸川 優
Japanese Language IV	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

日本で働くことを意識し、日本の社会への理解を図る。

日本の社会で過ごすために、異文化理解は不可欠である。

トラブルの事例から、日本社会で人間関係を構築、維持するため、どう考えるべきか、また、どのような表現を使うべきかを話し合う。

さらに、距離の取り方を考えながら、日本語の表現を学んでいく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
異文化理解	テキストから日本文化を理解する。やり直し会話として書いたものを評価する。	35%
対人関係の距離の取り方と言語表現	ロールプレイなどによって評価する。	25%
ディスカッション	テキストに書かれているトラブルから、問題の所在などについて討論する。	40%
評価の方法 授業態度、参加度も評価の対象となる。 授業態度・参加度10%、課題25%、ディスコースのパターンの習得15%、的確な表現20%、口頭表現30% 出席が3分の2に満たない場合には単位は与えられない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	
2	時間	時間を守ること、確認
3	休む権利①	休みを取るについて
4	休む権利②	上司・同僚への対応
5	責任の有無	ウチとソト
6	謝罪	「申し訳ありません」の意味
7	怒る人への対処	関係を維持する
8	怒りの表現①	権利の主張
9	怒りの表現②	
10	感情の表現	感情を抑えた表現
11	語彙表現	ネガポジの表現
12	アドバイス	冷静な主張
13	できません	「できない」「難しい」について
14	異動	モチベーションの維持
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇適宜プリントを配布する。

【履修条件等】

◇出席するだけでなく、積極的な参加態度を求めます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇あらかじめ配布されたものについては、予習をすること。

【その他の注意事項】

◇適宜、課題、小テストがある。

◇上記の授業計画は、受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

◇課題は必ず提出し、期限を厳守すること。

日本語Ⅳ（留学生科目）	コバヤシ ヒロノリ 小林 寛典
Japanese Language IV	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、「日本語Ⅱ」、「日本語Ⅲ」で身につけたビジネス場面での基礎的な日本語を使って、日本語の運用能力の向上を図るとともに、基礎の定着と発展を図る。模擬的なビジネス場面を想定し、簡易な企画立案、プレゼンテーションの課題に取り組む。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス場面における日本語表現の習得	ビジネス場面における適切な表現を選択できるか否か、またビジネス場面における語彙を理解し使用できるかどうかを評価する。	30%
文書や音声情報の処理能力の向上	文書や音声など、外部からの情報を正確に理解し、対処できること。	40%
ビジネス課題の達成	簡単な企画立案、プレゼンテーションができること。	30%
評価の方法 授業参加度30%、課題30%、本試験40% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	授業の説明	授業と評価の説明、授業計画、発表の日本語導入
2	ビジネス日本語基礎	基礎の定着と発展 1－①
3	ビジネス日本語基礎	基礎の定着と発展 1－②
4	ビジネス日本語基礎	基礎の定着と発展 1－③
5	ビジネス日本語演習	演習 1－①
6	ビジネス日本語演習	演習 1－②
7	ビジネス日本語演習	演習 1－③
8	ビジネス日本語基礎	基礎の定着と発展 2－①
9	ビジネス日本語基礎	基礎の定着と発展 2－②
10	ビジネス日本語基礎	基礎の定着と発展 2－③
11	ビジネス日本語演習	演習 2－①
12	ビジネス日本語演習	演習 2－②
13	ビジネス日本語演習	演習 2－③
14	ビジネス日本語演習	予備日
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇使用せず。必要に応じて資料を配布する。

【履修条件等】

◇欠席せず、意欲を持って学習に取り組むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇その都度授業内で指示する。

【その他の注意事項】

◇課題は指定された授業の日に提出すること。それ以外は加点しない。

◇上記の授業計画は受講人数や既習レベルなどを勘案して変更することがある。

日本語Ⅳ（留学生科目）	シオタニ ユミコ 塩谷 由美子
Japanese Language IV	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

卒業後の日本での就職、あるいは日本企業に関連した職場での仕事を想定して、ビジネス日本語の表現および日本のビジネスマナーやビジネス習慣を学ぶことを目的にした授業である。視聴覚教材を使用してビジネス場面特有の語彙・表現を学習しながら、ビジネスマナーや習慣についても悪い例・良い例を視覚的に見て具体的に学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
敬語の形式を習得し、場面ごとの適切な待遇表現が使えるようにする	授業中の小テストで評価する。	15%
日本のビジネスマナー・ビジネス習慣を学び、適切なビジネス日本語表現ができるようにする	提出された課題の完成度と本試験によって習熟度を評価する。	課題15% 本試験のうち 70%
日本のビジネスマナー・ビジネス習慣を学び、場面に合わせた適切な行動をとれるようにする	本試験によって習熟度を評価する。	本試験のうち 30%
評価の方法 受講態度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	授業の説明	授業と評価の説明、授業計画
2	日本の就職活動①	日本の大学生の就職活動の具体的例（前半）
3	日本の就職活動②	日本の大学生の就職活動の具体的例（後半）
4	ビジネスマナーの基本	ビジネス習慣などの基本マナー
5	敬語①	敬語の種類と形
6	敬語②	場面ごとの待遇表現
7	ビジネス文書①	種類、文体、書式の基本
8	ビジネス文書②	いろいろなビジネス文書の形式
9	電話の受け方①	電話対応の基本と表現
10	電話の受け方②	電話取り次ぎ、伝言の方法
11	電話のかけ方	電話をかけるときの基本的表現とマナー
12	訪問のマナー	受付、名刺交換などのマナーと表現
13	応接のマナー	応接の習慣と表現
14	日本のビジネススタイル	ビジネス習慣の違い
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇必要に応じて資料を配付する。

◇参考図書：株式会社日本映像教育社編著（2004）『オフィスで使える！マナーもに身につく！ビジネス日本語 テキスト①内定者編』株式会社日本映像教育社
株式会社日本映像教育社編著（2004）『オフィスで使える！マナーもに身につく！ビジネス日本語 テキスト②新入社員編』株式会社日本映像教育社

【履修条件等】

◇意欲を持って学習に取り組むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇基本会話表現を想定した会話シートを完成してこること。

【その他の注意事項】

◇上記の授業計画は受講人数、大学内行事日程などを勘案して変更することがある。

日本の社会としくみ（留学生科目）	コバヤシ ヒロノリ 小林 寛典
Japanese Culture and Society	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、グループディスカッションという手段を使って、自分の考えをまとめて発信する力、他者の考えを聞いて自分の考えと比較する力を身につけること、また、そこから考えを発展させ視野を広げることを目的とする。他の学生と協力しながらグループディスカッションを行い、他の人の意見を理解した上で自分の意見を論理的に筋道立てて述べる練習をする。このようなグループ活動と発表を通して、社会的なトピックについての知識も深めていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業に積極的に参加する	グループ活動に積極的に参加し、円滑なグループ活動に貢献すること。	30%
グループの意見をまとめて発表する	グループで出た意見をまとめ、発表する。	40%
小論文	ディスカッションの結果をクラス全体で共有し、気づきや感想を小論文にまとめる。	30%
評価の方法 授業参加度（グループ貢献度）30%、発表40%、小論文30% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	授業の説明	授業と評価の説明、グループディスカッション導入
2	ディスカッション1	ディスカッション 1－①
3	ディスカッション2	ディスカッション 1－②
4	ディスカッション3	ディスカッション 1－③
5	ディスカッション4	発表1－①
6	ディスカッション5	発表1－②
7	ディスカッション6	発表1－③
8	ディスカッション7	ディスカッション 2－①
9	ディスカッション8	ディスカッション 2－②
10	ディスカッション9	ディスカッション 2－③
11	ディスカッション10	発表2－①
12	ディスカッション11	発表2－②
13	ディスカッション12	発表2－③
14	ディスカッション13	予備日
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。必要に応じて資料を配布する。

【履修条件等】

◇遅刻欠席をせず、意欲を持って学習に取り組むこと。

◇メンバーと協力しあうこと。

◇相手の意見を尊重する姿勢を持つこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇必要に応じて指示する。

【その他の注意事項】

◇学期中の欠席が5回を越えた場合は、単位は認めない。

◇上記の授業計画は受講人数や既習レベルなどを勘案して変更することがある。

インターンシップⅠ	タカハシ テツヤ 高橋 哲也
Internship I	選択科目／認定／1単位

【授業概要】

実務的知識を深め、キャリアプランを考えていくことを目指します。実習型の講座になるため、自律性の高い学生の参加を望む。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構えを身につける	ウェブなどを用いて適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 (インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように)	20%
インターンシップで社会の現状を知り、自己のキャリアについて考える	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。 提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	60%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かす	報告会などの場で自らの体験を伝えることができるか。 自らの就業体験の結果を他者に伝えること。	20%
評価の方法 エントリーシート作成に始まり、就業体験、実習報告書の提出という一連の作業を無事に修了すること。		

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
2	企業研究・業界研究 エントリーシート作成 インターンシップ希望企業へのウェブでのエントリー
14	現場での就業体験（5日間＝30時間） インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇とくになし。

【履修条件等】

◇3年生の履修希望者は授業科目「就職特講」を必ず履修すること。

◇1、2年生の履修希望者も可能な限り「就職特講」内での知識の充足を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

◇ウェブ公募でのエントリーを行い、企業でのインターンを行ってもらう。

◇手続きに不慣れなものに対しては別途「インターンシップ説明会」を開催する。そこで一般的なインターンシップ参加の手続きを身につけてもらう。

◇実習の経過はキャリア支援部への報告・連絡・相談を行うこと。

◇長期インターンシップ（1ヶ月以上など）に参加する場合には、報酬発生することが予想されるため注意が必要。報酬のあるインターンシップでの単位認定はできない。

◇基本的には5日間（30時間）の就業体験にて1単位が付与され、最大4単位まで認定可能（インターンシップⅠ～Ⅳに相当）。

◇5日間の就業体験は同一企業であることを求めない（複数企業可）。

◇インターンシップは認定単位のため通常の履修とは別枠（44単位＋ α ）。

◇インターンシップに挑戦したい時に開始してもらって構わない（通年対応）。

インターンシップⅡ	タカハシ テツヤ 高橋 哲也
Internship II	選択科目／認定／1単位

【授業概要】

実務的知識を深め、キャリアプランを考えていくことを目指します。実習型の講座になるため、自律性の高い学生の参加を望む。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構えを身につける	ウェブなどを用いて適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 (インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように)	20%
インターンシップで社会の現状を知り、自己のキャリアについて考える	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。 提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	60%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かす	報告会などの場で自らの体験を伝えることができるか。 自らの就業体験の結果を他者に伝えること。	20%
評価の方法 エントリーシート作成に始まり、就業体験、実習報告書の提出という一連の作業を無事に修了すること。		

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
2	企業研究・業界研究
3	エントリーシート作成
4	インターンシップ希望企業へのウェブでのエントリー
14	現場での就業体験（5日間＝30時間） インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇とくになし。

【履修条件等】

◇3年生の履修希望者は授業科目「就職特講」を必ず履修すること。

◇1、2年生の履修希望者も可能な限り「就職特講」内での知識の充足を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

◇ウェブ公募でのエントリーを行い、企業でのインターンを行ってもらう。

◇手続きに不慣れなものに対しては別途「インターンシップ説明会」を開催する。そこで一般的なインターンシップ参加の手続きを身につけてもらう。

◇実習の経過はキャリア支援部への報告・連絡・相談を行うこと。

◇長期インターンシップ（1ヶ月以上など）に参加する場合には、報酬発生することが予想されるため注意が必要。報酬のあるインターンシップでの単位認定はできない。

◇基本的には5日間（30時間）の就業体験にて1単位が付与され、最大4単位まで認定可能（インターンシップⅠ～Ⅳに相当）。

◇5日間の就業体験は同一企業であることを求めない（複数企業可）。

◇インターンシップは認定単位のため通常の履修とは別枠（44単位＋α）。

◇インターンシップに挑戦したい時に開始してもらって構わない（通年対応）。

インターンシップⅢ	タカハシ テツヤ 高橋 哲也
Internship III	選択科目／認定／1単位

【授業概要】

実務的知識を深め、キャリアプランを考えていくことを目指します。実習型の講座になるため、自律性の高い学生の参加を望む。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構えを身につける	ウェブなどを用いて適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 (インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように)	20%
インターンシップで社会の現状を知り、自己のキャリアについて考える	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。 提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	60%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かす	報告会などの場で自らの体験を伝えることができるか。 自らの就業体験の結果を他者に伝えること。	20%
評価の方法 エントリーシート作成に始まり、就業体験、実習報告書の提出という一連の作業を無事に修了すること。		

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
2	企業研究・業界研究 エントリーシート作成 インターンシップ希望企業へのウェブでのエントリー
14	現場での就業体験（5日間＝30時間） インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇とくになし。

【履修条件等】

◇3年生の履修希望者は授業科目「就職特講」を必ず履修すること。

◇1、2年生の履修希望者も可能な限り「就職特講」内での知識の充足を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

◇ウェブ公募でのエントリーを行い、企業でのインターンを行ってもらう。

◇手続きに不慣れなものに対しては別途「インターンシップ説明会」を開催する。そこで一般的なインターンシップ参加の手続きを身につけてもらう。

◇実習の経過はキャリア支援部への報告・連絡・相談を行うこと。

◇長期インターンシップ（1ヶ月以上など）に参加する場合には、報酬発生することが予想されるため注意が必要。報酬のあるインターンシップでの単位認定はできない。

◇基本的には5日間（30時間）の就業体験にて1単位が付与され、最大4単位まで認定可能（インターンシップⅠ～Ⅳに相当）。

◇5日間の就業体験は同一企業であることを求めない（複数企業可）。

◇インターンシップは認定単位のため通常の履修とは別枠（44単位＋α）。

◇インターンシップに挑戦したい時に開始してもらって構わない（通年対応）。

インターンシップⅣ	タカハシ テツヤ 高橋 哲也
Internship IV	選択科目／認定／1単位

【授業概要】

実務的知識を深め、キャリアプランを考えていくことを目指します。実習型の講座になるため、自律性の高い学生の参加を望む。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構えを身につける	ウェブなどを用いて適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 (インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように)	20%
インターンシップで社会の現状を知り、自己のキャリアについて考える	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。 提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	60%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かす	報告会などの場で自らの体験を伝えることができるか。 自らの就業体験の結果を他者に伝えること。	20%
評価の方法 エントリーシート作成に始まり、就業体験、実習報告書の提出という一連の作業を無事に修了すること。		

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
2	企業研究・業界研究
3	エントリーシート作成
4	インターンシップ希望企業へのウェブでのエントリー
14	現場での就業体験（5日間＝30時間） インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇とくになし。

【履修条件等】

◇3年生の履修希望者は授業科目「就職特講」を必ず履修すること。

◇1、2年生の履修希望者も可能な限り「就職特講」内での知識の充足を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

◇ウェブ公募でのエントリーを行い、企業でのインターンを行ってもらう。

◇手続きに不慣れなものに対しては別途「インターンシップ説明会」を開催する。そこで一般的なインターンシップ参加の手続きを身につけてもらう。

◇実習の経過はキャリア支援部への報告・連絡・相談を行うこと。

◇長期インターンシップ（1ヶ月以上など）に参加する場合には、報酬発生することが予想されるため注意が必要。報酬のあるインターンシップでの単位認定はできない。

◇基本的には5日間（30時間）の就業体験にて1単位が付与され、最大4単位まで認定可能（インターンシップⅠ～Ⅳに相当）。

◇5日間の就業体験は同一企業であることを求めない（複数企業可）。

◇インターンシップは認定単位のため通常の履修とは別枠（44単位＋α）。

◇インターンシップに挑戦したい時に開始してもらって構わない（通年対応）。

自己開発Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	
Self-advancementⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	選択科目／認定／各1単位

【本科目の目的】

本学学生の自立心養成、キャリア形成を支援するための一環として、この科目を設置する。すなわち、学生が、本学での教育に立脚し、資格取得、ボランティアなど、学外で修得してきた一定の学習成果に対して単位を認定する。

【単位を認定する資格】

在学中に取得した資格。具体的には「技能審査の対象資格・検定表」に記載する資格を対象とする。ただし、取得後3か月以内に単位認定の申請をすることが必要（1月末までに届けたものについては当該年度の「自己開発」科目の単位として、それ以降の申請については、次年度の単位として認定する）。

例：公認会計士、税理士、中小企業診断士、情報システムITパスポート試験、実用英語技能検定、秘書技能検定、簿記検定、販売士、経営学検定試験、TOEIC等

【ボランティア】

担当教員宛に「参加申請書類」（受入先または仲介先の概要紹介書、活動計画書などを添付）を提出し、担当教員の承認を得たボランティア活動を「単位を認定するボランティア」とする。活動期間は、通算5日40時間以上とする。

承認を得たら、すみやかに「賠償責任保険」（340円。学生支援担当窓口扱）に加入し、活動終了後は、2週間以内に、「単位認定申請書」に受入先または仲介先の発行するボランティア活動修了証あるいは証明書（写しでも可）を添え、担当教員に届け出ることを要する。

◇本科目における「単位認定のプロセス」や「修得可能な単位数」「技能審査の対象資格・検定表」などについては『学生要覧』を参照してください。

外 国 語 科 目

2020年度

経営学部経営学科

東京富士大学

英会話 I	カツタ カオル 勝田 薫
English Conversation I	基礎科目／半期／1単位

【授業概要】

ますます国際化が進む現在、英語の運用能力の必要性も高まっています。海外旅行中のさまざまなシーンにおいて、適切な英会話ができるようになることが、この授業の目的です。授業では、基本となるフレーズをじっくりと練習しましょう。必要に応じてロールプレイも取り入れますが、まずは英会話に対する苦手意識を一步一步克服していくことを目指しましょう。英語学習は、短時間でも毎日行うことが大事です。なお、座席は指定席となります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な英語表現を覚える	授業で学習した項目がどれくらい身についているかを確認テストで評価します。	25%
簡単な英語でのやり取りができるようになる	授業内で、教員と学生がロールプレイを行い、英語表現を適切に使用しているかを評価します。	25%
キーワードを聞き取れるようになる	授業中のリスニング演習で評価します。	25%
英会話に必要な語彙を学ぶ	期末テストおよび小テストで評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標を60%の換算として、それ以外の平常点（課題の提出、積極的な授業参加など）を40%として加えて、計100%として評価。 授業の出席は3分の2以上であること。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Unit 1 In-Flight Announcements	航空機内でのさまざまな表現を学ぶ
2	continued	続き
3	Unit 2 At Customs	入国手続きに必要な表現を学ぶ
4	continued	続き
5	Unit 3 Getting to a Hotel	空港からホテルへ移動するときに必要な表現を学ぶ
6	continued	続き
7	Unit 4 Checking into a Hotel	ホテルでのチェックインのときに使う表現を学ぶ
8	continued	続き
9	Unit 5 Checking in without a Reservation	予約なしでチェックインするときの表現を学ぶ
10	continued	続き
11	Unit 6 At a Restaurant	レストランでの注文や支払いについて学ぶ
12	continued	続き
13	まとめおよび復習	ふりかえりと確認テストへの準備
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Shimada, Takuji & Benfield, Bill Travel English at Your Fingertips 成美堂 2019

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回授業内で予習すべき範囲や提出課題の告知を行います。次回の授業までに、指定された項目を予習してきてください。

【その他の注意事項】

◇詳しいことは初回の授業で説明します。

英会話 I	キムラ ナオキ 木村 直樹
English Conversation I	基礎科目／半期／1単位

【授業概要】

この講座では、英語力をすでに少し持っている人が、留学やビジネス、研修、旅行などで海外に行くときに役立つ英語をすばやく身につけることを目的とします。これまで何年も英語を勉強してきたにもかかわらず、単語を文法的にどうつなげて、どのように言いたいことを表すのかがよくわからない、という人は、少なからずいると思います。したがって、まずは比較的優しいレベルの英文や構文を使って基礎を復習しながら、空港での会話、ショッピング、ホームステイ、学校での会話など、英語圏の日常生活で起こりやすい状況で使える英会話表現を学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英語コミュニケーションに必要な構文、文法知識を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
会話の流れを聞いて理解し、適切な表現で応答できるようになる	授業中のリスニング課題、ロールプレイでの英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
学んだ表現を応用して会話を組み立てることができるようになる	テキスト内の課題に取り組み、授業中の発表によって評価します。	25%
学んだ内容を応用して自分の考えを英語で書けるようになる	学期内一度の課題提出によって評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、その他に課題、発表、授業での積極性などを30%、計100%で評価する。 『学生要覧』記載事項に準拠し、授業への出席は3分の2以上を前提とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	講義内容や評価方法の説明、レベルチェック
2	Unit1:My suitcase is overweight	空港や飛行機での会話表現例
3	(continued)	(続き)
4	Unit2:I'm suffering from jetlag	時差ぼけや時差の違いを表すのに使う表現
5	(continued)	(続き)
6	Unit3:Each host family is different	ホームステイ先のルールに関する表現例
7	(continued)	(続き)
8	Unit4:I'm experiencing culture shock	文化の違いとカルチャーショックについて
9	(continued)	(続き)
10	Unit5:My dormitory is too noisy	提案や要望を表す表現例
11	(continued)	(続き)
12	Unit6:How can I make friends?	海外での様々なアクティビティーについて
13	前期の総復習	6章までの内容を確認
14	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

- ◇ Simon Cookson & Chihiro Tajima (2020) Communicate Abroad: Essential English for Travel and Study. Cengage Learning.

【履修条件等】

- ◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇教員の指定に応じて、次回の授業までに課題や予習を準備してくること。

【その他の注意事項】

- ◇授業ではiPadを使うアクティビティーがあるので、配布後は毎回必ず持参すること。

英会話 I	ジャネット ジョンソン Janet Johnson
English Conversation I	基礎科目／半期／1単位

【授業概要】

この授業では、英会話の基礎を学びます。クラスでは、リズムをつけたスピーキングのウォームアップをしたり、日常生活でのコミュニケーションに大切なさまざまな会話を練習したりします。また、教科書のリスニング問題や歌を使ってリスニング練習をすることにより耳のトレーニングをします。インタビュー形式の活動やロールプレイも行います。さらに、海外の習慣を学ぶこともあります。自分が育った文化における習慣や行事についても英語で説明できるようにしましょう。楽しんで言葉を練習し、単語やフレーズを学び、リスニング力を高めることが、この授業の目的です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
適切な挨拶の表現が使える、自分について話したり相手のことを尋ねることができる、さまざまな職業が分かる、値段や素材を尋ねるなど買い物の場面で必要な会話ができる、複数形や距離を示す表現が使える	筆記試験（教科書やウォームアップに出てくる単語、フレーズ、表現を含む）、リスニング試験（教科書の内容に関連のある会話より出題）。	30%
外国の通貨を使って買い物をする、アメリカの通貨に親しむ、好き嫌いについて自分の意見を言う、招待を受ける・断る、意見を言う、天気について話す	筆記試験（関連のある単語試験を含む）、質問に英語で答える、リスニング試験（教科書の会話例とクラスで学んだ問題より出題）。	30%
授業への積極的な参加	授業への積極的な参加は、語学の習得と上達に大変重要です。すべての口頭および筆記での活動に積極的に参加してください。	25%
課題：宿題、自習、ミニテスト、出席	宿題、予習、自主学習、定期的に行われるミニテスト。出席は必須です。	15%
評価の方法 筆記およびリスニングテスト30%×2、授業への参加25%、宿題・自主学習15%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Orientation	Explanation of class content and procedures. Warm ups.
2	Unit 1 Greetings	Personal info. Present tense statements. Pair work.
3	Greetings cont. Self Introductions	Speaking exercises. Giving and asking for information.
4	Unit 2 Occupations	Occupations. Describing types of work. Conversation and grammar exercises.
5	Unit 2 cont.	Jobs. Speaking practice. Self-study exercises.
6	Unit 3 Shopping	Asking prices. Describing items by proximity, color, type. Stating preferences.
7	Money	Learning and identifying USA currency.
8	Review Units 1 – 3	Review exercises and preparation for first Short test.
9	Short Test	Test on Units 1 – 3
10	Unit 4 Entertainment	Describing entertainment likes and dislikes.
11	Unit 4 cont.	Invitations: Extending and declining
12	Unit 5 Families	Identifying family relationships.
13	Unit 6 cont.	Talking about families.
14	Final Test	Final test

【使用教材】

- ◇ Interchange : English for international communication Book 1
 Jack C. Richards with Jonathan Hull and Susan Proctor
 Cambridge University Press

【履修条件等】

- ◇ 授業で行う活動に積極的に参加すること（とくに会話練習）。会話練習やその他授業で行う活動についていけるよう、出席は必須です。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇ とくになし。

【その他の注意事項】

- ◇ 授業で扱う内容の予習と復習はしっかり行ってください。また、リスニング力アップのため、教科書付属のCDを使って練習をしてください。宿題はきちんと済ませ、単語の暗記もすること。ペアでの会話練習は積極的に参加すること。

英会話 I	ブレント フィアルカ Brent Fialka
English Conversation I	基礎科目／半期／1単位

【授業概要】

スニングを総合的に学習します。全員が積極的に参加できるよう、クラス内の全てのアクティビティーは2人一組のペアか小グループを作って行います。積極的な参加姿勢はとても大切です！ この授業の目的は、楽しみながら英会話を学ぶことです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
文法の理解	それぞれの単元で基本的な文法事項を確認した後で練習問題に取り組み、平易な文法事項を理解できるようになる。	20%
会話力の向上	新しく学んだ文法事項を使って、簡単な英会話を組み立てられるようになる。	25%
リスニング力の向上	各ユニット内のリスニング問題に取り組み、以前に学んだ会話表現をしっかりと使えるようになる。	25%
読解力の向上	テキスト内の簡単な英文を読み、読解セクションまでに学んだ知識を応用できるようになる。	20%
英作文	簡単な英文を作れるようになる。	10%
評価の方法 最終評価には中間試験と期末試験がそれぞれ25%ずつ含まれます。残りの50%は授業での積極的な参加姿勢、たとえば出席、積極性、グループワークやペアワーク、授業内での発言や課題への取り組みなどが含まれます。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Unit 1	Introduction of course materials, class structure and rules. Begin unit one.
2	Unit 1	Finish text material and do workbook exercises.
3	Unit 2	To be + Location. Subject pronouns. Classroom objects, rooms in the home, cities and nationalities, places around town.
4	Unit 3	Present continuous tense. Everyday activities
5	Unit 4	To be: short answers and possessive adjectives. Everyday activities.
6	Unit 5	Yes/No questions, short answers, adjectives, possessive nouns. Describing people and things. Weather.
7	Unit 5	Finish text material up to unit 5 and do workbook exercises. Review for test.
8	Midterm test 25%	
9	Unit 6	Review present continuous tense. Review prepositions of location. Family members. Describing activities and events.
10	Unit 7	Prepositions. There is/there are. Places around town. Locating places. Describing neighborhoods. Describing apartments.
11	Unit 7	Finish text material and do workbook exercises.
12	Unit 8	Singular/ plural. Adjectives. This/that/these/those.
13	Unit 8	Finish text material and do workbook exercises.
14	Final test	Final test on units 6 to 9

【使用教材】

- ◇ Side by Side Extra. Book and eText 1. International edition.
Steven J. Molinsky and Bill Bliss. Pearson Education Inc.

【履修条件等】

- ◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇詳細は初回の授業で指示します。

【その他の注意事項】

- ◇出席は3分の2を満たすことを前提とします。クラスでの参加度合いを重視しますので、積極的に授業に参加することを求めます。

英会話 I	ワタナベ キミヨ 渡邊 きみ代
English Conversation I	基礎科目／半期／1単位

【授業概要】

本講義では、身近な話題を取り上げ、実際に役立つ表現を用いて、自分の意見を伝えられるようになることを目的とする。さらに、毎回の授業において、ボキャブラリー（語彙）を増やし、英語に親しむ態度を育成する。話すことによって自分を理解してもらうこと、聞き取ることによって相手を理解することからはじめ、日常生活、海外旅行で用いる慣用的な表現など、さまざまな状況を設定しペア・ワークやロール・プレイなどを行う。積極的に参加すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日常生活あるいは海外旅行に必要な英語表現を身につける	会話テスト、授業中のペア・ワークやロール・プレイによって評価を行なう。 発音、イントネーションに気をつけ、間違いなく、よどみのない、わかりやすい英語を話すことができるようになる。	40%
応用力を身につける	授業で学んだ表現を応用できる。 自分で文章を構成し、正しいスペルで書くことができる。	30%
語彙力の強化	筆記テストによって評価する。 授業で学んだ表現、ボキャブラリーを正しく理解、記憶し、用いることができる。	30%
評価の方法 遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Introduction	授業の進め方、評価についての説明
2	あいさつ	be 動詞と一般動詞
3		いろいろなパターンのあいさつ
4	自己紹介	疑問文と否定文
5		自分を知ってもらう
6	感想を言う	現在形と過去形
7		人、物事についての意見を述べる
8	会話テスト	
9	注文する	可算名詞と不可算名詞
10		レストランでの会話
11	お願いをする	代名詞
12		いろいろなパターンの依頼
13	会話テスト	二人一組の対話形式あるいは教員の質問に答える形式
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：Hello New York 著者：Takehisa Tsuchiya, Yoshihiko Honda, Braven Smillie

【履修条件等】

◇遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの該当ユニットに目を通す。

◇毎回の授業前には、前回の内容を復習しておくこと。授業内で、復習すべき問題などを指示する。

【その他の注意事項】

◇評価項目にある授業参加度とは、能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む）、授業外学習、理解度などから総合的に評価することとしており、単に授業に「出席」するだけでは、その要件を満たさない。したがって、授業に支障をきたすもの（私語、携帯電話など）を禁ずることはもちろんのこと、積極的な参加を期待する。

英会話 I（留学生）	キムラ ナオキ 木村 直樹
English Conversation I	基礎科目／半期／1単位

【授業概要】

この講座では、アメリカの大学生が日常的にかわしているような英会話を、クラスメートとして楽しく演習し、習得することを目的とします。今まで、学校で習ってきた英語が、実際の英会話となんとなく違うと感じている人も、皆さんの中にはいるかもしれません。そこで、この講座は、実際の様々な場面で役に立つ英語表現を、なるべく少ない語彙で用いる方法について学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英語コミュニケーションに必要な構文、文法知識を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
会話の流れを聞いて理解し、適切な表現で応答できるようになる	授業中のリスニング課題、ロールプレイでの英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
学んだ表現を応用して会話を組み立てることができるようになる	テキスト内の課題に取り組み、授業中の発表によって評価します。	25%
学んだ内容を応用して自分の考えを英語で書けるようになる	学期内一度の課題提出によって評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、その他に課題、発表、授業での積極性などを30%、計100%で評価する。 『学生要覧』記載事項に準拠し、授業への出席は3分の2以上を前提とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	講義内容や評価方法の説明、レベルチェック
2	Unit1: Introductions	自分のことを相手に伝える表現
3	Unit1: Short Talk	朝食について
4	Unit2: Daily Life	ルーティンの頻度についての表現
5	Unit2: Short Talk	週末のアクティビティーについて
6	Unit3: Weekend Events	自分の興味や関心を相手に伝える
7	Unit3: Short Talk	アルバイト
8	Unit4: Small Talk	あいさつと相手への会話の振り方
9	Unit4: Short Talk	日曜日の朝のアクティビティー
10	Unit5: Likes and Dislikes	好みや苦手な物、またその理由について説明する
11	Unit5: Short Talk	今日の出来事について
12	Unit6: Student Life	欲しい物や必要な物について話す
13	前期の総復習	6章までの内容を確認
14	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

- ◇ Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvisst and Yuki Hasegawa (2019)
Free Talking-Basic Strategies for Building Communication. Cengage Learning

【履修条件等】

- ◇ とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇ 教員の指定に応じて、次回の授業までに課題や予習を準備してくること。

【その他の注意事項】

- ◇ 授業では iPad を使うアクティビティーがあるので、配布後は毎回必ず持参すること。

英会話 I（再履修）	キムラ ナオキ 木村 直樹
English Conversation I	基礎科目／半期／1単位

【授業概要】

この講座では、アメリカの大学生が日常的にかわしているような英会話を、クラスメートとして楽しく演習し、習得することを目的とします。今まで、学校で習ってきた英語が、実際の英会話となんとなく違うと感じている人も、皆さんの中にはいるかもしれません。そこで、この講座は、実際の様々な場面で役に立つ英語表現を、なるべく少ない語彙で用いる方法について学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英語コミュニケーションに必要な構文、文法知識を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
会話の流れを聞いて理解し、適切な表現で応答できるようになる	授業中のリスニング課題、ロールプレイでの英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
学んだ表現を応用して会話を組み立てることができるようになる	テキスト内の課題に取り組み、授業中の発表によって評価します。	25%
学んだ内容を応用して自分の考えを英語で書けるようになる	学期内一度の課題提出によって評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、その他に課題、発表、授業での積極性などを30%、計100%で評価する。 『学生要覧』記載事項に準拠し、授業への出席は3分の2以上を前提とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	講義内容や評価方法の説明、レベルチェック
2	Unit1: Introductions	自分のことを相手に伝える表現
3	Unit1: Short Talk	朝食について
4	Unit2: Daily Life	ルーティンの頻度についての表現
5	Unit2: Short Talk	週末のアクティビティーについて
6	Unit3: Weekend Events	自分の興味や関心を相手に伝える
7	Unit3: Short Talk	アルバイト
8	Unit4: Small Talk	あいさつと相手への会話の振り方
9	Unit4: Short Talk	日曜日の朝のアクティビティー
10	Unit5: Likes and Dislikes	好みや苦手な物、またその理由について説明する
11	Unit5: Short Talk	今日の出来事について
12	Unit6: Student Life	欲しい物や必要な物について話す
13	前期の総復習	6章までの内容を確認
14	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

- ◇ Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvisst and Yuki Hasegawa (2019)
Free Talking-Basic Strategies for Building Communication. Cengage Learning

【履修条件等】

- ◇ とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇ 教員の指定に応じて、次回の授業までに課題や予習を準備してくること。

【その他の注意事項】

- ◇ 授業では iPad を使うアクティビティーがあるので、配布後は毎回必ず持参すること。

英会話Ⅱ	カツタ カオル 勝田 薫
English Conversation II	基礎科目／半期／1単位

【授業概要】

中学と高校6年間でかなりの語彙数、文法知識、読解力を身につけたことと思います。それらの知識がばらばらで、上手に統合・応用できないと英語に苦手意識を持ってしまうものです。この授業では海外旅行のさまざまなシーンを想定して、適切な英会話ができる能力を養うことを目指します。授業では、基本となるフレーズをじっくり練習しましょう。中学3年生までに学習する文法知識と語彙力があれば簡単な旅行英会話には十分なのです。なお、座席は指定席となります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な英語表現を覚える	授業で学習した項目がどれくらい身についているかを確認テストで評価します。	25%
簡単な英語でのやり取りができるようになる	授業内で、教員と学生がロールプレイを行い、英語表現を適切に使用しているかを評価します。	25%
キーワードを聞き取れるようになる	授業内でのリスニング演習で評価します。	25%
英会話に必要な語彙を学ぶ	期末テストおよび小テストで評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標を60%の換算として、それ以外の平常点（課題の提出、積極的な授業参加など）を40%として加えて、計100%として評価。 授業の出席は3分の2以上であること。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Unit 7 Taking the Subway	自分が行きたい場所への道順の説明を聞き取り、それに関連した英語表現を学ぶ
2	continued	続き
3	Unit 8 At a Fast-Food Restaurant	ファストフードの店舗での注文の仕方を学ぶ
4	continued	続き
5	Unit 9 Hotel Service	宿泊しているホテルで提供されるさまざまなサービスを利用する仕方を学ぶ
6	continued	続き
7	Unit 10 Booking a Tour	市内観光ツアーの予約にかかわる表現を学ぶ
8	continued	続き
9	Unit11 Health Care	医療機関の受診の仕方を学ぶ
10	continued	続き
11	Unit 12 Shopping	試着をするとき、商品を購入するときに必要な表現を学ぶ
12	continued	続き
13	まとめおよび復習①	秋学期の学習のポイントのふりかえりと確認テストへの準備
14	まとめおよび復習②	秋学期の学習のポイントのふりかえりと確認テストへの準備
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Shimada, Takuji & Benfield, Bill Travel English at Your Fingertips 成美堂 2019

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回授業内で予習すべき範囲や提出課題の告知を行います。次回の授業までに、指定された項目を予習してきてください。

【その他の注意事項】

◇詳しいことは初回の授業で説明します。

英会話Ⅱ	キムラ ナオキ 木村 直樹
English Conversation II	基礎科目／半期／1単位

【授業概要】

この講座では、英語力をすでに少し持っている人が、留学やビジネス、研修、旅行などで海外に行くときに役立つ英語をすばやく身につけることを目的とします。これまで何年も英語を勉強してきたにもかかわらず、単語を文法的にどうつなげて、どのように言いたいことを表すのかがよくわからない、という人は、少なからずいると思います。したがって、まずは比較的優しいレベルの英文や構文を使って基礎を復習しながら、空港での会話、ショッピング、ホームステイ、学校での会話など、英語圏の日常生活で起こりやすい状況で使える英会話表現を学びます（この講座は「英会話Ⅰ」の続きです）。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英語コミュニケーションに必要な構文、文法知識を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
会話の流れを聞いて理解し、適切な表現で応答できるようになる	授業中のリスニング課題、ロールプレイでの英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
学んだ表現を応用して会話を組み立てることができるようになる	テキスト内の課題に取り組み、授業中の発表によって評価します。	25%
学んだ内容を応用して自分の考えを英語で書けるようになる	学期内一度の課題提出によって評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、その他に課題、発表、授業での積極性などを30%、計100%で評価する。 『学生要覧』記載事項に準拠し、授業への出席は3分の2以上を前提とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	講義内容や評価方法の説明、レベルチェック
2	Unit 7: What should I talk about?	会話の導入にあたるトピックの表現例
3	(continued)	(続き)
4	Unit 8: I feel homesick	ホームシックとは何か
5	(continued)	(続き)
6	Unit 9: How do I order food?	レストランで注文をする際の会話表現
7	(continued)	(続き)
8	Unit 10: I lost my passport	何かを失くした場合・貴重品の英語での表し方
9	(continued)	(続き)
10	Unit 11: I need to go to hospital	体調を崩した時の言い回し
11	(continued)	(続き)
12	Unit 12: I don' t want to leave	帰国の準備と、海外留学をすることのメリット
13	(continued)	(続き)
14	後期の総復習	テキスト最終章までの内容確認
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

- ◇ Simon Cookson & Chihiro Tajima (2020) Communicate Abroad: Essential English for Travel and Study. Cengage Learning.

【履修条件等】

- ◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇教員の指定に応じて、次回の授業までに課題や予習を準備してくること。

【その他の注意事項】

- ◇授業では iPad を使うアクティビティーがあるので、配布後は毎回必ず持参すること。

英会話Ⅱ	ジャネット ジョンソン Janet Johnson
English Conversation II	基礎科目／半期／1単位

【授業概要】

「英会話Ⅱ」では、引き続き英会話の基礎を学んでいきます。クラスでは、リズムをつけたスピーキングのウォームアップをしたり、日常生活でのコミュニケーションに大切なさまざまな会話を練習したりします。また、教科書のリスニング問題や歌を使ってリスニング練習をすることにより耳のトレーニングをします。インタビュー形式の活動やロールプレイも行います。さらに、海外の習慣を学ぶこともあります。自分が育った文化における習慣や行事についても英語で説明できるようにしましょう。楽しんで言葉を練習し、単語やフレーズを学び、リスニング力を高めることが、この授業の目的です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
適切な挨拶の表現が使える、自分について話したり相手のことを尋ねることができる、さまざまな職業が分かる、値段や素材を尋ねるなど買い物の場面で必要な会話ができる、複数形や距離を示す表現が使える	筆記試験（教科書やウォームアップに出てくる単語、フレーズ、表現を含む）、リスニング試験（教科書の内容に関連のある会話より出題）。	30%
外国の通貨を使って買い物をする、アメリカの通貨に親しむ、好き嫌いについて自分の意見を言う、招待を受ける・断る、意見を言う、天気について話す	筆記試験（関連のある単語試験を含む）、質問に英語で答える、リスニング試験（教科書の会話例とクラスで学んだ問題より出題）。	30%
授業への積極的な参加	授業への積極的な参加は、語学の習得と上達に大変重要です。すべての口頭および筆記での活動に積極的に参加してください。	25%
課題：宿題、自習、ミニテスト、出席	宿題、予習、自主学習、定期的に行われるミニテスト。出席は必須です。	15%
評価の方法 筆記およびリスニングテスト30%×2、 授業への参加25%、宿題・自主学習15%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Summer Report	Greetings and report of summer activities.
2	Review Unit 5	Review of last material covered in English I.
3	Unit 6 Leisure	Asking about locations and places. Listening. Repeating.
4	Unit 6	Survey on leisure activities.
5	Cross-cultural topic	Halloween. Customs, history, essential warning vocabulary
6	Unit 7 Weekend	Practice Past tense. Wh-questions.
7	Unit 7	Additional conversation and grammar practice.
8	Review Units 6 & 7	Review exercises and preparation for test.
9	Short Test	Test on Units 6 & 7
10	Unit 8 Cities-Places	Locations, neighborhoods. There is/ There are practice.
11	Unit 8 cont.	Finding out about new areas.
12	Unit 9 Appearance	Describing appearances. Listening practice.
13	Unit 9 cont.	Present continuous practice. Describing pictures.
14	Review 8 & 9	Review of materials and preparation for Final test.
15	Final Test	Final test

【使用教材】

- ◇ Interchange : English for international communication Book 1
 Jack C. Richards with Jonathan Hull and Susan Proctor
 Cambridge University Press

【履修条件等】

- ◇授業で行う活動に積極的に参加すること（とくに会話練習）。会話練習やその他授業で行う活動についていけるよう、出席は必須です。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇とくになし。

【その他の注意事項】

- ◇授業で扱う内容の予習と復習はしっかり行ってください。また、リスニング力アップのため、教科書付属のCDを使って練習をしてください。宿題はきちんと済ませ、単語の暗記もすること。ペアでの会話練習は積極的に参加すること。

英会話Ⅱ	ブレント フィアルカ Brent Fialka
English Conversation II	基礎科目／半期／1単位

【授業概要】

スニングを総合的に学習します。全員が積極的に参加できるよう、クラス内の全てのアクティビティーは2人一組のペアか小グループを作って行います。積極的な参加姿勢はとても大切です！ この授業の目的は、楽しみながら英会話を学ぶことです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
文法の理解	それぞれの単元で基本的な文法事項を確認した後で練習問題に取り組み、平易な文法事項を理解できるようになる。	20%
会話力の向上	新しく学んだ文法事項を使って、簡単な英会話を組み立てられるようになる。	25%
リスニング力の向上	各ユニット内のリスニング問題に取り組み、以前に学んだ会話表現をしっかりと使えるようになる。	25%
読解力の向上	テキスト内の簡単な英文を読み、読解セクションまでに学んだ知識を応用できるようになる。	20%
英作文	簡単な英文を作れるようになる。	10%
評価の方法 最終評価には中間試験と期末試験がそれぞれ25%ずつ含まれます。残りの50%は授業での積極的な参加姿勢、たとえば出席、積極性、グループワークやペアワーク、授業内での発言や課題への取り組みなどが含まれます。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Unit 10	Simple Present tense. Habitual Actions. People's interests and activities.
2	Unit 10	Finish text material. Workbook exercises.
3	Unit 11	Object Pronouns. Have/has. Adverbs of frequency. Describing frequency of actions. Describing people.
4	Unit 11	Finish text material. Workbook exercises.
5	Unit 12	Contrast; simple present and present continuous. Feelings and emotions. Describing usual and unusual activities.
6	Unit 13	Can. Have to. Expressing ability. Occupations. Looking for a job. Expressing obligation. Invitations.
7	Unit 13	Finish text material. Workbook exercises. Review for test.
8	Midterm test 25%	Test on units 10 to 13.
9	Unit 14	Future. Describing future plans and intentions. Expressing wants Weather forecasts. Telling time. Making predictions.
10	Unit 14	Finish text material. Workbook exercises.
11	Unit 15	Past tense. Past actions and activities. Ailments. Describing an event. Making a doctor's appointment.
12	Unit 16	Past tense continued. Giving reasons. Giving excuses.
13	Unit 17	More past tense! Describing physical states and emotions.
14	Unit 17	Finish text material. Workbook exercises. Review for test.
15	Final test. 25%	Test on units 14 to 17.

【使用教材】

- ◇ Side by Side Extra. Book and eText 1. International edition.
Steven J. Molinsky and Bill Bliss. Pearson Education Inc.

【履修条件等】

- ◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇詳細は初回の授業で指示します。

【その他の注意事項】

- ◇出席は3分の2を満たすことを前提とします。クラスでの参加度合いを重視しますので、積極的に授業に参加することを求めます。

英会話Ⅱ	ワタナベ キミヨ 渡邊 きみ代
English Conversation II	基礎科目／半期／1単位

【授業概要】

本講義では、「英会話Ⅰ」に続き、身近な話題を取り上げ、実際に役立つ表現を用いて、自分の意見を伝えられるようになることを目的とする。さらに、毎回の授業において、ボキャブラリー（語彙）を増やし、英語に親しむ態度を育成する。話すことによって自分を理解してもらうこと、聞き取ることによって相手を理解することから始め、日常生活、海外旅行で用いる慣用的な表現など、さまざまな状況を設定しペア・ワークやロール・プレイなどを行う。積極的に参加すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日常生活あるいは海外旅行に必要な英語表現を身につける	会話テスト、授業中のペア・ワークやロール・プレイによって評価を行なう。 発音、イントネーションに気をつけ、間違いなく、よどみのない、わかりやすい英語を話すことができるようになる。	40%
応用力を身につける	授業で学んだ表現を応用できる。 自分で文章を構成し、正しいスペルで書くことができる。	30%
語彙力の強化	筆記テストによって評価する。 授業で学んだ表現、ボキャブラリーを正しく理解、記憶し、用いることができる。	30%
評価の方法 遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ウォーミングアップ	夏休みのできごとについて話す
2	場所を説明する	前置詞
3		場所と時間を説明する
4	人を描写する	形容詞と副詞
5		人の性格や特徴を表現する
6	体調を述べる	助動詞
7		健康、病気の表現
8	会話テスト	
9	誘う	進行形
10		誘ったり、薦めたりする
11	誘いを断る	接続詞
12		配慮ある断り方
13	復習	
14	会話テスト	二人一組の対話形式あるいは教員の質問に答える形式
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：Hello New York 著者：Takehisa Tsuchiya, Yoshihiko Honda, Braven Smillie

【履修条件等】

◇遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの該当ユニットに目を通す。

◇毎回の授業前には、前回の内容を復習しておくこと。授業内で、復習すべき問題などを指示する。

【その他の注意事項】

◇評価項目にある授業参加度とは、能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む）、授業外学習、理解度などから総合的に評価することとしており、単に授業に「出席」するだけでは、その要件を満たさない。したがって、授業に支障をきたすもの（私語、携帯電話など）を禁ずることはもちろんのこと、積極的な参加を期待する。

英会話Ⅱ（留学生）	キムラ ナオキ 木村 直樹
English Conversation II	基礎科目／半期／1単位

【授業概要】

この講座では、アメリカの大学生が日常的にかわしているような英会話を、クラスメートとして楽しく演習し、習得することを目的とします。今まで、学校で習ってきた英語が、実際の英会話となんとなく違うと感じている人も、皆さんの中にはいるかもしれません。そこで、この講座は、実際の様々な場面で役に立つ英語表現を、なるべく少ない語彙で用いる方法について学びます（この講座は「英会話Ⅰ（再履修・留学生）」の続きです）。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英語コミュニケーションに必要な構文、文法知識を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
会話の流れを聞いて理解し、適切な表現で応答できるようになる	授業中のリスニング課題、ロールプレイでの英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
学んだ表現を応用して会話を組み立てることができるようになる	テキスト内の課題に取り組み、授業中の発表によって評価します。	25%
学んだ内容を応用して自分の考えを英語で書けるようになる	学期内一度の課題提出によって評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、その他に課題、発表、授業での積極性などを30%、計100%で評価する。 『学生要覧』記載事項に準拠し、授業への出席は3分の2以上を前提とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	講義内容や評価方法の説明、レベルチェック
2	Unit7: Family	外見について相手に伝える表現
3	Unit7: Short Talk	自分の未来像
4	Unit8: Friends	性格についての説明
5	Unit8: Short Talk	個性とは
6	Unit9: Going Out	空いている時間の調整をする表現
7	Unit9: Short Talk	お気に入りの場所へ友人を案内する
8	Unit10: Restaurants	食べ物や飲み物の注文
9	Unit10: Short Talk	最近行ったレストランについての説明
10	Unit11: Shopping	どこで買い物をするか、また提案やそれに対する応答
11	Unit11: Short Talk	買い物について意見を述べる
12	Unit12: Strength & Weakness	自分にできることを相手に伝える
13	Unit12: Short Talk	能力や資格について
14	Unit13: Places	建物や場所について描写する
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

- ◇ Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvisst and Yuki Hasegawa (2019)
Free Talking-Basic Strategies for Building Communication. Cengage Learning

【履修条件等】

- ◇ とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇ 教員の指定に応じて、次回の授業までに課題や予習を準備してくること。

【その他の注意事項】

- ◇ 授業では iPad を使うアクティビティーがあるので、配布後は毎回必ず持参すること。

英会話Ⅱ（再履修）	キムラ ナオキ 木村 直樹
English Conversation II	基礎科目／半期／1単位

【授業概要】

この講座では、アメリカの大学生が日常的にかわしているような英会話を、クラスメートとして楽しく演習し、習得することを目的とします。今まで、学校で習ってきた英語が、実際の英会話となんとなく違うと感じている人も、皆さんの中にはいるかもしれません。そこで、この講座は、実際の様々な場面で役に立つ英語表現を、なるべく少ない語彙で用いる方法について学びます（この講座は「英会話Ⅰ（再履修・留学生）」の続きです）。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英語コミュニケーションに必要な構文、文法知識を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
会話の流れを聞いて理解し、適切な表現で応答できるようになる	授業中のリスニング課題、ロールプレイでの英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
学んだ表現を応用して会話を組み立てることができるようになる	テキスト内の課題に取り組み、授業中の発表によって評価します。	25%
学んだ内容を応用して自分の考えを英語で書けるようになる	学期内一度の課題提出によって評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、その他に課題、発表、授業での積極性などを30%、計100%で評価する。 『学生要覧』記載事項に準拠し、授業への出席は3分の2以上を前提とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	講義内容や評価方法の説明、レベルチェック
2	Unit7: Family	外見について相手に伝える表現
3	Unit7: Short Talk	自分の未来像
4	Unit8: Friends	性格についての説明
5	Unit8: Short Talk	個性とは
6	Unit9: Going Out	空いている時間の調整をする表現
7	Unit9: Short Talk	お気に入りの場所へ友人を案内する
8	Unit10: Restaurants	食べ物や飲み物の注文
9	Unit10: Short Talk	最近行ったレストランについての説明
10	Unit11: Shopping	どこで買い物をするか、また提案やそれに対する応答
11	Unit11: Short Talk	買い物について意見を述べる
12	Unit12: Strength & Weakness	自分にできることを相手に伝える
13	Unit12: Short Talk	能力や資格について
14	Unit13: Places	建物や場所について描写する
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

- ◇ Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvisst and Yuki Hasegawa (2019)
Free Talking-Basic Strategies for Building Communication. Cengage Learning

【履修条件等】

- ◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇教員の指定に応じて、次回の授業までに課題や予習を準備してくること。

【その他の注意事項】

- ◇ 授業では iPad を使うアクティビティーがあるので、配布後は毎回必ず持参すること。

基礎英語 I	アベ マキコ 阿部 牧子
Basic English I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

基礎的な文法と語彙の習得を目的としたテキストを使って学習を進めていきます。英文和訳、和文英訳、部分作文などの問題を通じて文法の復習をします。教科書は15ユニットに渡って、アメリカに留学中の日本人学生の日常生活を描いています。辞書を使って読み進めていきましょう。語彙力をつけるために、単語や熟語のテストを実施します。通じる英語を目指して、発音指導を行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
主語や動詞などの英文の構成素の働きについて区別できる	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
200語程度の英文を読んで理解できる。 なるべく英語で直接考えるようにする	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
各章に配されている単語と派生語の意味を覚え、書けるようにする	語彙テストで評価する。 正確に綴りを書くことができること。	20%
音声CDで発音練習を繰り返し、正しい発音を身につける	授業中の発話から評価する。 内容が相手に伝わるように、はっきりと発音できること。	20%
評価の方法 本試験50%、語彙テスト20%、授業での発言など30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の概要説明、自己紹介他
2	品詞と語順	名詞、動詞、形容詞、副詞の文中での役割を理解する
3	be 動詞	First Day of Class
4	一般動詞の現在形	I Love Bread
5	可算名詞/不可算名詞	Pizza Time
6	代名詞	Not Just a Baker
7	一般動詞の過去形	What's Wrong With Hitomi?
8	中間試験	試験と解説
9	進行形	It Won't Hurt
10	時と場所を表す前置詞	I Feel Healthy Already
11	未来形	Small Talk
12	現在完了形	Weight Down, Power Up
13	総まとめ	演習問題と解説
14	本試験	試験（60分）と解説

【使用教材】

◇ ENGLISH Aid

Robert Hickling / Misato Usukura 著 金星堂

【履修条件等】

◇基礎英語は選択必修科目です。教室で英語を基礎から学習する最後の機会です。

◇辞書を必ず持参すること（電子辞書可）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示されたホームワークをやってくこと。

【その他の注意事項】

◇指定教材以外に、プリント教材を使うことがあります。

◇入学時に配布された iPad を使うことがあります。

基礎英語 I	キタダ ケイコ 北田 敬子
Basic English I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

これまでに培ってきた英語の基礎能力を、実用に堪えるものとしてさらに強化することを目的としたクラスです。語彙力を鍛え、シンプルな文章を読み解き、最低限自分の考えを英語の文章で表現できるよう練習を積み、「英語が分かる」「話せる」レベルを目指します。そのために地道な繰り返しによるトレーニングは不可欠ですが、同時に「楽しく」「興味の持てる」学習方法を探っていきたいと思います。生涯続けられる英語の勉強の基礎を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英語の文章の基礎構造を理解し、単純な文章を読んですぐ理解できるようになることを目標にする	語彙力強化のための小テストを行い、進捗状況进行评估する。 テキスト各課の概要がつかめたかどうか判定する試験を行って評価する。	40%
シンプルな情報を耳で聞いてキャッチできるようになることを目標とする	授業中に英語音声を聴く機会を設け、練習問題にどの程度答えられるか、チェックして評価する。	20%
伝えたいことを簡潔で、分かりやすい英語の文章で書けるようになることを目標とする	数週間に一回短い作文の課題を与え、添削の上返却する。その取り組みぶりを評価の対象とする。	20%
臆せず英語で簡単な会話ができるようになることを目標とする	英語による授業内活動を行い、参加・貢献度を判定する。	20%
評価の方法 毎回の小課題30%、小テスト・学期末試験50%、 クラス内活動への参加等20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	導入	授業概要説明
2	Unit 1 Who Is Pepper?	動詞の種類・時制の使い方確認
3	Unit 1 Who Is Pepper?	ロボットと共に生きる時代について考える
4	Unit 2 自給自足生活	代名詞の使用法の確認
5	Unit 2 自給自足生活	Self-Sufficient Family の現状について学ぶ
6	Unit 3 Starbucks	動詞の過去時制の確認
7	Unit 3 Starbucks	日本におけるスタバの特徴について考察する
8	Unit 5 Roman Thermae	時と場所を表す前置詞の確認
9	Unit 5 Roman Thermae	ローマ人と浴場の文化について学ぶ
10	Unit 6 Cashless	進行形の使い方の確認
11	Unit 6 Cashless	キャッシュレス社会について考察する
12	Unit 7 Marathons	疑問代名詞の使い方の確認
13	Unit 7 Marathons	マラソンの歴史と話題をめぐって
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Reading Link

金星堂

ISBN 978-4-7647-4100-3

【履修条件等】

◇語彙練習を欠かさず授業外でも行うこと。

◇課題は必ず提出すること。

◇質問・提案など、授業中の発言を歓迎する。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキスト各課の予習は必須である。

◇語彙・表現・文法事項をあらかじめさらしておくこと。

【その他の注意事項】

◇配布プリントや返却された課題などをファイルに整理しておくこと。

◇一部、授業で取り上げる Unit の順序が入れ替わることもある。

基礎英語 I BE-A	キムラ ナオキ 木村 直樹
Basic English I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

この講座では、洋楽のポップスを聴きながら英語特有の音声変化やリズムに慣れ親しみ、英語の基礎力をバランスよく向上させることを目的とします。「英語の歌を聴いて歌詞をそのまま理解したい」と願う人は多いですが、聞き取りは容易ではありません。これは、単語間の音がつながったり、省略が起きたりなど、さまざまな音声変化が起こっているためです。この音声規則について、授業内では詳しく説明をするとともに、「読む」「聴く」「書く」「話す」の総合的な英語力の向上を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法、動詞の語法を習得する	授業内の小テストおよび筆記試験で評価します。	25%
正しい文法で自分の考えを英語で書いて表すことができるようになる	補足課題および発表で評価します。	25%
英語を聞き取り、書いて表すことができるようになる	授業内のリスニング、ディクテーションの内容で評価します。	25%
自分の意見を英語で表明できるようになる	授業内のペアワークやロールプレイ、ディスカッションへの参加、貢献度で評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、課題および発表30%で評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	授業の概要説明、レベルチェック問題の演習など
2	You're beautiful	ディクテーションと発声チェック
3	文法事項：be 動詞	be 動詞の復習と関連読解
4	I Want It That Way	ディクテーションと発声チェック
5	文法事項：動詞（現在形）	一般動詞現在形の復習と関連読解
6	The First Time	ディクテーションと発声チェック
7	文法事項：動詞（過去形）	一般動詞過去形の復習と関連読解
8	Complicated	ディクテーションと発声チェック
9	文法事項：進行形	動詞進行形の復習と関連読解
10	My Heart Will Go On	ディクテーションと発声チェック
11	文法事項：未来表現	さまざまな未来表現の復習と関連読解
12	With You	ディクテーションと発声チェック
13	文法事項：助動詞	助動詞・主観性の学習と関連読解
14	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Teruhiko Kadoyama & Timothy F. Hawthorne (2020).

Let's Learn English with Pop Hits! ～ポップスでスタート！基礎英語～成美堂

※補助教材については別途指示する。

【履修条件等】

◇ 「英会話Ⅰ」、「英会話Ⅱ」を履修済みか、同時履修中であることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ 毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇ iPad を持参すること。必要となるアプリの詳細は初回授業で告知する。

基礎英語 I BE-B	キムラ ナオキ 木村 直樹
Basic English I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

この講座では、映画「タイタニック」のストーリーをベースにして、日常会話で使われる英語表現や、英語表現での抑揚のつけ方などを学ぶとともに、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの4技能を総合的に網羅した英語を学習します。英語での読み書きに必要な語彙力・文法力を高め、相手の言いたいことを適切に聞き取る際の注意の払い方や、場の状況に応じたさまざまな言い回しを解説します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法、動詞の語法を習得する	授業内の小テストおよび筆記試験で評価します。	25%
正しい文法で自分の考えを英語で書いて表すことができるようになる	補足課題および発表で評価します。	25%
英語を聞き取り、書いて表すことができるようになる	授業内のリスニング、ディクテーションの内容で評価します。	25%
自分の意見を英語で表明できるようになる	授業内のペアワークやロールプレイ、ディスカッションへの参加、貢献度で評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、課題および発表30%で評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	授業の概要説明、レベルチェック問題の演習など
2	The Woman in the Picture	浮沈船と言われたタイタニック号
3	Grammar (Unit 1)	分詞 1
4	Back to Titanic	ホープダイヤモンド
5	Grammar (Unit 2)	受動態
6	Leaving Port	浮沈のモリー・ブラウン
7	Grammar (Unit 3)	助動詞
8	Don't Do It	沈没船から生還した船員
9	Grammar (Unit 4)	仮定法
10	Do You Love Him?	船内の石炭運搬員と機関員
11	Grammar (Unit 5)	進行形
12	I Can't See You	船名の由来
13	Grammar (Unit 6)	関係詞 1
14	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Kadoyama, T., & Capper, S. (2017) Learn English with TITANIC. 成美堂

※補助教材については別途指示する。

【履修条件等】

◇ 「英会話Ⅰ」、「英会話Ⅱ」を履修済みか、同時履修中であることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ 毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇ iPad を持参すること。必要となるアプリの詳細は初回授業で告知する。

基礎英語 I	シシド カール 宍戸 カール
Basic English I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

英語で生きたコミュニケーションができるように4つのスキル—話す、聞く、書く、読む—を身につけるのがクラスの目的です。テキストまたは講師が作成したロールプレイなどを中心に授業を進めていきます。クラスは、楽しい雰囲気の中で学ぶことが基本です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
挨拶や自己紹介の表現を理解し、使えるようにすること	設問に対する回答によって評価。英語での挨拶に臨機応変に対応し、自分のバックグラウンドだけでなく、趣味や夢を英語で説明できること。	30%
相手の仕事内容を尋ねたり、自分の職務の説明ができるようになること	設問に対する回答によって評価。仕事に関連する語彙の習得と表現の練習によって、仕事内容の説明ができること。	30%
約束・請求・謝罪の表現を習得し、使えるようになること	設問に対する回答によって評価。ビジネスにおいて重要な「アポイントのとり方」・「リクエストの仕方」・「謝罪の仕方」などの典型的な表現を習得し、使いこなせるようになること。	40%
評価の方法 ・70%以上の出席を前提として下記のように評価。 出席：30%、授業参加度：30%、筆記試験：40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Unit 1 Hello	Introduction, Greetings
2	Unit 1 Hello	Greetings
3	Unit 2 Your World	Countries, Numbers
4	Unit 2 Your World	Countries, Numbers
5	Unit 3 All About You	Personal Information, Social Expressions
6	Unit 3 All About You	Personal Information, Social Expressions
7	Unit 4 Family/Friends	Describing Family/Friends
8	Unit 4 Family/Friends	Describing Family/Friends
9	Unit 5 I Live	Sports/Food/Drinks
10	Unit 5 I Live	Sports/Food/Drinks
11	Unit 6 Everyday	Time Expression, Preposition
12	Unit 6 Everyday	Time Expression, Preposition
13	Unit 7 My Favorites	Buying help and Review for Final Examination
14	Final Examination	

【使用教材】

◇ American Headway Starter (Third Edition) Oxford University Press

ISBN : 9780194725422

Dictionary

Printouts of activity

【履修条件等】

◇やる気があり、教科書と辞書があり、積極的に会話に参加する意志があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料を熟読し、単語など意味がわからない個所を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

基礎英語 I	タカハタ カズミチ 高畑 一路
Basic English I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」という4つの観点から、英語をバランスよく総合的に身につけることを目標とする。同時に、英語圏の文化、思想、習慣等を理解するようにしたい。使用する教科書は、語彙、文法、読解、会話のあらゆる角度から工夫されたものであり、総合的な英語力を身につけるのに適している。基本的にはこの教科書に沿って授業を進めていくが、受講者のレベル、興味などにしたがって、プリント教材を追加する場合がある。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英語で簡単な会話をすることができるようになること	授業中に行うペアワークによって評価。教科書の課題を利用して、会話の基本パターンを覚えること。	10%
リスニング力を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題で聞かされる英語を正しく聞き取れるようになること。	20%
基礎文法を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題で聞かされる文法問題を解けるようになること。	30%
読解力を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題にある英文の内容を正しく理解できるようになること。	40%
評価の方法 授業数3分の2以上の出席を前提として、授業態度及び授業貢献度20%、 中間試験40%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Introduction	授業についての概要説明
2	Unit 1	Welcome to Japan
3	Unit 1	Welcome to Japan
4	Unit 2	That Sounds Like Fun
5	Unit 2	That Sounds Like Fun
6	Unit 3	We Leave on Friday Morning
7	Unit 3	We Leave on Friday Morning
8	Midterm Exam	中間試験
9	Unit 4	You Know a Lot About Trains
10	Unit 4	You Know a Lot About Trains
11	Unit 5	I Didn't Want to Leave
12	Unit 5	I Didn't Want to Leave
13	Unit 6	You're Working Late
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ English First Basic 著者：Robert Hickling, Misato Usukura 出版社：金星堂

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の該当箇所に目を通し、知らない英単語・熟語があったら覚えておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業に必ず辞書を持参すること（電子辞書可）。

◇指定された教科書を初回の授業までに必ず購入すること。教科書を所有していない学生の受講は許可しない。

◇追加教材に関しては開講時に指示する。

基礎英語 I	ナガハラ カズコ 長原 和子
Basic English I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

テキストの練習問題を解きながら、重要な文法事項を確認し、基礎的な英語運用能力を伸ばすことを目標とします。各ユニットの練習問題は、語彙、リスニング、会話、リーディング、ライティングなど様々な内容のものが用意されています。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な文法事項を習得すること	授業内の確認テスト・期末試験によって評価する。 確認テストや期末試験の文法問題が解けるようになる。	30%
読解力を身につけること	授業内の確認テスト・期末試験によって評価する。 平易な英文を読んで内容を理解することができる。	30%
リスニング力を身につけること	授業内の確認テスト・期末試験によって評価する。 平易な会話の内容を理解することができる。	30%
語彙力を身につけること	授業内の語彙テストで評価する。 各ユニットの基本的な語句の意味を覚える。	10%
評価の方法 期末試験30%、確認テスト30%、語彙テスト10%、 授業への取り組み方30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と授業方針の説明
2	Unit 1	Welcome to Japan（動詞の現在形）
3	Unit 1	Welcome to Japan
4	Unit 2	That Sounds Like Fun（代名詞）
5	Unit 2	That Sounds Like Fun
6	Unit 3	We Leave on Friday Morning（時を表す前置詞）
7	Unit 3	We Leave on Friday Morning
8	Unit 4	You Know a Lot About Trains（基本 5 文型）
9	Unit 4	You Know a Lot About Trains
10	Unit 5	I Didn't Want to Leave（動詞の過去形）
11	Unit 5	I Didn't Want to Leave
12	Unit 6	You're Working Late（進行形）
13	Unit 6	You're Working Late
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ English First Basic Robert Hickling・臼倉美里著 金星堂

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの該当箇所に目を通し、知らない語句を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇指定されたテキストを初回の授業までに購入すること。

◇授業に辞書を持参すること（電子辞書可）。

基礎英語Ⅰ	ワタナベ キミヨ 渡邊 きみ代
Basic English I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

英語を用いて、その表現の方法について学習します。この授業では、文法と語彙を扱い、実際の表現方法である「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」能力を身につけることを目的に、解説を行い、問題演習を行います。その際、「授業計画」にある内容を学習することとなるが、各回の「内容」にあることを目標に行うので、学習の指針として、適宜参照すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
筆記試験	筆記テストによって評価する。	60%
授業参加度	能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む）、授業外学習、理解度などから総合的に評価する。	40%
評価の方法 遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Introduction	・ 授業の進め方 ・ 自己紹介 ・ 英語の文章の成り立ちを理解する
2	Be 動詞	・ be の現在形に関して、主語となる名詞から適切な be 動詞を選択することができるようになる ・ 主語となる名詞から適切な一般動詞を選択することができるようになる
3	一般動詞	・ be の現在形に関して、主語となる名詞から適切な be 動詞を選択することができるようになる ・ 主語となる名詞から適切な一般動詞を選択することができるようになる一般動詞を用いた文章を現在進行形に書き換えることができる
4	be 動詞、一般動詞	・ be 動詞、一般動詞を用いた現在形、現在進行形の疑問文を作ることができる ・ be 動詞の過去形を用いた英作文が出来るようになる
5	代名詞	・ 第1文型、第2文型、第3文型の形と働きを理解する ・ 各文型における補語と目的語の位置を決め、文章を書くことができるようになる
6	代名詞	・ 第4文型、第5文型の形と働きを理解する ・ 各文型における補語と目的語の位置を決め、文章が書くことができるようになる
7	筆記テスト・解説 【中間テスト】	ここまでの授業で学習したことを用いて、筆記形式によるテストを行います
8	前置詞	・ 場所、位置を表す前置詞の種類と意味を把握し、使えるようになる。 ・ 前置詞を用いた英作文が正確に出来るようになる
9	前置詞	・ 自分の身の回りにあるものの位置関係を表現することができる。
10	疑問文	・ Yes、 No で答える疑問文相手に英語で質問をして、必要な情報を聞き出すことができる。
11	疑問文の表現	・ 英語の疑問文の使い方に慣れる。
12	現在進行形、過去進行形	・ 自分が今やっていることを英語で説明できるようにする ・ 進行形の形に慣れ、英文をつくることができる。
13	現在進行形、過去進行形	多くの例文を読み、正確に英作文をする。
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：English First (Starter)
著者：Robert Hickling, Misato Usukura

【履修条件等】

- ◇遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇教科書に目を通し、理解度を確認しておく。
◇毎回の授業前には、前回の内容を復習しておくこと。授業内で、復習すべき問題などを指示する。

【その他の注意事項】

- ◇評価項目にある授業参加度とは、能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む）、授業外学習、理解度などから総合的に評価することとしており、単に授業に「出席」するだけでは、その要件を満たさない。したがって、授業に支障をきたすもの（私語、携帯電話など）を禁ずることはもちろんのこと、積極的な参加を期待する。

基礎英語Ⅰ（再履修）	アベ マキコ 阿部 牧子
Basic English I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

基礎的な文法と語彙の習得を目的としたテキストを使って学習を進めていきます。英文和訳、和文英訳、部分作文などの問題を通じて文法の復習をします。教科書は15ユニットに渡って、アメリカに留学中の日本人学生の日常生活を描いています。辞書を使って読み進めていきましょう。語彙力をつけるために、単語や熟語のテストを実施します。通じる英語を目指して、発音指導を行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
主語や動詞などの英文の構成素の働きについて区別できる	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
200語程度の英文を読んで理解できる。 なるべく英語で直接考えるようにする	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
各章に配されている単語と派生語の意味を覚え、書けるようにする	語彙テストで評価する。 正確に綴りを書くことができること。	20%
音声CDで発音練習を繰り返し、正しい発音を身につける	授業中の発話から評価する。 内容が相手に伝わるように、はっきりと発音できること。	20%
評価の方法 本試験50%、語彙テスト20%、授業での発言など30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の概要説明、自己紹介他
2	品詞と語順	名詞、動詞、形容詞、副詞の文中での役割を理解する
3	be 動詞	First Day of Class
4	一般動詞の現在形	I Love Bread
5	可算名詞/不可算名詞	Pizza Time
6	代名詞	Not Just a Baker
7	一般動詞の過去形	What's Wrong With Hitomi?
8	中間試験	試験と解説
9	進行形	It Won't Hurt
10	時と場所を表す前置詞	I Feel Healthy Already
11	未来形	Small Talk
12	現在完了形	Weight Down, Power Up
13	総まとめ	演習問題と解説
14	本試験	試験（60分）と解説

【使用教材】

◇ ENGLISH Aid

Robert Hickling / Misato Usukura 著 金星堂

【副教材】

◇ A Shorter Course in English Grammar Check

Seishi Sato 著 南雲堂

【履修条件等】

◇基礎英語は選択必修科目です。教室で英語を基礎から学習する最後の機会です。

◇辞書を必ず持参すること（電子辞書可）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示されたホームワークをやってくこと。

【その他の注意事項】

◇教材なしで出席した日の平常点は0（ゼロ）点になります。

◇入学時に配布された iPad を使うことがあります。

基礎英語Ⅱ	アベ マキコ 阿部 牧子
Basic English II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

基礎的な文法と語彙の習得を目的としたテキストを使って学習を進めていきます。英文和訳、和文英訳、部分作文などの問題を通じて文法の復習をします。教科書は15ユニットに渡って、アメリカに留学中の日本人学生の日常生活を描いています。辞書を使って読み進めていきましょう。語彙力をつけるために、単語や熟語のテストを実施します。通じる英語を目指して、発音指導を行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
主語や動詞などの英文の構成素の働きについて区別できる	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
200語程度の英文を読んで理解できる。 なるべく英語で直接考えるようにする	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
各章に配されている単語と派生語の意味を覚え、書けるようにする	語彙テストで評価する。 正確に綴りを書くことができること。	20%
音声CDで発音練習を繰り返し、正しい発音を身につける	授業中の発話から評価する。 内容が相手に伝わるように、はっきりと発音できること。	20%
評価の方法 本試験50%、語彙テスト20%、授業での発言など30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	比較級／最上級	It's Nice … And
2	接続詞	Hitomi Wants a New Look
3	動名詞/不定詞	Shopping for Clothes
4	疑問詞	I'm Meeting a Friend
5	助動詞	Date Night
6	受動態	It's Party Time
7	中間試験	試験と解説
8	関係代名詞	レポートの提出
9	関係代名詞	演習問題
10	仮定法	宝くじが当たったらなあ
11	仮定法	演習問題
12	音読	未定。1 回目の講義時に指示する
13		
14	総まとめ	演習と解説
15	本試験	試験（60分）と解説

【使用教材】

◇ ENGLISH Aid

Robert Hickling / Misato Usukura 著 金星堂

【履修条件等】

◇基礎英語は選択必修科目です。教室で英語を基礎から学習する最後の機会です。

◇辞書を必ず持参すること（電子辞書可）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示されたホームワークをやってくこと。

【その他の注意事項】

◇入学時に配布された iPad を使うことがあります。

基礎英語Ⅱ	キタダ ケイコ 北田 敬子
Basic English II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

これまでに培ってきた英語の基礎能力を、実用に堪えるものとしてさらに強化することを目的としたクラスです。語彙力を鍛え、シンプルな文章を読み解き、最低限自分の考えを英語の文章で表現できるよう練習を積み、「英語が分かる」「話せる」レベルを目指します。そのために地道な繰り返しによるトレーニングは不可欠ですが、同時に「楽しく」「興味の持てる」学習方法を探っていきたいと思います。生涯続けられる英語の勉強の基礎を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英語の文章の基礎構造を理解し、単純な文章を読んですぐ理解できるようになることを目標にする	語彙力強化のための小テストを行い、進捗状況进行评估する。 テキスト各課の概要がつかめたかどうか判定する試験を行って評価する。	40%
シンプルな情報を耳で聞いてキャッチできるようになることを目標とする	授業中に英語音声を聴く機会を設け、練習問題にどの程度答えられるか、チェックして評価する。	20%
伝えたいことを簡潔で、分かりやすい英語の文章で書けるようになることを目標とする	数週間に一回短い作文の課題を与え、添削の上返却する。その取り組みぶりを評価の対象とする。	20%
臆せず英語で簡単な会話ができるようになることを目標とする	英語による授業内活動を行い、参加・貢献度を判定する。	20%
評価の方法 毎回の小課題30%、小テスト・学期末試験50%、 クラス内活動への参加等20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Unit 8 A Pioneer	動名詞と不定詞の使い方の確認
2	Unit 8 A Pioneer	Coco Chanel の活躍と生き方について考える
3	Unit 9 Space Travel	動詞の未来形の確認
4	Unit 9 Space Travel	近未来の宇宙旅行に関する話題を読む
5	Unit 4 Halloween	可算名詞・府可算名詞の確認
6	Unit 4 Halloween	アメリカにおけるハロウィーンの祝い方を知る
7	Unit 10 Amazon	比較級・最上級の使い方の確認
8	Unit 10 Amazon	Amazon の熱帯雨林について考察する
9	Unit 11 YouTuber	助動詞の使い方の確認
10	Unit 11 YouTuber	人気 YouTuber はどのように誕生するか考える
11	Unit 12 Plastics	動詞の現在完了形の確認
12	Unit 12 Plastics	プラスチックの海洋汚染問題について考察する
13	Unit 13 Dogs	従属接続詞の使い方の確認
14	Unit 13 Dogs	人間と犬の関係について考える
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Reading Link

金星堂

ISBN 978-4-7647-4100-3

【履修条件等】

- ◇語彙練習を欠かさず授業外でも行うこと。
- ◇課題は必ず提出すること。
- ◇質問・提案など、授業中の発言を歓迎する。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇テキスト各課の予習は必須である。
- ◇語彙・表現・文法事項をあらかじめさらしておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇配布プリントや返却された課題などをファイルに整理しておくこと。
- ◇一部、授業で取り上げる Unit の順序が入れ替わることもある。

基礎英語Ⅱ BE-K	キムラ ナオキ 木村 直樹
Basic English II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

この講座では、洋楽のポップスを聴きながら英語特有の音声変化やリズムに慣れ親しみ、英語の基礎力をバランスよく向上させることを目的とします。「英語の歌を聴いて歌詞をそのまま理解したい」と願う人は多いですが、聞き取りは容易ではありません。これは、単語間の音がつながったり、省略が起きたりなど、様々な音声変化が起こっているためです。この音声規則について、授業内では詳しく説明をするとともに、「読む」「聴く」「書く」「話す」の総合的な英語力の向上を目指します（この講座は「基礎英語Ⅰ」の続きです）。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法、動詞の語法を習得する	授業内の小テストおよび筆記試験で評価します。	25%
正しい文法で自分の考えを英語で書いて表すことができるようになる	補足課題および発表で評価します。	25%
英語を聞き取り、書いて表すことができるようになる	授業内のリスニング、ディクテーションの内容で評価します。	25%
自分の意見を英語で表明できるようになる	授業内のペアワークやロールプレイ、ディスカッションへの参加、貢献度で評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、課題および発表30%で評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	授業の概要説明、レベルチェック問題の演習など
2	Torn	ディクテーションと発声チェック
3	文法事項：受動態	態の変化・変形の復習と関連読解
4	You Are Not Alone	ディクテーションと発声チェック
5	文法事項：現在完了形	完了・経験・継続表現の復習と関連読解
6	You Gotta Be	ディクテーションと発声チェック
7	文法事項：比較	比較表現の復習と関連読解
8	How Crazy Are You?	ディクテーションと発声チェック
9	文法事項：分詞	過去分詞・現在分詞の復習と関連読解
10	Last Christmas	ディクテーションと発声チェック
11	文法事項：不定詞	不定詞の時制の復習と関連読解
12	Desperado	ディクテーションと発声チェック
13	文法事項：関係詞	WH の用法の復習と関連読解
14	All I Want for Christmas Is You	ディクテーションと発声チェック
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Teruhiko Kadoyama & Timothy F. Hawthorne (2020)

Let's Learn English with Pop Hits! ～ポップスでスタート！基礎英語～成美堂

※補助教材については別途指示する。

【履修条件等】

◇「英会話Ⅰ」、「英会話Ⅱ」を履修済みか、同時履修中であることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇ iPad を持参すること。必要となるアプリの詳細は初回授業で告知する。

基礎英語Ⅱ BE-L	キムラ ナオキ 木村 直樹
Basic English II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

この講座では、映画「タイタニック」のストーリーをベースにして、日常会話で使われる英語表現や、英語表現での抑揚のつけ方などを学ぶとともに、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの4技能を総合的に網羅した英語を学習します。英語での読み書きに必要な語彙力・文法力を高め、相手の言いたいことを適切に聞き取る際の注意の払い方や、場の状況に応じたさまざまな言い回しを解説します（この講座は春学期「基礎英語Ⅰ」の続きです）。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法、動詞の語法を習得する	授業内の小テストおよび筆記試験で評価します。	25%
正しい文法で自分の考えを英語で書いて表すことができるようになる	補足課題および発表で評価します。	25%
英語を聞き取り、書いて表すことができるようになる	授業内のリスニング、ディクテーションの内容で評価します。	25%
自分の意見を英語で表明できるようになる	授業内のペアワークやロールプレイ、ディスカッションへの参加、貢献度で評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、課題および発表30%で評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	春学期の復習、レベルチェック問題の演習など
2	Iceberg Right Ahead!	タイタニック号と衝突した冰山
3	Grammar (Unit 8)	完了形
4	An Honest Thief	沈没を予言した小説
5	Grammar (Unit 9)	分詞 2
6	Goodbye, Mother	沈没まで演奏し続けた楽団
7	Grammar (Unit 10)	未来形
8	Get in the Boat	遺品にまつわる逸話
9	Grammar (Unit 11)	代名詞
10	Two Tragic Bullets	マードック一等航海士の実像
11	Grammar (Unit 12)	動名詞
12	Promise Me	避難時に起きた恥ずべき行為
13	Grammar (Unit 13)	不定詞
14	Rose's Secret	日本人の生存者
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Kadoyama, T., & Capper, S. (2017) Learn English with TITANIC. 成美堂

※補助教材については別途指示する。

【履修条件等】

◇ 「英会話Ⅰ」、「英会話Ⅱ」を履修済みか、同時履修中であることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ 毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇ iPad を持参すること。必要となるアプリの詳細は初回授業で告知する。

基礎英語Ⅱ	シシド カール 宍戸 カール
Basic English II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

英語で生きたコミュニケーションができるように4つのスキル—話す、聞く、書く、読む—を身につけるのがクラスの目的です。テキストまたは講師が作成したロールプレイなどを中心に授業を進めていきます。クラスは、楽しい雰囲気の中で学ぶことが基本です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
挨拶や自己紹介の表現を理解し、使えるようにすること	設問に対する回答によって評価。英語での挨拶に臨機応変に対応し、自分のバックグラウンドだけでなく、趣味や夢を英語で説明できること。	30%
相手の仕事内容を尋ねたり、自分の職務の説明ができるようになること	設問に対する回答によって評価。仕事に関連する語彙の習得と表現の練習によって、仕事内容の説明ができること	30%
約束・請求・謝罪の表現を習得し、使えるようになること	設問に対する回答によって評価。ビジネスにおいて重要な「アポイントのとり方」・「リクエストの仕方」・「謝罪の仕方」などの典型的な表現を習得し、使いこなせるようになること	40%
評価の方法 ・70%以上の出席を前提として下記のように評価。 出席：30%、授業参加度：30%、筆記試験：40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Unit 8 Where I Live	Rooms, Furniture, Directions
2	Unit 8 Where I Live	Rooms, Furniture, Directions
3	Unit 9 Time Past	People, Job, Irregular Verbs
4	Unit 9 Time Past	People, Job, Irregular Verbs
5	Unit 10 Great Time	Weekend Activities, Sports/Leisure
6	Unit 10 Great Time	Weekend Activities, Sports/Leisure
7	Unit 11 I Can Do That	Skills and Abilities
8	Unit 11 I Can Do That	Skills and Abilities
9	Unit 12 Thank You	Shopping, Restaurant
10	Unit 12 Thank You	Shopping, Restaurant
11	Unit 13 Here and Now	Opposite Words, Colors
12	Unit 13 Here and Now	Opposite Words, Colors
13	Unit 14 It's Time	Transportation
14	Unit 14 It's Time	Transportation
15	Final Examination	

【使用教材】

◇ American Headway Starter (Third Edition) Oxford University Press

ISBN : 9780194725422

Dictionary

Printouts of activity

【履修条件等】

◇やる気があり、教科書と辞書があり、積極的に会話に参加する意志があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料を熟読し、単語など意味がわからない個所を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

基礎英語Ⅱ	タカハタ カズミチ 高畑 一路
Basic English II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

「基礎英語Ⅰ」に引き続き、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」という4つの観点から、英語をバランスよく総合的に身につけることを目標とする。同時に、英語圏の文化、思想、習慣等を理解するようにしたい。基本的には教科書に沿って授業を進めていくが、受講者のレベル、興味などにしたがって、プリント教材を追加する。なお、前学期の進度具合によって開始時の内容が前後することもあるので、受講者は「基礎英語Ⅰ」のシラバスにも目を通しておくこと。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英語で簡単な会話をすることができるようになること	授業中に行うペアワークによって評価。教科書の課題を利用して、会話の基本パターンを覚えること。	10%
リスニング力を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題で聞かされる英語を正しく聞き取れるようになること。	20%
基礎文法を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題で聞かされる文法問題を解けるようになること。	30%
読解力を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題にある英文の内容を正しく理解できるようになること。	40%
評価の方法 授業数3分の2以上の出席を前提として、授業態度及び授業貢献度20%、 中間試験40%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Unit 7	I'm Sure He' ll Understand
2	Unit 7	I'm Sure He' ll Understand
3	Unit 8	I'll Remember That
4	Unit 8	I'll Remember That
5	Unit 9	Hiro Forgot
6	Unit 9	Hiro Forgot
7	Midterm Exam	中間試験
8	Unit 10	How Have You Been?
9	Unit 10	How Have You Been?
10	Unit 11	While They're Here
11	Unit 11	While They're Here
12	Unit 12	How Was Tennis?
13	Unit 12	How Was Tennis?
14	Unit 13	What Do You Mean?
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ English First Basic 著者：Robert Hickling, Misato Usukura 出版社：金星堂

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の該当箇所に目を通し、知らない英単語・熟語があったら覚えておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業に必ず辞書を持参すること（電子辞書可）。

◇指定された教科書を初回の授業までに必ず購入すること。教科書を所有していない学生の受講は許可しない。

◇追加教材に関しては開講時に指示する。

基礎英語Ⅱ	ナガハラ カズコ 長原 和子
Basic English II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

テキストの練習問題を解きながら、重要な文法事項を確認し、基礎的な英語運用能力を伸ばすことを目標とします。各ユニットの練習問題は、語彙、リスニング、会話、リーディング、ライティングなど様々な内容のものが用意されています。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な文法事項を習得すること	授業内の確認テスト・期末試験によって評価する。 確認テストや期末試験の文法問題が解けるようになる。	30%
読解力を身につけること	授業内の確認テスト・期末試験によって評価する。 平易な英文を読んで内容を理解することができる。	30%
リスニング力を身につけること	授業内の確認テスト・期末試験によって評価する。 平易な会話の内容を理解することができる。	30%
語彙力を身につけること	授業内の語彙テストによって評価する。 各ユニットで使われている基本的な語句の意味を覚える。	10%
評価の方法 期末試験30%、確認テスト30%、語彙テスト10%、 授業への取り組み方 30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Unit 7	I'm Sure He'll Understand (未来形)
2	Unit 7	I'm Sure He'll Understand
3	Unit 8	I'll Remember That (助動詞)
4	Unit 8	I'll Remember That
5	Unit 8	I'll Remember that
6	Unit 9	Hiro Forgot (to 不定詞・動名詞)
7	Unit 9	Hiro Forgot
8	Unit 9	Hiro Forgot
9	Unit 10	How Have You Been? (現在完了)
10	Unit 10	How Have You Been?
11	Unit 10	How Have You Been?
12	Unit 11	While They're Here (接続詞)
13	Unit 11	While They're Here
14	Unit 11	While They're Here
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ English First Basic Robert Hickling・臼倉美里著 金星堂

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの該当箇所に目を通し、知らない語句を辞書で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇指定されたテキストを初回の授業までに購入すること

◇授業に辞書を持参すること（電子辞書可）。

基礎英語Ⅱ	ワタナベ キミヨ 渡邊 きみ代
Basic English II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義は、「総合英語Ⅰ」で学習した内容を、さらに深めることを目的としている。引き続き、英語を用いて、その表現の方法について学習します。この授業では、文法と語彙を扱い、実際の表現方法である「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」能力を身につけることを目的に、解説を行い、問題演習を行います。その際、「授業計画」にある内容を学習することとなるが、各回の「内容」にあることを目標に行うので、学習の指針として、適宜参照すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
筆記試験	筆記テストによって評価する。	60%
授業参加度	能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む）、授業外学習、理解度などから総合的に評価する。	40%
評価の方法 遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	一般動詞の過去形	・規則動詞、不規則動詞の過去形を正しく覚える。 ・その日自分がしたことを英語で説明できるようにする。
2	助動詞	・動詞と共に使い、意味に広がりを与える助動詞の種類を覚える。
3	助動詞	助動詞を使った英文を正しく読み、書けるようになる。
4	疑問詞	疑問詞の種類、使い方を覚える。 疑問詞を使った疑問文を正しく使えるようにする。
5	疑問詞	・疑問詞を使った質問に答える形で自分の経験を説明する。
6	復習	・ここまでの授業のまとめを問題演習により行います
7	中間テスト	・ここまでの授業で学習したことを用いて、筆記形式によるテストを行います
8	未来形	will ～や be going to ～を使った英文に慣れる。
9	未来形	・これからの予定について英語で説明できるようにする。
10	接続詞	・対等な関係、主従の関係でつなぐ2種類の接続詞の働きを理解し、接続詞を用いた英作文が出来るようになる
11	接続詞	接続詞を使った英文に慣れる。
12	受動態	・受動態、能動態の形と意味を理解し、書き換え、英作文ができるようにする。
13	受動態	・受動態を使った英文に慣れる。
14	復習	ここまでの授業のまとめを問題演習により行います
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：English First(Starter)

著者：Robert Hickling, Misato Usukura

【履修条件等】

◇遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書に目を通し、理解度を確認しておく（とくに「総合英語Ⅰ」で扱った内容を復習しておくこと）。

◇毎回の授業前には、前回の内容を復習しておくこと。授業内で、復習すべき問題などを指示する。

【その他の注意事項】

◇授業に支障をきたすもの（私語、携帯電話など）を禁ずる。

基礎英語Ⅱ（再履修）	アベ マキコ 阿部 牧子
Basic English II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

基礎的な文法と語彙の習得を目的としたテキストを使って学習を進めていきます。英文和訳、和文英訳、部分作文などの問題を通じて文法の復習をします。教科書は15ユニットに渡って、アメリカに留学中の日本人学生の日常生活を描いています。辞書を使って読み進めていきましょう。語彙力をつけるために、単語や熟語のテストを実施します。通じる英語を目指して、発音指導を行います。

使用教材は年度の始めに購入しておくようにしてください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
主語や動詞などの英文の構成素の働きについて区別できる	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
200語程度の英文を読んで理解できる。 なるべく英語で直接考えるようにする	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
各章に配されている単語と派生語の意味を覚え、書けるようにする	語彙テストで評価する。 正確に綴りを書くことができること。	20%
音声CDで発音練習を繰り返し、正しい発音を身につける	授業中の発話から評価する。 内容が相手に伝わるように、はっきりと発音できること。	20%
評価の方法 本試験50%、語彙テスト20%、授業での発言など30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	比較級/最上級	It's Nice … And
2	接続詞	Hitomi Wants a New Look
3	動名詞/不定詞	Shopping for Clothes
4	疑問詞	I'm Meeting a Friend
5	助動詞	Date Night
6	受動態	It's Party Time
7	中間試験	試験と解説
8	関係代名詞	レポートの提出
9	関係代名詞	演習問題
10	仮定法	宝くじが当たったらなあ
11	仮定法	演習問題
12	音読	未定。1 回目の講義時に指示する
13		
14	総まとめ	演習と解説
15	本試験	試験(60分)と解説

【使用教材】

◇ ENGLISH Aid

Robert Hickling / Misato Usukura 著 金星堂

【副教材】

◇ A Shorter Course in English Grammar Check

Seishi Sato 著 南雲堂

【履修条件等】

◇基礎英語は選択必修科目です。教室で英語を基礎から学習する最後の機会です。

◇辞書を持参すること（電子辞書可）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示されたホームワークをやってくこと。

【その他の注意事項】

◇入学時に配布された iPad を使うことがあります。

◇使用教材を必ず準備してください。

日本語 I（留学生科目）	シオタニ ユミコ 塩谷 由美子
Japanese Language I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

大学での学習活動に必要な文章能力を身につけることを目標にする授業である。まず、文構成や句読点、記号など、基本的な文章作法を学習する。文単位、段落単位の表現を学び、意見文・評論文・説明文など種類別にある程度の長さの文章構成を練習する。さらに、考えたことを論理的構成で文章にまとめる方法など、レポート作成にも役立つ基礎知識を身につける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な文章作法を身につける	基本的な表記の方法、文体の統一、句読点や記号の使い方、文単位の正確さなどを評価する。	20%
種類別の文章構成を身につける	与えられたテーマに沿って、意見文、説明文、評論文などの指定された種類の文章構成ができているか否かを評価する。わかりやすさや論理性、根拠や反論の効果的な使い方も評価する。	40%
考えたことを論理的に文章にまとめる方法を身につける	課題に対して、さまざまな角度から思考し、データを使って根拠を示しながら考えを論理的にまとめることができるかどうかを評価する。	40%
評価の方法 授業参加度30%、課題40%、本試験30% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業計画と評価の説明
2	基本的な文章作法(1)	文章の基本(1)
3	基本的な文章作法(2)	文章の基本(2)
4	文体	文体と表現レベル
5	文章	文章構成
6	段落	段落構成
7	意見文	意見文と事実文の区別
8	意見文	意見文の構成と練習
9	説明文	説明文の構成
10	説明文	説明文の練習
11	論理的文章	論理的文章構成
12	論理的文章	データ活用と根拠の提示
13	論理的文章	論理的文章作文
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しないが、必要に応じて授業内で資料を配布する。

◇参考図書：浜田麻里『大学生と留学生のための論文ワークブック』
くろしお出版、1997年

【履修条件等】

◇意欲を持って学習に取り組み、課題を期限までに提出すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇その都度授業内で指示する。

【その他の注意事項】

◇授業外で文章の練習をする時間が必要になるので、必要に応じて課題を課す。

課題は指定された授業の日に提出すること。それ以外は加点しない。

◇上記の授業計画は受講人数や既習レベルなどを勘案して変更することがある。

英語 I	アベ マキコ 阿部 牧子
English Reading & Writing (Basics) I	発展科目／半期／1単位

【授業概要】

この授業では、300語前後の題材を、なるべく日本語を介さず読み進める練習をします。わからない単語は文脈からの推測を試みます。それでも意味がわからない場合は、必ず辞書で確認することが大切です。ライティングは、文構造、基本的文法事項を理解し、理解を定着させるための練習問題をくり返します。各章の最後では文をつなげて1つのパラグラフを書き上げることができるようになります。

また、音読にも時間をかけて、正確に読む練習をする予定です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
300語程度の読み物の主旨、大意を把握できる	授業での発言、提出物によって評価。わからない単語は文脈から推測できるか。提出物の場合、辞書で調べて正確に理解しているかどうか。	30%
本文でとり上げられたトピックについて意見交換をする	ペア、グループ、またはクラスでの発言によって評価。発言は英語と日本語が混在していても可。発言内容を評価する。	20%
文の語順、品詞、時間表現などについて理解している	教科書の練習問題、パラグラフライティングによって評価。パラグラフライティングは、A（優）／B（良）／C（可）で評価。	30%
外国人が聞いても理解できる発音で英文が読める	自分の発音を録音し、聞き取りにくいと思われる音を確認できる。確認できた音の修正をして音読練習を繰り返す。	20%
評価の方法 中間試験20%、本試験60%、課題他20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業概要説明、読解力確認テスト
2	READING[Brasilia]	Vocabulary / 内容理解問題/音読練習
3	READING	英問英答 / 日本語訳 / 音読練習
4	WRITING	Adjective (形容詞) パラグラフライティング
5	パソコン(WORD)を使って清書	パソコンルームでパラグラフライティングの原稿を清書し、プリントアウトして提出する
6	READING[Tiger Woods]	Vocabulary / 内容理解問題/音読練習
7	READING	英問英答 / 日本語訳 / 音読練習
8	パソコン(WORD)を使って清書	パソコンルームでパラグラフライティングの原稿を清書し、プリントアウトして提出する
9	READING[Sleep]	Vocabulary / 内容理解問題 / 音読練習
10	READING	英問英答 / 日本語訳 / 音読練習
11	WRITING	Using when / Writing about sleep habits
12	READING	題材は未定 Vocabulary / 内容理解問題 / 音読練習
13	READING	英問英答 / 日本語訳 / 音読練習
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Weaving It Together

著者：Milanda Broukal 編著：関口智子 出版社：松柏社

【履修条件等】

◇入学時に配布された iPad を授業で使います。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示された教科書部分を読み、大意を把握して授業に臨んでください。

【その他の注意事項】

◇初回の授業で読解力をみるため簡単なテストを行います。

◇円滑なグループ学習・ペア読みのため、座席を指定することがあります。

英語Ⅱ	アベ マキコ 阿部 牧子
English Reading & Writing (Basics) Ⅱ	発展科目／半期／1単位

【授業概要】

この授業では、300語前後の題材を、なるべく日本語を介さず読み進める練習をします。わからない単語は文脈からの推測を試みます。それでも意味がわからない場合は、必ず辞書で確認することが大切です。iPadの辞書機能を授業で活用することもあります。

ライティングは、文構造、基本的文法事項を理解し、理解を定着させるための練習問題をくり返します。各章の最後では文をつなげて1つのパラグラフを書き上げることができるようになります。

また、指定テキストとは別にプリント教材を使うことがあります。

本講義は「英語Ⅰ」の続きです。使用教材は年度の始めに購入するようにしてください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
300語程度の読み物の主旨、大意を把握できる	授業での発言、提出物、本試験によって評価。わからない単語は文脈から推測できるか。提出物の場合、辞書で調べて正確に理解しているかどうか。	30%
本文でとり上げられたトピックについて意見交換をする	ペア、グループ、またはクラスでの発言によって評価。発言は英語と日本語が混在していても可。発言内容を評価する。	20%
文の語順、品詞、時間表現などについて理解している	教科書の練習問題、パラグラフライティング、本試験によって評価。パラグラフライティングは、A（優）／B（良）／C（可）で評価。	30%
外国人が聞いても理解できる発音で英文が読める	自分の発音を録音し、聞き取りにくいと思われる音を確認できる。確認できた音の修正をして音読練習を繰り返す。	20%
評価の方法 中間試験20%、本試験60%、課題他20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業概要説明、読解力確認テスト
2	READING[Iceland]	Vocabulary / 内容理解問題 / 音読練習
3	READING[Iceland]	英問英答 / 日本語訳 / 音読練習
4	WRITING	Comparing things (比較) パラグラフライティング
5	パソコン(WORD)を使って清書	パソコンルームでパラグラフライティングの原稿を清書し、プリントアウトして提出する
6	READING[Amy Van Dyken]	Vocabulary / 内容理解問題 / 音読練習
7	READING Amy Van Dyken]	英問英答 / 日本語訳 / 音読練習
8	WRITING	Telling about someone's life
9	パソコン(WORD)を使って清書	パソコンルームでパラグラフライティングの原稿を清書し、プリントアウトして提出する
10	READING[Laughter]	Vocabulary / 内容理解問題 / 音読練習
11	READING[Laughter]	英問英答 / 日本語訳 / 音読練習
12	WRITING	Adverbs (副詞)
13	READING	題材は未定 Vocabulary / 内容理解問題 / 音読練習
14	READING	英問英答 / 日本語訳 / 音読練習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Weaving It Together (fourth edition)

著者：Milanda Broukal 編著：関口智子 出版社：松柏社

【履修条件等】

◇入学時に配布された iPad を授業で使います。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示された教科書部分を一読し、大意を把握して授業に臨んでください。

【その他の注意事項】

◇円滑なグループ学習・ペア読みのため、座席を指定することがあります。

◇教科書は年度の始め（4月）に購入しておくようにしてください。

英語Ⅲ	アベ マキコ 阿部 牧子
English Reading & Writing (Intermediate) III	発展科目／半期／1単位

【授業概要】

この授業では、300字程度の英文を読んで、内容の大意をつかむ練習をします。英文から1つのパラグラフに焦点を当て、英語らしく読むことを目標に、音読の練習を繰り返します。音読に慣れてきたら、次は読んだ内容を相手に伝えることに挑戦してみます。自分の言葉で内容を再現するにはどうすればよいか、学んでいきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英文を読むために必要な文法、単語についての知識を習得する	小テスト、提出物によって評価する。 中間試験、本試験によって評価する。	30%
300字程度の英文の内容を、初見でおおよそ把握できる	授業中の応答、発言によって評価する。 中間試験と本試験で評価する。	30%
なめらかに読む。相手に伝わる英語音読を習得する	意味のまとまりを意識しているか。音のつながりを意識し、子音を読むときは母音が入らないように読めるか。授業中の音読練習で評価する。	20%
単純な内容であれば、論理的な短い英文で表現できる	学期始めと学期終わりに書いた英文を比べ、どの程度作文力が向上したかによって評価する。	10%
評価の方法 本試験50%、小テスト、平常点（提出物を含む）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の概要説明など
2	ラナプラザ・ビルの悲劇	教科書の問題を解きながら内容を理解する
3	ラナプラザ・ビルの悲劇	音読練習 内容を自分の言葉で再現してみる
4	ビジネスリーダー孫正義と鈴木敏文	教科書の問題を解きながら内容を理解する
5	ビジネスリーダー孫正義と鈴木敏文	音読練習／リピート&ルックアップ 内容を自分の言葉で再現してみる／英作文
6	世界のフードロス	教科書の問題を解きながら内容を理解する
7	世界のフードロス	音読練習／内容語と機能語を意識して、強弱をつける内容を自分の言葉で再現してみる／英作文
8	中間試験	学習達成度の確認
9	顔認証技術とプライバシー	教科書の問題を解きながら内容を理解する
10	顔認証技術とプライバシー あるいはプリント教材	音読練習／つながる音の読み方 英作文
11	ウラジオストクー日本に近い都市	教科書の問題を解きながら内容を理解する
12	ウラジオストクー日本に近い都市	音読練習／リピート&ルックアップ 英作文
13	音読テスト	音読練習／弱い子音の読み方 英作文／個別に読みのテストを行う
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Pleasure in Reading Aloud and Retelling

著者：Anthony P. Newell, Takane Yamaguchi 出版社：KINSEIDO

【履修条件等】

◇英語に対する学習意欲があり、課題（ホームワーク）に取り組むことを優先することができる。

◇音読に積極的に取り組めること。聞き取ってもらえる流暢な英語を話したいと思う人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇トピックについての知識がテキストだけでは不足な場合、各自で調べることが必要になります。

◇授業中あるいはホームワークとして、iPad を使う予定です。

【その他の注意事項】

◇全出席を心がけてください。

英語Ⅳ	アベ マキコ 阿部 牧子
English Reading & Writing (Intermediate) Ⅳ	発展科目／半期／1単位

【授業概要】

この授業では、300字程度の英文を読んで、内容の大意をつかむ練習をします。英文から1つのパラグラフに焦点を当て、英語らしく読むことを目標に、音読の練習を繰り返します。音読に慣れてきたら、次は読んだ内容を相手に伝えることに挑戦してみます。自分の言葉で内容を再現するにはどうすればよいか、学んでいきます。

「英語Ⅳ」は「英語Ⅲ」と同じ教材を使います。使用教材は年度の始めに購入しておくようにしてください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英文を読むために必要な文法、単語についての知識を習得する	小テスト、提出物によって評価する。 中間試験、本試験によって評価する。	30%
300字程度の英文の内容を、初見でおおよそ把握できる	授業中の応答、発言によって評価する。 中間試験と本試験で評価する。	30%
なめらかに読む。 相手に伝わる英語音読を習得する	意味のまとまりを意識しているか。音のつながりを意識し、子音を読むときは母音が入らないように読めるか。授業中の音読練習で評価する。	20%
単純な内容であれば、論理的な短い英文で表現できる	学期始めと学期終わりに書いた英文を比べ、どの程度作文力が向上したかによって評価する。	10%
評価の方法 本試験50%、小テスト、平常点（提出物を含む）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業概要説明
2	音楽が精神に与える効能	教科書の問題を解きながら内容を理解する
3	音楽が精神に与える効能	音読練習／リピート&ルックアップ 英作文／自分の言葉で再現してみる
4	国際化とおもてなし文化	教科書の問題を解きながら内容を理解する
5	国際化とおもてなし文化	音読練習／数字情報をはっきりと伝える 英作文／自分の言葉で再現してみる
6	未定	問題を解きながら内容を理解する
7	未定	音読練習 英作文
8	中間試験	学習達成度の確認
9	未定	問題を解きながら内容を理解する
10	未定	音読練習 英作文
11	未定	問題を解きながら内容を理解する
12	未定	音読練習 英作文
13	未定	問題を解きながら内容を理解する
14	未定	音読練習 英作文
15	総括・達成度の確認	これまでの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Pleasure in Reading Aloud and Retelling

著者：Anthony P. Newell, Takane Yamaguchi 出版社：KINSEIDO

【履修条件等】

◇英語に対する学習意欲があり、課題（ホームワーク）に取り組むことを優先することができる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇トピックについての知識がテキストだけでは不足な場合、各自で調べることが必要になります。

【その他の注意事項】

◇全出席を心がけてください

◇受講生の興味関心を踏まえ、使用教材以外のプリントを教材として使うことがあります。

TOEIC I	シシド カール 宍戸 カール
TOEIC I	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

このクラスは、実用的な英語を身につけてコミュニケーション力をアップしたいと考えている学生、いずれは TOEIC テストに挑戦したいと考えている学生を対象に、TOEIC の基礎的な部分のトレーニングを中心に授業を進めていきます。

TOEIC はリスニング45分、リーディング75分の試験です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
TOEIC テストに出題される頻度の高い単語を習得する	おもに単語テストによって評価する。語彙問題のパターンを把握し、頻出語彙をマスターする。	30%
TOEIC テストに必要なとされる英文読解力を養う	本試験その他によって評価。文法事項の基本パターンを把握し、読解問題の基本的な設問を理解し、解答できること。	30%
TOEIC テストに必要な「聴き取り」ができる	本試験その他によって評価。パート1からパート3の各問題の設問の内容を理解し、正解に必要な情報を聞き取ることができること。	30%
模擬試験のスコアアップ	学期始めと学期末の本試験を比較して(難易度考慮)、評価する。	10%
評価の方法 本試験50%、平常点(単語テストを含む)50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Orientation	授業の進め方、評価基準等の説明
2	Introduction	模擬テストと解説
3	Activity 1	Shopping (grammar, auxiliaries)
4	Activity 2	Shopping (grammar, auxiliaries)
5	Activity 3	Transportation (grammar, progressives)
6	Activity 4	Transportation (grammar, progressives)
7	Activity 5	Travel (grammar, verb)
8	Activity 6	Travel (grammar, verb)
9	Activity 7	Restaurant (grammar, perfect tenses)
10	Activity 8	Restaurant (grammar, perfect tenses)
11	Activity 9	Health (grammar, tense agreement)
12	Activity 10	Health (grammar, tense agreement)
13	Activity 11	In the Office (grammar, tag & negative questions)
14	Examination	本試験

【使用教材】

◇ Winning Formula For The TOEIC Test

出版社 : Cengage Learning K. K.

ISBN : 978-4-86312-219-2

【履修条件等】

◇将来的には TOEIC テストを受験したいと考えている人。

◇英語を聞いて理解できるようになるため、努力を惜しまない人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書に自習用のCDが添付されているので、指示された部分を聴いてくる。

レッスンごとに単語テストをするので、その勉強。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

TOEIC I	ナガハラ カズコ 長原 和子
TOEIC I	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業は、TOEIC Listening & Reading テストを将来受験したいと考えている学生や英語によるコミュニケーション力を伸ばしたいと考えている学生を対象とします。授業では、そのために必要な英語運用能力を伸ばすために、基本的な重要語句の学習と聴き取りや読解の練習問題に取り組みます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
語彙力を身につけること	授業内の語彙テストによって評価する。 各ユニットに記載されている頻出語句の意味が分かる。	10%
基本的な文法事項を学習すること	授業内の確認テスト・期末試験によって評価する。 確認テストや期末試験の文法問題が解けるようになる。	30%
読解力を身につけること	授業内の確認テスト・期末試験によって評価する。 読解問題の設問を理解し、正しく解答できる。	30%
リスニング力を身につけること	授業内の確認テスト・期末試験によって評価する。 リスニング問題の設問を理解し、正しく解答できる。	30%
評価の方法 期末試験30%、確認テスト30%、語彙テスト10%、 授業への取り組み方30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と授業方針の説明
2	Unit 1	Travel
3	Unit 1	Travel
4	Unit 2	Dining Out
5	Unit 2	Dining Out
6	Unit 3	Shopping
7	Unit 3	Shopping
8	Unit 4	Entertainment
9	Unit 4	Entertainment
10	Unit 5	Advertising
11	Unit 5	Advertising
12	Unit 6	Events
13	Unit 6	Events
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Score Booster For The TOEIC L&R Test: Beginner 早川幸治・岸洋一著 金星堂

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの該当箇所に目を通し、知らない語句を辞書で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇指定されたテキストを初回の授業までに購入すること。

◇授業に辞書を持参すること（電子辞書可）。

TOEIC II	シシド カール 宍戸 カール
TOEIC II	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

このクラスは、実用的な英語を身につけてコミュニケーション力をアップしたいと考えている学生、いずれは TOEIC テストに挑戦したいと考えている学生を対象に、TOEIC の基礎的な部分のトレーニングを中心に授業を進めていきます。

TOEIC はリスニング45分、リーディング75分の試験です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
TOEIC テストに関する基礎的な単語力を身につける	おもに単語テストによって評価する。語彙問題のパターンを把握し、頻出語彙をマスターする。	30%
TOEIC テストに必要な英文読解力を養う	本試験その他によって評価。文法事項の基本パターンを把握し、読解問題の基本的な設問を理解し、解答できること。	30%
TOEIC テストに必要な「聴き取り」ができること	本試験その他によって評価。パート1からパート3の各問題の設問の内容を理解し、正解に必要な情報を聞き取ることができること。	30%
模擬試験のスコアが上がる	学期始めと学期末の本試験を比較して（難易度考慮）、評価する。	10%
評価の方法 本試験50%、平常点(単語テストを含む)50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Orientation	授業の進め方、評価基準等の説明
2	Lesson 1	Business and Sales (grammar, negations)
3	Lesson 2	Business and Sales (grammar, negations)
4	Lesson 3	Media/News (grammar, infinitives & gerunds)
5	Lesson 4	Media/News (grammar, infinitives & gerunds)
6	Lesson 5	Economy (grammar, participles)
7	Lesson 6	Economy (grammar, participles)
8	Lesson 7	Advertisements (grammar, passive voice)
9	Lesson 8	Advertisements (grammar, passive voice)
10	Lesson 9	Politics (grammar, pronouns & adverbs)
11	Lesson 10	Politics (grammar, pronouns & adverbs)
12	Lesson 11;	Environment (grammar, subjective mood)
13	Lesson 13	Environment (grammar, subjective mood)
14	Examination	本試験
15	Examination	本試験（試験問題の解説）

【使用教材】

◇ Winning Formula For The TOEIC Test

出版社：Cengage Learning K. K.

ISBN：978-4-86312-219-2

【履修条件等】

◇将来的には TOEIC テストを受験したいと考えている人。

◇原則として、「TOEIC I」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書に自習用のCDが添付されているので、指示された部分を聴いてくる。

レッスンごとに単語テストをするので、その勉強。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

TOEIC II	ナガハラ カズコ 長原 和子
TOEIC II	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業は、TOEIC Listening & Reading テストを将来受験したいと考えている学生や英語によるコミュニケーション力を伸ばしたいと考えている学生を対象とします。授業では、そのために必要な英語運用能力を伸ばすために、基本的な語句の学習と聴き取りや読解の練習問題に取り組みます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
語彙力を身につけること	授業内の語彙テストによって評価する。 各ユニットに記載されている頻出語句の意味が分かる。	10%
基本的な文法事項を学習すること	授業内の確認テストや期末試験によって評価する。 確認テストや期末試験の文法問題が解けるようになる。	30%
読解力を身につけること	授業内の確認テストや期末試験によって評価する。 読解問題の設問を理解し、正しく解答できる。	30%
リスニング力を身につけること	授業内の確認テストや期末試験によって評価する。 リスニング問題の設問を理解し、正しく解答できる。	30%
評価の方法 期末試験30%、確認テスト30%、語彙テスト10%、 授業への取り組み方30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Unit 7	Daily Life
2	Unit 7	Daily Life
3	Unit 8	Media
4	Unit 8	Media
5	Unit 9	Recruiting
6	Unit 9	Recruiting
7	Unit 10	Production & Sales
8	Unit 10	Production & Sales
9	Unit 11	Meetings
10	Unit 11	Meetings
11	Unit 12	Offices
12	Unit 12	Offices
13	Unit 13	Personnel
14	Unit 13	Personnel
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Score Booster For The TOEIC L&R Test: Beginner 早川幸治・岸洋一著 金星堂

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの該当箇所に目を通し、知らない語句を辞書で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇指定されたテキストを初回の授業までに購入すること。

◇授業に辞書を持参すること。

フランス語Ⅰ	ノグチ ケイコ 野口 恵子
French I	発展科目／半期／1単位

【授業概要】

フランス語に慣れ親しむ。基礎的な語彙、表現、文法、発音を学んで、口頭および文章による自己紹介や、簡単な会話ができるようになることを目指す。入門期の外国語学習は、耳、口、目、手、そして頭も使う、いわば全身運動である。まずはフランス語を繰り返し聞き、声に出して言ってみよう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的なフランス語を聞いて理解する能力を身につける	数字、単語、表現の聞き取りテストを行う。CD等で会話を聞き、大意を理解しているか問う。	30%
自己紹介をはじめ、身近な話題について話す能力を身につける	口頭表現において、基本的な発音、語彙、文法の知識が生かされているかを見る。会話形式の練習、会話テストを実施する。	30%
簡単なフランス語で書かれた文を読んで理解する能力を身につける	挨拶、自己紹介、日常会話を文字化したものを読み、まず、大意が取れているか、その後、さらに細かく理解しているか見る。	20%
書き取り、短文作成から始め、身近な話題について文章で表現する能力を身につける	文字・表記の正確さを問う書き取りテストを行う。習った単語や表現を使って、自分のこと、自分が興味を持っていることに関して短い作文を書く。	20%
評価の方法 定期試験（聞き取り、書き取り、語彙、文法、作文等）50%、平常点（授業への参加度、宿題提出、音読テスト、ディクテーション）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	アルファベ、綴りと発音、自分の名前を言う
2	「お元気ですか」	綴り字記号、リエゾン、挨拶の言葉
3	「ありがとう」	お礼、お詫び、数字1～20
4	「コーヒーを1つお願いします」	不定冠詞、名詞の性と数
5	「これはポールの本です」	定冠詞、部分冠詞
6	「音楽が好きです」	第1群規則動詞-er
7	「ミシェルはテレビを見ません」	ne と pas で作る否定文
8	「私は学生です」	動詞 être、職業・国籍の言い方
9	「辞書を持っています」	動詞 avoir、数字21～60
10	「黒い上着を着ています」	疑問文、形容詞の位置および性と数
11	「今、2時半です」	時刻の言い方
12	「パリに行きます」	動詞 aller、前置詞 à と定冠詞の縮約形、曜日と月の名前
13	「学校に来ます」	動詞 venir、前置詞 de と定冠詞の縮約形
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇松村博史他著『クロワッサン 基礎からわかるフランス語』朝日出版社、2016年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇授業に積極的に参加すること。

フランス語Ⅰ	ミトミ ユウコ 三富 祐子
French I	発展科目／半期／1単位

【授業概要】

全く初めてフランス語を学ぶ者を対象にゼロから始め、初対面を想定しての自己紹介や好みなどを尋ね合うことができることを目指します。教室では、VTR（インターネットでアクセス可能）で自然な会話に触れ、文法理解と練習問題等を行った後、ペア・グループで実践的な会話の練習をします。各課終了後、ポイントをまとめたプリントを使用し充分復習します。「フランス語Ⅱ」と合わせて履修することで、仏検5級受験に必要な知識を得ることができるようにします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
フランス語を読み、理解し、正しく発音できるようにする	授業中の音読、発話と学期末の口頭試験で評価。フランス語特有の発音や、綴り字の読み方、イントネーションの付け方等、フランス人に意思が伝わるフランス語であるか否かを評価基準とする。	20%
フランス語を聞き、理解できるようにする	授業中の質問に対する回答と小テスト、学期末の口頭試験で評価。数字（値段・年齢等）の聞き取り、学習した基本的なフランス語を耳で聞いて理解し返答ができるか否かを評価基準とする。	10%
基本的な文法を理解し、語彙を覚える	授業中の設問に対する回答と、学期末の筆記試験で評価。基本的な（仏検5級程度）文法と語彙を理解し暗記できているかを評価基準とする。	50%
フランス語でコミュニケーションをとる	授業中のペア練習への参加の積極性、学期末の口頭試験で評価。状況に即し、自然な流れで会話ができているか否かを評価基準とする。	20%
評価の方法 8割以上の出席と、口頭試験、筆記試験を受けることを前提に、筆記試験60%、口頭試験20%、課題（配布プリント）提出10%、平常点10%で評価します。詳細については初回授業で説明します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	＜フランスについて＞	・アルファベ、綴り字の読み方
2	＜フランス語の発音＞	・フランス語10単語を覚える
3	Leçon 1 ＜自己紹介 1＞ ・挨拶 ・名前、国籍を言う	・主語人称代名詞と動詞 être ・「はじめまして、私の名は～です」 ・「私は／彼（女）は～人です」 ・数 1～10
4	Leçon 2 ＜自己紹介 2＞	・規則動詞 habiter 住む
5	・職業を言う ・住んでいる所を言う	・「私は学生です」「彼は俳優です」 ・「私は～に住んでいます」 ・数11～20
6	Leçon 3 ＜カフェで＞	・飲み物、食べ物名と冠詞
7	・カフェで注文し、支払いをする ・何語を話すか言う	・否定形「私は～人ではない」 ・規則動詞 parler 「話す」の活用 ・数30～60 ・～ユーロ
8	Leçon 7 ＜好みを言う＞	・動詞 aimer
9	・好みを尋ねる ・何が好きか尋ねる ・Il y a ～ 「～がある」	「音楽・スポーツ・～料理が好きです」 程度を言う「大好きです」 「あまり好きではありません」 ・aimer の後の名詞につく定冠詞 ・「高田馬場には～がある」
10	Leçon 4 ＜兄弟姉妹について＞	・動詞 avoir 「ペンを持っている？」 「兄がひとりいます」
11	・～を持っているか、尋ねる ・兄弟がいるかを言う ・年齢を言う	・avoir の否定形「持っていない」 ・疑問文 Est-ce que ～ 「～ですか？」 ・「私は～歳です」
12	口頭試験および解説	・授業中練習した自己紹介（名前、国籍、職業、言語）、音楽、スポーツの好みを尋ね合う
13	Leçon 1～4, Leçon 7 の総復習	復習プリントを使用
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Café Français カフェ・フランセ

著者：Nicolas Gaillard 他 出版社：朝日出版社

ホームページ <http://cafefrancais.cocolog-nifty.com/hp/>

【履修条件等】

◇フランスまたはフランス語に興味があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業での学習事項を復習しておくこと。

【その他の注意事項】

◇全出席を心がけること。

フランス語Ⅱ	ノグチ ケイコ 野口 恵子
French II	発展科目／半期／1単位

【授業概要】

「フランス語Ⅰ」に続き、基礎的な語彙や文法の知識を身につけるとともに、コミュニケーション能力をのばすことを目的とする。聞こえてきたフランス語を繰り返して言う練習、聞いて書き取る練習、テキストを声に出して読む練習を行う。身近な話題、興味のある話題について、口頭および文章で的確に表現できるようにする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的なフランス語を聞いて理解する能力を身につける	語句の聞き取りテストを行う。CD等で会話を聞き、大意を理解しているか問う。	30%
身近な話題について話す能力を身につける	口頭表現において、基本的な発音、語彙、文法の知識が生かされているかを見る。会話形式の練習、会話テストを実施する。	30%
基本的なフランス語で書かれた文を読んで理解する能力を身につける	テキストの会話文を読み、まず、大意が取れているか、その後、さらに細かく理解しているか見る。	20%
身近な話題について文章で表現する能力を身につける	文字・表記の正確さを問う書き取りテストを行う。習った単語や表現を使って、自分のこと、自分が興味を持っていることに関して短い作文を書く。	20%
評価の方法 定期試験（聞き取り、書き取り、語彙、文法、作文）50% 平常点（授業への参加度、宿題提出、音読・ディクテーション・会話・和訳・仏訳小テスト）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	「働くつもりです」	動詞 aller の復習、近接未来
2	「食べたばかりです」	動詞 venir の復習、近接過去
3	「ペンをお持ちですか」	疑問文の作り方
4	「私の姉は優しいです」	所有形容詞
5	「私は仕事を終えます」	第2群規則動詞 (-ir)、動詞 partir
6	「宿題を終わらせなさい」	命令形、数字60～
7	「なぜフランス語を勉強しているのですか」	疑問詞 quand、où、comment、pourquoi、qui、que
8	「全部でいくらですか」	動詞 faire、prendre、買い物をする
9	「何をしましたか」	直説法複合過去①（助動詞 avoir を使う動詞）
10	「映画に行きました」	直説法複合過去②（助動詞 être を使う動詞）
11	「どの季節が好きですか」	疑問形容詞 quel、動詞 préférer、vouloir、pouvoir
12	「5時にホテルに着かなくてはいけません」	動詞 devoir、電話をかける
13	「クレールはフランソワーズより背が高い」	比較級
14	「ジャンヌはクラスで一番活発な子です」	最上級、空港での会話
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇松村博史他著『クロワッサン 基礎からわかるフランス語』朝日出版社、2016年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇授業に積極的に参加すること。

フランス語Ⅱ	ミトミ ユウコ 三富 祐子
French II	発展科目／半期／1単位

【授業概要】

「フランス語Ⅰ」を修了、または相当のフランス語の知識のある者を対象とし、「フランス語Ⅰ」で学んだことを土台に、フランス人とのコミュニケーションに必要な基本的な会話の場を広げ、基本的な表現を増やしながら文法事項を学んでいく。授業形態は「フランス語Ⅰ」同様、VTR教材を使用し、スキットの理解、文法解説、発音練習、会話練習を行う。本講座終了後、フランス人との最も基本的なコミュニケーションがとれること、いくつかの場面での実践的な会話ができることを到達目標とする。生きたフランス語に触れるという目的で、教材以外にVTRまたは映画を使用し既習の表現を聞き取る機会を設ける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
フランス語を読み、理解し、正しく発音できるようにする	授業中の音読、発話と学期末の口頭試験で評価。フランス人に意思が伝わるフランス語であるか否かを評価基準とする。	20%
フランス語を聞き、理解できるようにする	授業中の質問に対する回答と小テスト、学期末の口頭試験で評価。春学期に続き、数字の聞き取り、フランス語での質問に対し返答ができるか否かを評価基準とする。	10%
基本的な文法を理解し、語彙を覚える	授業中の設問に対する回答と、学期末の筆記試験で評価。基本的な（仏検5級程度）文法と語彙を理解し暗記できているかを評価基準とする。	50%
フランス語でコミュニケーションをとる	授業中のペア練習への参加の積極性、学期末の口頭試験で評価。状況に即し、自然な流れで会話ができているか否かを評価基準とする。	20%
評価の方法 8割以上の出席と、口頭試験、筆記試験を受けることを前提に、筆記試験60%、口頭試験20%、課題（配布プリント）提出10%、平常点10%で評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	＜春学期の復習＞ ＜天候の表現＞ Leçon 8 II ・天候を言う	・配布プリント使用 ・天候の非人称構文「良い天気です」 「寒く・暑くないです」
2 3	Leçon 9 ・どんなスポーツをするか言う ・朝食について述べる ・否定疑問文に対する「はい」 「いいえ」の答え方	・「スポーツはしますか？」 スポーツの名称と部分冠詞 ・「朝食をとりますか？」「～をとります」 食品の名と部分冠詞 ・中性代名詞 en を使って答える
4 5	Leçon10＜誘う＞ ・相手を昼食に誘う ・承諾する・理由を述べ誘いを断る ・場所へ行く手段を言う	・主語 on 「～行こう」 ・場所の名「カフェへ・美術館へ」と前置詞 ＋冠詞について ・「OK、行こう」「ごめん、授業があるんだ」 ・「何で行こうか？」「歩いて行こう」
6 7 8 9	Leçon11＜一日の過ごし方＞ ・起床から就寝までの一日の主な 行動を言う	・時間の表し方 ・「起床する」「就寝する」（代名動詞） 「普段は、～時に起き、～時に家を出、 ～時に帰宅します」
10 11	Leçon13＜レストランで(1)＞ ・食事の流れについて知る ・メニューを読む ・注文する	・主な食品の名と注文の仕方 ・前菜、主菜、デザート、飲み物を注文する ・複合過去(1)助動詞 avoir 「選びましたか？」
12	Leçon 13 ＜レストランで(2)＞ ・料理の感想を言う Leçon 14 ・過去について語る	・料理の感想を言う（半過去） 「美味しかったです」 ・複合過去（1）助動詞 avoir 「昨日何をしましたか？」
13	口頭試験および解説	授業中練習した会話（朝食、スポーツについて 尋ね合う、誘う）をペアで行う
14	Leçon14 ・過去について語る ・総復習	・複合過去(2) 助動詞 être 「昨日～へ行きました」 ・復習プリントを使用して総復習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度 の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Café Français カフェ・フランセ

著者：Nicolas Gaillard 他 出版社：朝日出版社

ホームページ <http://cafe-francais.cocolog-nifty.com/hp/>

【履修条件等】

◇「フランス語Ⅰ」を修了または相当のフランス語の知識のある者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業での学習事項を復習すること。

【その他の注意事項】

◇全出席を心がけること。

中国語 I	イノウエ ヨシオ 井上 良雄
Chinese I	発展科目／半期／1単位

【授業概要】

日常会話の練習をします。初心者が対象ですから基礎知識はいりません。あまり文法的なことにはふれないで、授業中はどんどん声を出して体で覚えてもらいます。

中国語の学習を通して、中国文化や中国人の生活習慣に親しみ、国際的な視野を広げてほしいと思います。「聞く」授業ではなく、「参加する」授業です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
中国語の基本構造と発音の概要を理解し、発音の基本練習をする	授業中に指名し、回答から理解度を評価する。発音の巧拙は関係ない。発音練習への参加意欲や、集中度を評価する。	20%
自分の名前の中国語発音を発表し、互いに呼び合えるようにする	中国語の辞書で発音記号・意味・用例を調べ、レポートを提出させ評価する。 クラスメートの名前を中国語で呼び合う積極性を評価する。	20%
学生生活のさまざまな場面での会話を想定して、互いに練習をする	家族、学生生活、誕生日、年齢、住所、スポーツ、趣味などについて、一人ひとり発言させ評価する。 また、対話練習の積極性も評価する。 発音の巧拙は関係ない。	30%
試験として、1分間程度の自己紹介スピーチを皆の前で披露する	スピーチの標準形を示すが、オリジナリティーをプラス評価する。発音練習、矯正指導への取り組み姿勢、スピーチマナー、クラスメートの発表を聞く態度も評価する。	30%
評価の方法 上記のように、平常点およびレポート課題評価70%、試験（中国語による自己紹介）評価30%である。 欠席・遅刻は事情を考慮の上、減点（1回につき最大5%）する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	中国語について	共通語、文字、文の組み立て等
2	発音について(1)	発音の概説（音節、母音、子音、声調、ピンイン）
3	発音について(2)	発音練習（数字、あいさつ、身体、漢詩、自分の名前）
4	あいさつ	あいさつ言葉、人称代名詞、敬称
5	名前(1)	名前の聞き方の注意点、他の常用あいさつ言葉
6	名前(2)	自分の名前のピンイン発表、発音練習
7	家族	“有”の文、数量を尋ねる、人や物を数える単位
8	学生生活	“的”の用法、“是”の文
9	誕生日、年齢	月、日、曜日、西暦の言い方、年齢の聞き方、答え方
10	～に住んでいる	指示代名詞、場所や方向、r化
11	～ができる	“会”の用法、「肯定＋否定」の疑問文
12	自己紹介(1)	趣味、～生まれの～育ち、学校名の言い方
13	自己紹介(2)	質問、個人指導、練習
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇井上良雄著『中国語のチカラ』東京富士大学

【履修条件等】

◇中国語に興味と関心があり、積極的に授業に参加できる学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の次回学ぶ課を読み、発音しにくい単語、理解できないところをチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

◇座席は指定制です。

中国語Ⅱ	イノウエ ヨシオ 井上 良雄
Chinese II	発展科目／半期／1単位

【授業概要】

「中国語Ⅰ」に引き続き、日常会話の練習をします。さまざまな場面を想定して、基本的な単語や簡単な文で受け答えの会話を楽しみましょう。

「中国語Ⅰ」と同様に、聴講型ではなく参加型の授業です。異文化への興味と関心を深め、国際センスを磨いてほしいと思います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
短い自己紹介を、とっさにでも流暢にできるよう練習する	「中国語Ⅰ」の復習として、一人ひとりが皆の前で披露する。話しぶりや表情、パフォーマンスも評価する。	10%
日本のアニメソングの中国語版を題材に、日中の歌詞を比較・分析する	各人が比較・分析の結果や感想を発表する。鑑賞の緻密さ、積極的な参加意欲を評価する。合唱もするが、歌の巧拙は関係ない。協調性を評価する。	10%
日常生活のさまざまな場面での会話を想定して、互いに練習する	再会、勧誘、時刻、経験、電話、決まり文句等について、対話形式でロールプレイングを行い、その積極性、正確性を評価する。発音の巧拙はそれほど重要ではない。	50%
試験として、各人10問の日常会話の口頭試問を行う	これまでに学んだ、30問の設問に対する解答を練習し、一人10問の口頭試問を行う。聴解の正確性、回答の妥当性、反応速度、面接態度等を評価する。	30%
評価の方法 上記のように、平常点評価70%、試験（中国語による口頭試問）評価30%である。 欠席・遅刻は事情を考慮の上、減点（1回につき最大5%）する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	「中国語Ⅰ」の復習	中国語での簡単な自己紹介
2	中国語で歌う	中国語の歌詞を題材に学習
3	再会	“了”の用法、動作の方向
4	～が好き	“得”の用法、“不太好”と“太不好”
5	どうですか？	同意、意向や様子を尋ねる、“上”“下”の特殊な用法
6	時刻・時間	時刻、時間、期間の言い方
7	～から～まで	～したことがある（経験）、出身地と住所地
8	電話をかける(1)	一般的な電話会話
9	電話をかける(2)	電話番号の聞き方、言い方
10	決まり文句(1)	対話での決まり文句
11	決まり文句(2)	ひと言決まり文句、外来語
12	口頭試問(1)	問題の解説、回答例練習
13	口頭試問(2)	問題の解説、回答例練習
14	口頭試問(3)	質問、個人指導
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇井上良雄著『中国語のチカラ』東京富士大学

【履修条件等】

◇中国語に興味と関心があり、積極的に授業に参加できる学生。

◇原則として「中国語Ⅰ」を修得した学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の次回学ぶ課を読み、発音しにくい単語、理解できないところをチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

◇座席は指定制です。

ビジネス英語 I	キタダ ケイコ 北田 敬子
Business English Basics I	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネスシーンで実際に使える英語を身につけること—これがこのクラスの目的です。しかし、英語の基礎力がなくては仕事に役立つ英語を使いこなすことはできません。正しく聞き取り、分かりやすく話すこと、そしてシンプルなビジネス文書（メールを含む）を読みこなし、自分でもメモや伝言、メールを書くこと。授業では様々なアクティビティーを通じて声を出し、おおいに読み書きしてもらいます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
挨拶や自己紹介、簡単な製品説明、事業内容説明などを行えるようになる	テキストで基本的な表現を学び、それを再現できるよう練習を重ねる。応用がきくよう工夫も要求する。そういった授業内活動がどの程度行えているかを成績判定の基準にする。	30%
仕事内容についての簡単な質疑応答が行えるようになる	テキストに含まれる練習問題・課題・宿題などの提出物で成果を見ていく。小テストと学期末の試験によって総合成績を判定する。	40%
カジュアルからフォーマルまで、場に相応しい表現を判別できるようになる	定期的に作文の課題を出し、添削を行ったうえで返却する。英文を書く努力を評価する。	20%
ビジネスから派生する多様なトピックにも臨機応変に対応できるようになる	副教材の配布、映像資料の提示によって授業内容に広がりを持たせる予定である。それらへの取り組みも評価対象とする。	10%
評価の方法 授業参加態度30%、提出物30%、試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	導入	授業概要説明
2	Unit 1 (1)	Job Hunting (就職活動) Job Interview (面接)
3	Unit 1 (2)	Job Hunting (就職活動) CV (履歴書)
4	Unit 2 (1)	The First Day of Work (職場での挨拶)
5	Unit 2 (2)	The First Day of Work (名刺作成・職名を学ぶ)
6	Unit 3 (1)	Writing Email (ビジネスメール) 表現方法を学ぶ
7	Unit 3 (2)	Writing Email (ビジネスメール) 構成を学ぶ
8	Unit 4 (1)	Greeting a Visitor (顧客を迎える) 会話を中心に
9	Unit 4 (2)	Greeting a Visitor (顧客を迎える) 異文化の紹介
10	Unit 5 (1)	Explaining a Corporate Profile (会社説明) 概要
11	Unit 5 (2)	Explaining a Corporate Profile (会社説明) 詳細
12	Unit 6 (1)	Deciding on a Date for a Meeting (会議予定日の設定)
13	Unit 6 (2)	Deciding on a Date for a Meeting (会議予定日の設定)
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇ Make It in Business
Cengage Learning
ISBN 978-4-86312-1485-5

【履修条件等】

◇ビジネスを通じて英語を学ぶことに興味を持っていること。英語を通じてビジネスシーンにアプローチすることに興味を持っていること。地道な英語学習を厭わず続けて、在学中に英語の基礎を身につけようというポジティブな姿勢を持っていること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストで出会う語彙、表現をあらかじめ調べ、トピックへの予備知識を持って授業に臨んでほしい。

【その他の注意事項】

◇質問や発言を歓迎する。主体的に授業に参加してほしい。

ビジネス英語 I	シシド カール 宍戸 カール
Business English Basics I	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

グローバル化が進んでいる中、ビジネスの世界では英語は不可欠です。日本の企業であっても、社内会議および他者とコミュニケーションを英語で行うことが多くあります。学生が今からこのような環境になれるように基本的なビジネス英語を学んでいただきます。テキストまたは教師が作成したロールプレイなどを中心に授業を進めていきます。クラスは、楽しい雰囲気の中で学ぶことが基本です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
挨拶や自己紹介の表現を理解し、使えるようにすること	設問に対する回答によって評価。英語での挨拶に臨機応変に対応し、自分のバックグラウンドだけでなく、趣味や夢を英語で説明できること。	30%
相手の仕事内容を尋ねたり、自分の職務の説明ができるようになること	設問に対する回答によって評価。仕事に関連する語彙の習得と表現の練習によって、仕事内容の説明ができること。	30%
約束・請求・謝罪の表現を習得し、使えるようになること	設問に対する回答によって評価。ビジネスにおいて重要な「アポイントのとり方」・「リクエストの仕方」・「謝罪の仕方」などの典型的な表現を習得し、使いこなせるようになること。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として下記のように評価。 出席：30%、授業参加度：30%、筆記試験：40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Introduction, Class Policy	General Introduction of class
2	Unit 1 “You and You Job”	Countries, nationalities, jobs
3	Unit 1 “You and You Job”	Saying hello
4	Unit 1 “You and You Job”	Jobs and computers
5	Unit 2 “Products and Services”	Company types and activities
6	Unit 2 “Products and Services”	Ordering products
7	Unit 2 “Products and Services”	Telemarketing
8	Unit 3 “Location”	Company building and region
9	Unit 3 “Location”	Meeting people
10	Unit 3 “Location”	Office location
11	Unit 4 “Help and Advice”	Equipment
12	Unit 4 “Help and Advice”	Suggestions
13	Unit 4 “Help and Advice”	Buying help and review
14	Final Examination	

【使用教材】

◇ Market Leader Elementary (Financial Times Publishing)

ISBN : 978-1-4082-3705-2

Dictionary

Printouts of activity

【履修条件等】

◇やる気があり、教科書と辞書があり、積極的に会話に参加する意志があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料を熟読し、単語など意味がわからない個所を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

ビジネス英語Ⅱ	キタダ ケイコ 北田 敬子
Business English Basics II	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネスシーンで実際に使える英語を身につけること—これがこのクラスの目的です。しかし、英語の基礎力がなくては仕事に役立つ英語を使いこなすことはできません。正しく聞き取り、分かりやすく話すこと、そしてシンプルなビジネス文書（メールを含む）を読みこなし、自分でもメモや伝言、メールを書くこと。授業では様々なアクティビティーを通じて声を出し、おおいに読み書きしてもらいます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
挨拶や自己紹介、簡単な製品説明、事業内容説明などを行えるようになる	テキストで基本的な表現を学び、それを再現できるよう練習を重ねる。応用がきくよう工夫も要求する。そういった授業内活動がどの程度行えているかを成績判定の基準にする。	30%
仕事内容についての簡単な質疑応答が行えるようになる	テキストに含まれる練習問題・課題・宿題などの提出物で成果を見ていく。小テストと学期末の試験によって成績を判定する。	40%
カジュアルからフォーマルまで、場に相応しい表現を判別できるようになる	定期的に作文の課題を出し、添削を行ったうえで返却する。英文を書く努力を評価する。	20%
ビジネスから派生する多様なトピックにも臨機応変に対応できるようになる	副教材の配布、映像資料の提示によって授業内容に広がりを持たせる予定である。それらへの取り組みも評価対象とする。最終授業2回で行う総まとめの「プレゼンテーション」プロジェクトの成果を評価に含める予定である。	10%
評価の方法 授業参加態度30%、提出物30%、試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Unit 7 (1)	Attending a Meeting (1) (会議に出席する) 発言
2	Unit 7 (2)	Attending a Meeting (2) (会議に出席する) 製品説明
3	Unit 8 (1)	Dealing with Complaints (1) (苦情処理) 苦情メモ
4	Unit 8 (2)	Dealing with Complaints (1) (苦情処理) 対応文書
5	Unit 9 (1)	Getting Ready for an Overseas Business Trip 海外出張準備- 1
6	Unit 9 (2)	Getting Ready for an Overseas Business Trip 海外出張準備- 2
7	Unit 12 (1)	Traveling Abroad for the First Time (1) 海外出張- 1
8	Unit 12 (2)	Traveling Abroad for the First Time (2) 海外出張- 2
9	Unit 11 (1)	Gathering Information for a Presentation (1) プレゼン準備- 1
10	Unit 11 (2)	Gathering Information for a Presentation (2) プレゼン準備- 2
11	Unit 13 (1)	Writing a Presentation Draft (1) プレゼン原稿執筆- 1
12	Unit 13 (2)	Writing a Presentation Draft (2) プレゼン原稿執筆- 2
13	Presentation (1)	Giving a Presentation 1 プレゼン実習- 1
14	Presentation (2)	Giving a Presentation 2 プレゼン実習- 2
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Make It in Business
Cengage Learning
ISBN 978-4-86312-1485-5

【履修条件等】

◇ビジネスを通じて英語を学ぶことに興味を持っていること。英語を通じてビジネスシーンにアプローチすることに興味を持っていること。地道な英語学習を厭わず続けて、在学中に英語の基礎を身につけようというポジティブな姿勢を持っていること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇秋学期はプレゼンの実習を含む。秋学期に掲げた内容に加え、独自のプレゼン用コンテンツを準備し、ファイルを作成する課題が出る。授業外学習・準備・練習なしにはこなせないなので、授業中に提示するガイドラインに沿って準備してほしい。

【その他の注意事項】

◇欠席すると授業についてこれなくなるので注意する。

ビジネス英語Ⅱ	シシド カール 宍戸 カール
Business English Basics II	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

グローバル化が進んでいるなか、ビジネスの世界では英語は不可欠です。日本の企業であっても、社内会議および他者とコミュニケーションを英語で行うことが多くあります。学生が今からこのような環境になれるように基本的なビジネス英語を学んでいただきます。テキストまたは教師が作成したロールプレイなどを中心に授業を進めていきます。クラスは、楽しい雰囲気の中で学ぶことが基本です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
挨拶や自己紹介の表現を理解し、使えるようにすること	設問に対する回答によって評価。英語での挨拶に臨機応変に対応し、自分のバックグラウンドだけでなく、趣味や夢を英語で説明できること。	30%
相手の仕事内容を尋ねたり、自分の職務の説明ができるようになること	設問に対する回答によって評価。仕事に関連する語彙の習得と表現の練習によって、仕事内容の説明ができること	30%
約束・請求・謝罪の表現を習得し、使えるようになること	設問に対する回答によって評価。ビジネスにおいて重要な「アポイントのとり方」・「リクエストの仕方」・「謝罪の仕方」などの典型的な表現を習得し、使いこなせるようになること	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として下記のように評価。 出席：30%、授業参加度：30%、筆記試験：40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Summer Vacation	General Introduction of class
2	Unit 5 “Decision”	E-mail ordering
3	Unit 5 “Decision”	Quick decision
4	Unit 5 “Decision”	Difficult decision
5	Unit 6 “Socializing”	Eat in or take out
6	Unit 6 “Socializing”	Café conversation
7	Unit 6 “Socializing”	Business lunch
8	Unit 7 “Workplace”	Department and responsibilities
9	Unit 7 “Workplace”	Company visits
10	Unit 7 “Workplace”	Perfect workplace
11	Unit 8 “Colleague”	Describing people
12	Unit 8 “Colleague”	Voicemail
13	Unit 8 “Colleague”	Family business
14	Review	Review for Final Examination
15	Final Examination	

【使用教材】

◇ Market Leader Elementary (Financial Times Publishing)

ISBN : 978-4082-3705-2

Dictionary

Printouts of activity

【履修条件等】

◇やる気があり、教科書と辞書があり、積極的に会話に参加する意志があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料を熟読し、単語など意味がわからない個所を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

日本語Ⅱ（留学生科目）	シオタニ ユミコ 塩谷 由美子
Japanese Language II	発展科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面において日本語によるコミュニケーションができる能力を身につけることを目標とする。ビジネス日本語の基本語彙を習得しながら、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の能力を養成する。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現の基本を学習し、場面ごとに待遇表現に慣れるよう練習をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%
評価の方法 授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業計画と評価の説明
2	ビジネス日本語の基礎	社内メール
3	ビジネス日本語の基礎	会議準備
4	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び 1
5	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び 2、お知らせ文書 1
6	ビジネス日本語の基礎	お知らせ文書 2
7	ビジネス日本語の基礎	キャッチコピー
8	ビジネス日本語の基礎	同僚との雑談
9	ビジネス日本語の基礎	値下げ交渉
10	ビジネス日本語の基礎	営業 1
11	ビジネス日本語の基礎	営業 2、売上
12	ビジネス日本語の基礎	売上 2
13	ビジネス日本語の基礎	パッケージ案
14	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集－聴く・読む・話す・書く』ジャパントイムズ

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
- ◇意欲を持って学習に取り組むこと。
- ◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎課小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
- ◇上記の授業計画は受講人数などを勘案して変更することがある。

専 門 科 目

2020年度

経営学部経営学科

東京富士大学

経営学	イシカワ マサル 石川 勝
Business Management	入門科目／通年／4単位

【授業概要】

企業経営においては、まず「経営戦略」を立てて、企業の進むべき方向・目的の大枠を決め、分業と協業の枠組みである「経営組織」を構築します。次に経営戦略を実現するための具体的な経営計画を立案します。さらに組織内のメンバーを好ましい方向に動かしていく活動が必要であり、ヒトに加えてモノ・カネを、最も効率的に調達し使用しつつ利益を上げていく意思決定と実行、そのための「仕組み・プロセスの枠組み」を作り込み、機能させることが不可欠です。経営学では、これら一連の企業活動がどのように行われているかを理解することを目的とします。この講義では、会社とは何かという基本的な問題を理解することから始め、「人事」、「マーケティング」、「生産」、「財務」、さらに「情報」といった経営活動の基本的分野について、その機能と役割を理論とケーススタディを通じた事例の分析に基づいて理解します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
現代の企業の役割とその機能を理解する	毎回授業終了に提出するリアクション・ペーパーと試験によって評価します。	30%
経営学の諸理論を理解する	毎回授業終了時に提出するリアクション・ペーパーと試験によって評価します。	30%
経営組織と経営機能の役割を理解する	毎回授業終了時に提出するリアクション・ペーパーと試験によって評価します。	30%
企業活動の実例から経営上の問題点を理解できるようになる	本講義の最後にケース課題を出し、それに関するレポートを追加的に評価します。	10%
評価の方針 授業の最終評価はリアクション・ペーパー30%、試験・レポート70%の割合で評価します。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	授業の概要、進め方について	15	人的資源管理(1)
2	企業とはなにか？	16	人的資源管理(2)
3	株式会社の仕組み(1)	17	マーケティング(1)
4	株式会社の仕組み(2)	18	マーケティング(2)
5	経営者の機能と責任(1)	19	会計とファイナンス(1)
6	経営者の機能と責任(2)	20	会計とファイナンス(2)
7	経営学の理論（初期の管理論）	21	生産管理
8	経営学の理論（人間関係論）	22	情報管理(1)
9	経営学の理論（バーナード＝サイモン理論）	23	情報管理(2)
10	経営学の理論（コンティンジェンシー理論）	24	環境経営
11	経営戦略論(1)	25	ケース・スタディ(1)
12	経営戦略論(2)	26	ケース・スタディ(2)
13	経営組織論(1)	27	ケース・スタディ(3)
14	経営組織論(2)	28	ケース・スタディ(4)
		29	前・後期のまとめ

【使用教材】

◇井原久光『テキスト経営学―基礎から最新の理論まで』ミネルヴァ書房、2008年

◇その他、随時資料を配布します。

【履修条件等】

◇経営学を基礎からしっかり学びたいと考えている人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次回の授業で取り上げるテーマについてテキストを読んでくこと。

【その他の注意事項】

◇評価は試験やレポートによって厳格に行います。

経営学	エンジョウジ タカヒロ 円城寺 敬浩
Business Management	入門科目／通年／4単位

【授業概要】

経営学にはさまざまな領域があります。例えば、管理論、組織論、戦略論、企業論、会計学や心理学などの領域があります。そのなかでも、管理論、組織論、戦略論、そして企業論は経営学の中核的な領域になります。したがって、これらの領域の基礎を学ぶことによって、経営学の基礎固めをすることができると同時に、経営学とはどのような学問なのか、あるいは経営学を学ぶ意義とは何か、を理解できるようになるでしょう。

経営学は他の学問と比べてまだ歴史は浅いですが、人類のさまざまな課題を克服するうえで重要な役割を果たしていく可能性を大いに秘めている学問です。換言すれば、経営学を学ぶことによって、皆さんが将来活躍する場は無限に広がることでしょう。

本講義は入門科目ですので、経営学をより本格的に学ぶには、上記に挙げた領域の専門科目をさらに履修する必要があります。本講義の使命は、専門科目を学ぶための橋渡しの役割を果たすことにあります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経営学の基礎知識と理論の理解	試験（小テスト等含む）によって、基礎的知識と理論を理解しているかを確認する。	25%
経営学とは何かを理解する	試験（小テスト等含む）によって、基礎的知識と理論を理解しているかを確認する。	25%
経営学を学ぶ意義を理解する	試験（小テスト等含む）によって、基礎的知識と理論を理解しているかを確認する。	25%
経営学の応用可能性を理解する	試験（小テスト等含む）によって、基礎的知識と理論を理解しているかを確認する。	25%
評価の方針 本試験70%と小テスト等（出席点含む）30%で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	春学期ガイダンス	15	秋学期ガイダンス
2	経営学とは何か	16	経営戦略論①
3	管理論①	17	経営戦略論②
4	管理論②	18	経営戦略論③
5	管理論③	19	経営戦略論④
6	管理論④	20	経営戦略論⑤
7	管理論⑤	21	経営戦略論⑥
8	管理論⑥	22	組織論①
9	企業論①	23	組織論②
10	企業論②	24	組織論③
11	企業論③	25	組織論④
12	企業論④	26	組織論⑤
13	企業論⑤	27	組織論⑥
14	総括・達成度の確認	28	まとめ
		29	総括・達成度の確認

【使用教材】

◇参考書：藤田誠著『経営学入門』中央経済社、2015年

風間信隆編著『よくわかるコーポレート・ガバナンス』ミネルヴァ書房
2019年

◇その他は適宜指示。

【履修条件等】

◇授業中の私語やスマホ等の使用は厳禁です。その他、担当教員の指示に従わない者は本試験の受験ができなくなる可能性があるので注意してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇参考書等、講義内容に関する領域を事前に読んでくることをお勧めします。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

経営学	フジモリ ダイスケ 藤森 大祐
Business Management	入門科目／通年／4単位

【授業概要】

初めて学ぶ者にとって、「経営学」というものは何かとつきにくい難しいもののように感じるかもしれない。学問である以上、そこで展開される学術的な議論は難解なものもあることは事実である。しかし、経営学は私たちにとって大変身近なことを学ぶものであり、また実際に役に立つものである。さらに、経営学は経営者のための学問であるだけでなく、広く「働く人」のための学問である。この講義では、経営学というものをなるべくわかりやすく学んでいくとともに、経営学に興味を持つきっかけとなることを第一の目標に据えて進めていく予定である。この講義が、履修する皆さんにとって、その後の経営学のより専門的な分野の扉を、楽しみに開くきっかけとなれば嬉しい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
会社制度の仕組みを理解し、その問題点や課題を考える基礎を養う	試験およびレポートによって評価する。 6割以上を合格とする。	20%
経営戦略やマーケティングの代表的な理論を理解し、現実の企業活動を説明する力を養う	試験およびレポートによって評価する。 6割以上を合格とする。	40%
組織や管理の代表的な理論を理解し、専門科目を学ぶための基礎力を身につける	試験およびレポートによって評価する。 6割以上を合格とする。	40%
評価の方法 試験50%、レポート30%、平常点20%で評価する。 平常点は講義内で書くコメントや質問、授業態度などで評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	15	経営組織①
2	企業の仕組み①	16	経営組織②
3	企業の仕組み②	17	経営組織③
4	企業の仕組み③	18	経営組織④
5	企業の仕組み④	19	モチベーション①
6	経営戦略①	20	モチベーション②
7	経営戦略②	21	モチベーション③
8	経営戦略③	22	モチベーション④
9	経営戦略④	23	リーダーシップ①
10	経営戦略⑤	24	リーダーシップ②
11	マーケティング①	25	リーダーシップ③
12	マーケティング②	26	リーダーシップ④
13	マーケティング③	27	イノベーション①
14	総括・達成度の確認	28	イノベーション②
		29	総括・達成度の確認

【使用教材】

◇教科書：とくに指定しない。随時必要な資料を配布する。また、授業内で参考文献を紹介する。

【履修条件等】

◇経営学を積極的に学ぶ意欲があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回、講義の最後に次回の内容を伝えるので、次週までにその内容についての基礎知識を得ておくこと。

【その他の注意事項】

◇経営学は自ら意欲を持って臨めば、とても刺激的なものである。しかし、それが感じられるまでにはそれなりの努力が必要である。わからないことを乗り越えて、楽しさを感じられるようになることを期待する。

経営学	ヤマグチ ヨシアキ 山口 善昭
Business Management	入門科目／通年／4単位

【授業概要】

経営学といってもその内容はさまざまです。この授業は科目名が示すように、経営学が扱うさまざまな領域の中の主なものを概略的に見ていきます。扱う領域は、それぞれ2年次以降に、半期あるいは通年の授業として設定されています。したがって、この授業では細かい部分は扱わず中心的な部分だけを見ていくことになります。

授業は、講義と質問を交互に行います。経営学のさまざまな理論や学説を中心に講義をしますので、聞いているだけでは理解しにくいところがあるかもしれません。積極的に質問に応え、授業理解の助けにしてください。また、授業中わからないことがあったら、その場で積極的に質問してください。

大学に入って最初の専門科目の授業となりますので、大学における論述試験に慣れてもらうために春学期中間に「中間試験」を行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経営学の基礎的な内容を理解していること	設問に対する回答によって評価。基礎的な用語を理解していること。	20%
経営学の基本的なものの見方を理解していること	設問に対する回答によって評価。授業中の質問に対する回答によって評価。	20%
経営学の代表的な理論を理解していること	設問に対する回答によって評価。代表的な理論を説明できること。	20%
経営学の理論を応用する力を備えていること	設問に対する回答によって評価。授業中の質問に対する回答によって評価。理論をもとに具体的な方法を提案できること。	30%
評価の方法 70%以上の出席を必要条件として、試験95%、授業参加度5% 試験は、2回の定期試験と中間試験の結果とする。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	経営学とは：経営学はいつ始まった	15	企業目的・企業倫理
2	テイラーの科学的管理法	16	組織形態(1)
3	ヴェーバーの官僚制	17	組織形態(2)
4	人間関係論	18	経営管理各論(1)
5	バーナードの組織論	19	経営管理各論(2)
6	サイモンの意思決定論	20	経営管理各論(3)
7	コンティンジェンシー理論	21	経営管理各論(4)
8	中間試験とその解説	22	日本的経営
9	企業論(1)	23	組織的意思決定
10	企業論(2)	24	経営戦略論(1)
11	所有と経営の分離	25	経営戦略論(2)
12	企業結合	26	経営戦略論(3)
13	国際経営論	27	経営戦略論(4)
14	試験および総括	28	組織文化
		29	試験および総括

【使用教材】

◇教科書：大月、高橋、山口著『経営学－理論と体系－』同文館

【履修条件等】

◇積極的に授業に参加できる人。

◇経営学を学ぼうという意志の強い人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の対象範囲を前もって読んでくること。

【その他の注意事項】

◇出席日数が不足すると試験を受けられなくなるので注意してください。

経営学（留学生対象_再履修）	オガワ タツヤ 小川 達也
Business Management	入門科目／通年／4単位

【授業概要】

留学生を対象に企業経営の基礎的理論と実践的知識の理解を深め、現代企業が直面している諸課題についての洞察力を養います。授業はパワーポイントを中心にプリントを併用しながら丁寧に進めます。また、国内外の時事問題や事例研究を通して企業経営の実態を把握し、有用かつ広範な経営理論をわかりやすく解説します。受講生一人ひとりの疑問や質問に向き合い、創造的でインタラクティブな授業を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業で取り上げた専門用語を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの裏面に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。 授業で取り上げた用語の定義や概念をしっかりと把握し、他の用語と混同しないように説明できること。	20%
授業で取り上げた経営学の基礎的理論を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの裏面に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。 授業で取り上げた経営学の基礎的理論の定義や概念、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた企業経営の実践的知識を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの裏面に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。 授業で取り上げた企業経営の実践的知識の概念や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営学の理論と知識を広く理解し、応用して説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの裏面に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。 企業経営の実践的知識を複数把握し、授業で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明できるとともに諸課題をしっかりと論述できること。	20%
評価の方法 授業回数に対して出席回数が3分の2以上の受講生に限り評価します。 成績は受講態度40%、本試験60%を目安に決定します。 授業への積極的な参加姿勢はもちろん、授業終了後に提出するコメントや本試験の内容など、総合的な学習成果に基づいて評価します。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	【重要】ガイダンス（授業概要・評価方法）	15	企業価値創造④ 企業価値創造経営の実践
2	企業の役割と影響① 私たちと企業の関係	16	〃 ⑤ 企業価値創造経営の展開
3	〃 ② 企業間競争	17	国境を越えた経営と異文化世界への対応
4	マネジメントの革新（イノベーション）	18	ビッグビジネスとグローバル経営環境
5	経営管理の体系① 全般管理と部門管理	19	国際経営と多国籍企業の経営
6	〃 ② マネジャーの職位	20	国際経営における3つの戦略
7	〃 ③ 階層型組織	21	輸出販売から海外生産への展開
8	株式会社の機構① 監査役設置会社	22	海外事業の内容と特徴
9	〃 ② 指名委員会等設置会社	23	多国籍企業の生成
10	〃 ③ 監査等委員会設置会社	24	多国籍企業の特性
11	企業価値創造① ステークホルダーと企業	25	多国籍企業の単一国籍性
12	〃 ② 2つの企業価値創造経営	26	国際経営戦略の特徴
13	〃 ③ 企業の4つの価値創造	27	国際経営戦略の進化
14	中間試験（総括・達成度の確認）	28	日本企業のグローバル化の影響
		29	期末試験（総括・達成度の確認）

【使用教材】

◇教科書：今年度は使用しません。

◇参考書：竹田志郎編著『新・国際経営』文真堂、2011年

【履修条件等】

◇この授業は、これから学ぶ経営学関連の科目を理解するのに必要な基礎的知識を養う目的があります。多少難しいと感じても、常に向上心を持って授業に臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語への理解が大切です。しかし、授業時間内にその都度、用語そのものの解説は行いません。そのため、わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、授業に備える必要があります。

◇刻一刻と変化する企業・産業界の動向に関心を持ち、日頃から経済新聞や経済雑誌をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇第1回目の授業は、ガイダンスを行います。この科目の学び方や評価方法、注意事項など重要な内容を説明をしますので、必ず出席してください。

◇授業中に携帯電話やタブレット、パソコン、カメラなどの電子デバイス類を許可なく使用することを禁止します。指示に従わない場合は減点の上、欠席扱いとします。

経済学Ⅰ	シミズ ヨシキ 清水 良樹
Economics I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

経済はわたしたちの生活に密着しています。経済現象は日常生活にあふれていますが、これに疑問をもったことはありませんか？たとえば、商品には必ず価格がついていますが、そもそもこの価格というのは何でしょうか？あなたならどう答えますか？こうした疑問に答えるためには、経済学を学ばなければいけません。

本講義では経済学の基礎理論を学ぶことを通して、わたしたちが生活している社会の仕組み、そして現代の経済問題を分析していきます。経済問題を議論できるエコノミストの視点を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
・経済学の基礎理論の習得 ・現代の経済問題に対する経済学的視点を養う	定期試験の結果と課題等によって成績を評価する。	定期試験70%、課題およびリアクションペーパー等の平常点30%
評価の方法 定期試験70%、課題やリアクションペーパー等の平常点30%により総合的に判断して成績を評価します。ただし、全講義の3分の1以上（5回以上欠席（考慮すべき理由のないもの）した場合、単位取得を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義内容、評価方法についての説明
2	経済主体と経済活動	経済とはなにか
3	消費	所得（給与について）と消費の関係
4	投資	投資の理論と投資対象
5	貯蓄から投資へ	金融リテラシーと日本の個人金融資産
6	資産	暗号資産（ビットコインなど）
7	閉じた経済圏	トークンエコノミー（富山県の Yell を事例に）
8	貨幣	貨幣の成り立ちと貨幣の機能
9	貨幣発行	中央銀行の機能とデジタル通貨
10	マクロ経済政策①	金融政策について
11	財政	政府の役割
12	マクロ経済政策②	財政政策について
13	GDP	生産性の上昇
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：指定しない。

◇参考書：講義のなかで適宜指示する。

【履修条件等】

◇他者に迷惑をかける行為（私語など）は慎むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から経済に関する新聞記事やニュースをチェックすること。

経済学の入門書（例：『マクロ経済学入門』）に目を通しておくと良い。

【その他の注意事項】

◇経済の動向を勘案して授業計画を変更することがある。

経済学Ⅰ	マツダ タカシ 松田 岳
Economics I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

企業経営は経済環境から大きな影響を受けており、社会で生きる私たちにとって経済の知識を身につけることは必要不可欠である。しかし、日々起こっている経済現象は複雑な要因が絡み合っており、そのままでは理解することが難しい。そのため絡み合った「糸」を解きほぐし、できるだけ単純化して理解する必要がある。「経済学」は経済現象を究極まで単純化・抽象化した上で体系化された学問である。抽象的なキーワードは馴染みが薄く、それゆえ敬遠されがちでもある。しかし、その意味は意外にも身近で、シンプルな疑問から解き明かすことができる。本講義では学生諸君が抱きそうな「素朴な疑問」を手掛かりとして、現実の経済問題への関心を高めるとともに、マクロ経済学の基礎の習得を目指す。「今を知る」ことに意欲的な学生の姿勢を求む。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マクロ経済政策の目標について理解できる	マクロ経済政策の目標を説明できるか否かによって評価。正答率によって評語を決定する。	46%
マクロ経済と財政政策の関係を理解できる	マクロ経済と財政政策の関係を説明できるか否かによって評価。正答率によって評語を決定する。	27%
マクロ経済と金融政策の関係を理解できる	マクロ経済と国際経済の関係を説明できるか否かによって評価。正答率によって評語を決定する。	27%
評価の方法 試験点100%（質問等を通じて積極的に授業に参加した場合は加点あり）。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業概要、到達目標、評価基準、評価方法等を確認する。
2	マクロ経済学	目標を理解する
3	経済成長	生活レベルを上げる方法
4	失業率	失業が増えるとなぜ困る
5	インフレ	物価が上昇するとなぜ困る
6	国際収支	赤字国になるとなぜ困る
7	需要と供給	経済学の二つの派閥たち
8	物価と失業	トレードオフの関係
9	財政	政府の収支が赤字な理由
10	財政政策	穴掘れば好景気になる？
11	財政赤字	赤字のツケを払うのは誰？
12	MMT	財政破綻は起こり得ない
13	自由貿易	外国からモノを買う理由
14	総括・達成度の確認	達成度の確認と「経済学Ⅰ」の総括を行う。

【使用教材】

◇教科書：ガイダンス時に指示する。

◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

◇5回以上欠席すると評価対象外になる。

◇同時に「経済学Ⅱ」（松田岳）を履修することを強く推奨する。

◇授業を妨害する行為（私語、携帯電話の使用など）は一切許さない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇コースパワーで配布する資料を授業前に参照し、ノートテイクしておくこと。

【その他の注意事項】

◇コースパワーで配布する資料を授業後に参照し、学修を深めること。

◇新聞やテレビを通じて最近の経済動向に関心を持っていることが望ましい。

◇発言や質問をするなど、積極的に学ぶ姿勢を持っていることが望ましい。

◇質問はコースパワーで受け付けている。

経済学Ⅱ	シミズ ヨシキ 清水 良樹
Economics II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義ではマクロ経済学の基礎理論を学びます。マクロ経済学の問題は、公務員試験等でも出題されます。本講義を履修すれば、公務員試験対策にもなりますので、公務員志望の学生はぜひ履修してください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
・マクロ経済学の基礎理論を習得 ・現代の経済問題に対する経済学的視点を養う	定期試験の結果と課題によって成績を評価する。	定期試験70%、課題やリアクションペーパー等の平常点30%
評価の方法 定期試験70%、課題やリアクションペーパー等の平常点30%により総合的に判断して成績を評価します。ただし、全講義の3分の1以上（5回以上）欠席（考慮すべき理由のないもの）した場合、単位取得を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義内容、評価方法についての説明
2	需要と供給	需給関係の変化と価格への影響
3	グラフの読み方	財の需要、消費関数、限界消費性向、45度線分析
4	価格	商品について考える。価格が付く意外なもの。
5	価格変化に対する感応性	価格弾力性、インフレ・ギャップとデフレ・ギャップ
6	働くということ	賃金の本質と生産性の上昇
7	産業連関	産業連関表の読み方
8	資産市場	貨幣にまつわる話
9	IS－LM 分析	金融政策の効果と財政政策の効果
10	国際収支	国際収支と為替相場
11	IS－LM－BP 分析	国際収支の均衡と経済政策の効果
12	AD－AS 分析	古典派経済学とケインズ経済学
13	インフレーション	名目と実質
14	IAD－IAS 分析	オークンの法則と物価版フィリップス曲線
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：指定しない。

◇参考書：講義のなかで適宜指示する。

【履修条件等】

◇他者に迷惑をかける行為（私語など）は慎むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から経済に関する新聞記事やニュースをチェックすること。経済学の入門書に目を通しておくと良い。

【その他の注意事項】

◇経済の動向を勘案して授業計画を変更することがある。

経済学Ⅱ	マツダ タカシ 松田 岳
Economics II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

企業経営は経済環境から大きな影響を受けており、社会で生きる私たちにとって経済の知識を身につけることは必要不可欠である。しかし、日々起こっている経済現象は複雑な要因が絡み合っており、そのままでは理解することが難しい。そのため絡み合った「糸」を解きほぐし、できるだけ単純化して理解する必要がある。「経済学」は経済現象を究極まで単純化・抽象化した上で体系化された学問である。抽象的なキーワードは馴染みが薄く、それゆえ敬遠されがちでもある。しかし、その意味は意外にも身近で、シンプルな疑問から解き明かすことができる。本講義では学生諸君が抱きそうな「素朴な疑問」を手掛かりとして、現実の経済問題への関心を高めるとともに、ミクロ経済学の基礎の習得を目指す。「今を知る」ことに意欲的な学生の姿勢を求む。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ミクロ経済における市場の働きについて理解できる	ミクロ経済における市場の働きについて説明できるか否かによって評価。正答率によって評語を決定する。	46%
ミクロ経済と政府の介入の関係を理解できる	ミクロ経済と政府の介入の関係について説明できるか否かによって評価。正答率によって評語を決定する。	27%
不完全競争市場について理解できる	不完全競争市場について説明できるか否かによって評価。正答率によって評語を決定する。	27%
評価の方法 試験点100%（質問等を通じて積極的に授業に参加した場合は加点あり）。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業概要、到達目標、評価基準、評価方法等を確認する。
2	ミクロ経済学	目標を理解する
3	分業	商品は一人では作れない
4	市場	誰が価格を決めるのか
5	価格統制	政府は価格を統制できるのか
6	価格弾力性	鈍感か敏感か
7	労働市場	給料は誰が決めるのか
8	資本市場	なぜ利子を払うのか
9	公共財	道路も商品、国防も商品
10	不完全競争	競合は友、顧客は敵
11	ゲーム理論	相互に依存する経済行動
12	負の外部性	誰がコストを負担する？
13	情報の非対称性	「レモン」があふれる
14	貧乏人の経済学	ランダム化比較試験
15	総括・達成度の確認	達成度の確認と「経済学Ⅰ」の総括を行う。

【使用教材】

◇教科書：ガイダンス時に指示する。

◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

◇5回以上欠席すると評価対象外になる。

◇同時に「経済学Ⅰ」（松田岳）を履修することを強く推奨する。

◇授業を妨害する行為（私語、携帯電話の使用など）は一切許さない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇コースパワーで配布する資料を授業前に参照し、ノートテイクしておくこと。

【その他の注意事項】

◇コースパワーで配布する資料を授業後に参照し、学修を深めること。

◇新聞やテレビを通じて最近の経済動向に関心を持っていることが望ましい。

◇発言や質問をするなど、積極的に学ぶ姿勢を持っていることが望ましい。

◇質問はコースパワーで受け付けている。

マーケティングⅠ	ハナオ ユカリ 花尾 由香里
Marketing I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、マーケティングの基本的な理論と戦略について学習する。企業の経営な活動の中で、マーケティングがどのような役割を担っているのかを学んだ後、戦略を立案する際に必要な分析方法や理論を中心に解説する。実在の企業や商品の例を取り上げ、マーケティングを現実的な問題として理解していくことも目的としている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの考え方と専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティングの基本的な考え方とアプローチ方法を理解し、専門用語について意味と内容を答えられること。	25%
マーケティング戦略立案のための環境分析について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略を立案するために必要な環境分析の手法について理解し、答えられること。	20%
マーケティング戦略立案のための市場分析について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略を立案するために必要な市場分析の手法について理解し、答えられること。	20%
マーケティング戦略立案のための競争分析について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略を立案するために必要な競争分析の手法について理解し、答えられること。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	マーケティングとは	授業の内容とマーケティングの考え方
2	マーケティング・コンセプト	コンセプトの変遷、ニーズとウォンツ
3	マーケティングの範囲	事業領域の設定、マーケティング・マイオピア
4	マーケティングのプロセス	4 P 概念、マーケティングの実行プロセス
5	環境分析(1)	企業を取り囲む環境、機会と脅威
6	環境分析(2)	企業の強みと弱み、SWOT分析
7	市場細分化	市場細分化と細分化の切り口、ターゲットの選定
8	ポジショニング	ポジショニングマップによる分析、製品差別化
9	製品ライフサイクル	製品の寿命とライフサイクル、ライフサイクル別戦略
10	ポートフォリオ分析	ポートフォリオ・マトリックス、戦略的事業単位
11	製品・市場マトリックス	アンゾフの製品・市場マトリックスと成長ベクトル
12	競争分析	競争のファイブ・フォース、集中度の分析
13	競争優位戦略	競争の激しさを決める要因、参入障壁と参入阻止戦略
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：なし。

※必要に応じて資料等を配布する。

【履修条件等】

◇私語を慎み周囲に迷惑をかけないこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。

◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

マーケティング I	ヒノ タカオ 日野 隆生
Marketing I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングという用語は、ビジネス社会において、しばしば見聞きするが、多様な意味に用いられ、また、時代とともに概念は進化してきている。

マーケティングは、企業の基本的機能の1つであるが、あらゆる経営体に適応可能であると考えられる。

本科目では、マーケティング論の歴史から現代社会におけるマーケティングとは何か、そしてどのように活用するか、具体的事例とともに学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの基本的用語を理解する	授業内小レポートによって評価する。 講義内容の要約を記述した小レポートによって、マーケティング論の基本的用語の理解度を判定する。	40%
戦略としてのマーケティング論を理解する	レポート提出によって評価する。 テキスト内容の製品戦略、価格戦略、チャネル戦略、プロモーション戦略など、マーケティング戦略についての記述内容によって評価する。	20%
現代におけるマーケティングの意義を理解する	期末試験によって評価する。 マーケティング論の現代における意義について、記述内容によって評価する。	40%
評価の方法 授業内小レポート40%、レポート20%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、マーケティングとは何か
2	マーケティング・コンセプト	マーケティング・コンセプトの変遷
3	基本的戦略	マーケティングの基本的戦略
4	製品戦略①	マーケティング論における製品の概念
5	製品戦略②	製品ミックス戦略、新製品開発
6	価格戦略①	価格決定方法
7	価格戦略②	価格戦略
8	プロモーション戦略①	プロモーションの概念
9	プロモーション戦略②	プロモーションの手段
10	流通チャネル戦略①	流通チャネルの概念と類型
11	流通チャネル戦略②	流通チャネル戦略
12	関係性マーケティング	リレーションシップ・マーケティングとは何か
13	グリーン・マーケティング	グリーン・マーケティングとは何か
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

◇（日野隆生共著）『マーケティング戦略論＜第2版＞』学文社、2019年

【履修条件等】

◇さまざまなメディアによってマーケティングに関するニュースを見つけてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの該当部分を読んでくる。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

マーケティング I	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Marketing I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングの基礎知識から、マーケティングにおけるマネジメントの考え方、マーケティングの実際までを理解する。マーケティングは、商品やサービスの販売を促進する手段として捉えられがちであるが、企業の戦略や非営利組織の活動とも深く関わっている。製品を開発する企業、製品を消費者に届ける流通業、製品を購入し利用する消費者など、様々な視点からマーケティングを学習する。テキストだけでなく、事例なども用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの基本的な用語について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。マーケティングの定義、コンセプトの変遷、マーケティング・ミックス、マーケティングの範囲について答えられること。	25%
市場環境の分析について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。企業を取り巻く環境、環境を分析するための考え方などについて答えられること。	25%
消費者行動とマーケティング戦略について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。消費者を購買に導く、動機づけやそのフレームワーク、個人的な要因について答えられること。	25%
製品戦略とブランドについて理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。製品のとらえ方、製品開発に関わる考え方、ブランドについて答えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業の進め方、マーケティングとは何か
2	マーケティングのコンセプトと基本用語	コンセプトの変遷について
3	マーケティング・ミックス	4 P の概念について
4	マーケティングの範囲	マーケティングの対象について
5	市場環境の分析 (1)	企業のミクロ環境、SWOT 分析について
6	市場環境の分析 (2)	企業のマクロ環境、人口動態環境などについて
7	消費者行動 (1)	消費者の意思決定プロセスについて
8	消費者行動 (2)	意思決定に影響する要因について
9	マーケティング戦略の基礎	市場細分化、ターゲティング、ポジショニングについて
10	製品戦略 (1)	製品のとらえ方について
11	製品戦略 (2)	サービスや組織のマーケティングについて
12	事例研究	製品戦略の事例について
13	製品開発	製品開発と製品ライフサイクルについて
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：『現代マーケティング論』第2版 実教出版

【履修条件等】

◇「広告論Ⅰ」、「広告論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」、「流通論Ⅰ」、「流通論Ⅱ」などの関連科目を受講することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇本やニュースで関連した資料について目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業に集中すること。態度が悪い場合には、退出を命じる場合もある。

マーケティング I	ヤマカワ サトル 山川 悟
Marketing I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングとは、企業と顧客との関係を良好なものとし、商品やサービスが売れ続けていくための基盤をつくる活動です。戦略策定やコンセプト開発、商品開発、販売促進、広告、広報、マーケティングリサーチ、消費者行動分析など、幅広い範囲がここに含まれます。本講義ではその考え方に慣れ親しみ、最新の具体的な事例を示しながら、「マーケティングの仕事は楽しい」と感じてもらえるような実践的な内容を志向します。受動的な知識取得ではなく、自分の頭で考え、自分の言葉で語る訓練を取り入れます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングに関する仕事や概念を理解し、興味・関心を持つようになる	講義中の質疑応答、ワークショップ、小テスト等により評価。 「企業側の視点から、商品やブランド、消費行動を捉えているか、捉えようとしているか」を評価ポイントとする。	25%
マーケティング実務における考え方の方法論に触れ、自ら実践できるようになる	講義中の質疑応答、ワークショップ、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「仮説立案、ターゲティング、コンセプトを、一定のフォーマットに沿って表記できるか」を評価ポイントとする。	25%
商品開発や販売促進、広告等の計画立案の仕組みを理解する	講義中の質疑応答、ワークショップ、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「一定のマーケティング目的を達成するためのプロモーションミックス計画の概要を表記できるか」を評価ポイントとする。	50%
評価の方法 およそ70%以上の出席を条件に評価。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	マーケティングの考え方	身近な商品に込められた戦略とは？
2	マーケティングの仕事とは？	マーケティング関連の職種、業種、仕事内容
3	製造業のマーケティング	商品開発、ブランド政策、4 P
4	流通業のマーケティング	顧客関係、店頭対策、物流、P B
5	ターゲティング	顧客・市場のセグメンテーション方法
6	リサーチと仮説立案	調査手法、調査設計～分析、グラフ表現
7	消費者心理とインサイト	最近の消費者行動、消費者の本音とは？
8	中間試験	1～7回までの学習達成度確認のための試験
9	コンセプトワーク	コンセプトの意義、事例研究
10	販売促進戦略	セールスプロモーションの手法と事例研究
11	広告戦略	広告表現、媒体戦略、事例研究
12	広報戦略	広報、P R 手法と事例研究
13	マーケティングプランニング の技法	企画書作成やマーケティング発想法
14	総括と達成度の確認	授業の総括と学習達成度確認のための試験

【使用教材】

◇教科書：教科書は使用せず、パワーポイント資料を使用（受講者がD Lすること）。

◇参考書：テーマに応じて、参考資料を紹介。

【履修条件等】

◇新製品や広告、メディア、店舗、デザインなどに興味があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくに留学生は、日本の企業名や商品名についての知識を深めておくこと。

◇新聞を読むことやテレビCMなどを見ることも、ひとつの事前学習と考えてほしい。

【その他の注意事項】

◇講義中に議論やアイデア抽出を行うことがあるため、能動的な出席態度が望まれる。

◇「その時間が空いていた」「友達と一緒に履修した」ではなく、きちんとした理由から本講義を選択してもらいたい。

マーケティングⅡ	ハナオ ユカリ 花尾 由香里
Marketing II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、マーケティングを実践するための基本的な戦略と理論について学習する。製品戦略、価格戦略、流通戦略、プロモーション戦略というパートに分け、それぞれの戦略を立案するための基本的な知識を習得するのが狙いである。実在の企業例を取り上げ、マーケティングを現実的な問題として理解していくとともに、新しいマーケティングの理論についてもふれる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティング戦略に関わる専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略のアプローチ方法を理解し、マーケティング戦略に関する用語を答えられること。	20%
マーケティングにおける製品戦略と価格戦略について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略における製品戦略の手法やブランド理論、価格戦略等について理解し、答えられること。	25%
マーケティングにおけるプロモーション戦略と流通戦略について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略におけるプロモーションの種類やアプローチ方法、流通の仕組み、流通戦略の手法等について理解し、答えられること。	25%
マーケティングの最新の動向や理論について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略の最新の動向やソーシャルマーケティング、関係性マーケティングの理論について理解し、答えられること。	15%
評価の方法 70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	マーケティング戦略とは	授業の内容とマーケティング戦略の概要
2	製品の基礎知識	製品の中核便益と付随機能、新製品の捉え方
3	新製品開発戦略	新製品の開発プロセスと事例
4	製品ミックス戦略	製品のアイテムとライン、製品ライン戦略
5	ブランド・マネジメント 1	ブランドの役割、ブランドロイヤルティ
6	ブランド・マネジメント 2	ブランド名の付け方、ブランド拡張戦略
7	価格戦略 1	価格の決定方法、新製品の価格戦略
8	価格戦略 2	価格ミックス、消費者心理を考慮した価格戦略
9	流通の仕組み	流通の仕組みと役割、日本の流通システムの特徴
10	流通チャネル管理	チャネルの選択と管理、パワーコンフリクト
11	プロモーション戦略の基礎	プロモーションの種類、プロモーション・ミックス
12	広告戦略	目的設定と媒体の選択、メディア・ミックス戦略
13	販売促進と P R 活動	販売促進の目的設定と手段、P R 戦略
14	最新のマーケティング事情	社会志向のマーケティング、顧客との関係づくり
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇なし。

※必要に応じて資料等を配布する。

【履修条件等】

◇私語を慎み周囲に迷惑をかけないこと。

◇「マーケティング I」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。

◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

マーケティングⅡ	ヒノ タカオ 日野 隆生
Marketing II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングという用語は、ビジネス社会において、しばしば見聞きするが、多様な意味に用いられ、また、時代とともに概念は進化してきている。

マーケティングは、企業の基本的機能の一つであるが、あらゆる経営体に適応可能であると考えられる。

本科目では、伝統的なマーケティング論をもとに、サービス業を中心としたマーケティングの理論と具体的なケースをとりあげる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの基本的用語を理解する	授業内の小レポートによって評価する。 講義内容の要約を記述した小レポートによって、マーケティング論の基本的用語の理解度を判定する。	40%
サービス・マーケティングの特質を理解する	レポート提出によって評価する。 テキスト内容のケースから、マーケティング戦略についての記述内容によって評価する。	20%
現代におけるマーケティングの意義を理解する	期末試験によって評価する。 マーケティング論の現代における意義について、記述内容によって評価する。	40%
評価の方法 授業内小レポート40%、レポート20%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、マーケティングとは何か
2	サービスの特性	サービスの概念・サービス業とは
3	サービスの構造	サービス・マーケティング論の特性
4	サービスの生産	サービス生産とモノ製品の違いエンカウンターとは何か
5	サービス・エンカウンター	サービス・エンカウンターとは何か
6	サービス・プロフィット・チェーン	従業員満足と顧客満足の関係
7	サービス・ブランド	ロイヤルティとリレーションシップ
8	サービス・ドミナント・ロジック	価値共創のマーケティング
9	スポーツ・マーケティング	スポーツをマーケティング論の視点から考える
10	観光マーケティング	観光をマーケティング論の視点から考える
11	医療マーケティング	医療におけるサービスとマーケティング
12	介護サービス	介護サービスのマーケティング
13	テーマパーク	テーマパークのマーケティング
14	宿泊施設	ホテル、旅館、ゲストハウスのマーケティング
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

◇日野隆生編著『サービス・マーケティング―理論と実践―』五紘舎、2018年

【履修条件等】

◇さまざまなメディアによってマーケティングに関するニュースを見つけてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの該当部分を読んでくる。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

マーケティングⅡ	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Marketing II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングの実際までを理解する。マーケティングは、商品やサービスの販売を促進する手段として捉えられがちであるが、企業の戦略や非営利組織の活動とも深く関わっている。製品を開発する企業、製品を消費者に届ける流通業、製品を購入し利用する消費者など、さまざまな視点からマーケティングを学習する。テキストだけでなく、事例なども用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
価格戦略と流通戦略について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。価格戦略、流通チャネルの構造、流通に関連する組織、チャネルの設計について答えられること。	25%
広告戦略について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。広告の種類、広告目標、媒体戦略、表現戦略について答えられること。	25%
販売促進、PR、人的販売、リレーションシップ・マーケティングについて理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。販売促進の種類、PRの仕組み、人的販売の役割、リレーションシップ・マーケティングに関連するコンセプトについて答えられること。	25%
グローバルマーケティングとインターネット・マーケティングについて、理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。グローバルマーケティングの課題、インターネット・マーケティングの可能性と問題点について答えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業の進め方、価格、流通、販売促進戦略について
2	価格戦略	価格の設定方法について
3	流通チャネル(1)	流通チャネルの構造と関連する組織について
4	流通チャネル(2)	チャネルの設計、小売業と卸売業について
5	事例研究(1)	流通の事例について
6	広告戦略(1)	目標や媒体の選択について
7	広告戦略(2)	広告の表現について
8	販売促進とP R	プロモーションの種類とP R活動について
9	事例研究(1)	広告の事例について
10	人的販売とリレーショマーケティングンシップ	人的販売、リレーションシップ、顧客満足について
11	グローバルマーケティング	グローバル環境とマーケティングミックスについて
12	事例研究(3)	リレーションシップマーケティングについて
13	インターネット・マーケティング(1)	インターネットを用いたマーケティングについて
14	インターネット・マーケティング(2)	インターネットを用いたマーケティングについて
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：『現代マーケティング論』第2版 実教出版

【履修条件等】

◇「広告論Ⅰ」、「広告論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」、「流通論Ⅰ」、「流通論Ⅱ」などの関連科目を受講することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇本やニュースで関連した資料について目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業に集中すること。態度が悪い場合には、退出を命じる場合もある。

マーケティングⅡ	ヤマカワ サトル 山川 悟
Marketing II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

「マーケティングⅠ」の延長として、業種別・商品別・手法別マーケティングを掘り下げる応用編の講義を行います。消費財、生産財、サービス財のみならず、スポーツや技術、観光など、かつてはマーケティングの対象でなかったジャンルや、「顧客参加」「キャラクター」「経験価値」「ソーシャル」「コンテンツ」といった最新のトレンドも含め、具体的なケースから学んでいきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
最新のマーケティングの事例を理解し、興味・関心を持つようになる	講義中の質疑応答、ワークショップ、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げたケースの背景・狙い・戦略を理解したうえで、記述できるか」を評価ポイントとする。	50%
最新のマーケティングで使われる方法論に触れ、自らケースを分析する	講義中の質疑応答、ワークショップ、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げたマーケティングの方法論に基づいて、独自のケースを分析・記述できるか」を評価ポイントとする。	50%
評価の方法 評価の配分：およそ70%以上の出席を条件に評価。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	近年のマーケティングトレンド	授業の進め方、近年の動向説明
2	サービス財のマーケティング	サービス財の特性と4つの対応戦略
3	生産財のマーケティング	法人向け商品のマーケティング・営業支援策
4	顧客参加型マーケティング	顧客を企業プロセスに組み入れる戦略
5	スポーツマーケティング	スポーツ産業、スポーツコンテンツ活用戦略
6	キャラクターマーケティング	独自キャラクターを活用した事例の研究
7	技術のマーケティング	技術を商品として捉えたときの戦略発想
8	中間試験	1～7回までの学習達成度確認のための試験
9	経験価値マーケティング	身体的・精神的・美的な感動のもたらし方
10	ソーシャルマーケティング	社会貢献活動とマーケティング、CSV
11	観光マーケティング	観光目的地を商品とみなした戦略策定
12	パッケージデザインとマーケティング	パッケージの8つの機能と販促効果
13	コンテンツ産業のマーケティング	映画、音楽、ゲーム等…のヒットのさせ方
14	コンテンツ活用のマーケティング	コンテンツの商品開発や広告への応用策
15	総括と達成度の確認	授業の総括と学習達成度確認のための試験

【使用教材】

◇教科書：教科書は使用せず、パワーポイント資料を使用。

◇参考書：テーマに応じて、参考資料を紹介。

【履修条件等】

◇「マーケティングⅠ」を受講していること。あるいはそれと同等の知識ベースを持っていること。

◇新製品や広告、メディア、店舗、デザインなどに興味があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくに留学生は、日本の企業名や商品名についての知識を深めておくこと。

◇新聞を読むことや、テレビCMなどを見ることも、ひとつの事前学習と考えてほしい。

【その他の注意事項】

◇講義中に議論やアイデア抽出を行うことがあるため、能動的な出席態度が望まれる。

◇「その時間が空いていた」「友達と一緒に履修した」ではなく、きちんとした理由から本講義を選択してもらいたい。

経営心理学 I	サトウ エミ 佐藤 恵美
Business Psychology I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

経営心理学は、産業場面における人間の心理や行動を科学的視点から研究する学問である。経営や産業に関連する人間行動は、産業と消費という2つの側面から捉えることが可能である。これは具体的に、“労働”、“職業”、“集団・組織”、“販売・広告”、“購買・消費”の5領域に集約される。「経営心理学 I」では、職業適性と採用、労働を考えるワークモチベーション、集団と組織、組織でのコミュニケーション、仕事の能率と安全の観点から詳しく解説し、経営や産業場面における人間行動を科学的に理解することを目的とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
職業適性と採用	「自分はどのような職業に向いているのか」という職業適性の概念を理解し、自分の能力・パーソナリティから職業適性を考え、企業に必要とされる人材像を理解する。	20%
労働の心理学	働くための動機づけに関する歴史的経緯から、科学的管理法、ホーソン研究、職務満足、プロセス理論を理解し、経営者の人間観と働く人のワークモチベーションを理解する。	30%
組織心理学	集団を形成し、組織に参加していく過程から、形成された組織・集団その内部に作り出す人間関係とコミュニケーション、コンフリクト、意思決定システム、職場ストレスを理解する。	30%
仕事の能率と安全	産業場面における時間研究と動作研究から、心理的な時間感覚を理解し、人間の疲労や認知的エラーによって引き起こされるヒューマンエラーをなくし、作業現場での事故防止を考える。	20%
評価の方法 本試験70%、レポート30%、平常点（授業態度など）10%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、学習の取り組み方、評価方法
2	職業適性と採用(1)	人間の能力とは、知能と職業との関係
3	職業適性と採用(2)	パーソナリティとは、パーソナリティと面接
4	ワークモチベーション	仕事への外発的動機づけと科学的管理法
5	ワークモチベーション	仕事への内発的動機づけと職務満足
6	ワークモチベーション	仕事への達成動機、組織コミットメント
7	組織・集団(1)	職場集団の特性
8	組織・集団(2)	職場の人間関係と対人認知
9	組織・集団(3)	組織におけるコミュニケーション
10	組織・集団(4)	組織におけるコンフリクトと意思決定
11	職場の快適性と疲労(1)	職場ストレスとその対処
12	職場の快適性と疲労(2)	職場環境とハラスメント
13	仕事の能率と安全(1)	時間研究と動作研究
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：山口裕幸・芳賀繁・高橋潔・竹村和久（著）『一経営とワークライフに生かそうー産業・組織心理学』有斐閣アルマ、2012年（「経営心理学Ⅱ」と同様）。

【履修条件等】

◇「経営心理学Ⅱ」も合わせて履修するのが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業ごとに指定する章を毎回、熟読してくること。

【その他の注意事項】

◇教科書は必ず持参すること。レポート等、提出物は必ず提出すること。

経営心理学Ⅰ	ハヤシ 林 ハルコ 治子
Business Psychology I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

経営心理学は、人々が仕事に取り組む際に直面する多様な問題を心理学の立場から実証的に捉え、解決に役立てようとする学問である。グローバル化やIT化の著しい進展は、企業間の競争を一層激化させ、企業や組織を取り巻く内外の環境は大きく変貌しつつある。本授業では、組織の一員として活動する際の問題解決や方針、また管理者として職場や組織運営を効果的に行うヒントを学ぶ。アルバイトやサークル活動での体験や処遇を学びと関連づけ、より深い洞察を行うことで、企業選択や就職面接に活かせる授業展開とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
職業適性への理解と自己実現に向けた適職探し	リアクションペーパーの記述内容から理解度を評価する。 自分の生き方と職業選択をどのように結びつけたらよいか考えることができる。組織や企業が求める人材像を把握できている。	20%
ワークモチベーションの心理メカニズムから高め方までの基本理論の学習	設問への回答により理解度を評価する。 働くことへの様々なモチベーション理論と測定方法を理解していること。ワークモチベーションと職務満足感や認知、能力開発との関連を理解できていること。	30%
職場集団における人間関係とコミュニケーションおよびメンタルヘルスの重要性	リアクションペーパーへの記述内容と設問への回答により評価する。 職場集団や組織へ所属することで生じる集団特性、職場のコミュニケーションの仕組みと円滑化、良好な人間関係構築、メンタルヘルスへの配慮について理解することができる。	30%
作業管理と安全管理への理解	設問への回答により理解度を評価する。 仕事の能率や生産性向上の作業管理の方法を知り、効率的な職務遂行の視点を持てる。労災や事故に関わる人間の特性、その防止策を理解することができる。	20%
評価の方法 期末試験50%、授業終了時のリアクションペーパーや課題レポート30%、平常点（授業参加度など）20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業の進め方、学習への取り組み方、評価方法
2	キャリア発達と職業選択(1)	職業とは何か、職業選択とアイデンティティの発達
3	キャリア発達と職業選択(2)	キャリア発達と自己実現、職業適性と採用選考
4	ワークモチベーション(1)	モチベーションと就労働機
5	ワークモチベーション(2)	モチベーションと職務満足
6	ワークモチベーション(3)	モチベーションと能力開発
7	職場集団のダイナミックス(1)	職場集団の特性、職場のチームワーク
8	職場集団のダイナミックス(2)	職場におけるコミュニケーションの仕組みと円滑化
9	職場集団のダイナミックス(3)	職場における人間関係と葛藤
10	メンタルヘルス(1)	ストレス理論の枠組みとコーピング（対処行動）
11	メンタルヘルス(2)	メンタルヘルス維持増進への国や企業の取り組み
12	作業管理・安全管理(1)	作業研究、生産システム、仕事の継続的改善
13	作業管理・安全管理(2)	ヒューマンエラーの特性、事故の発生と防止
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：岡村一成監修『ゼロから学ぶ経営心理学』学文社

◇参考図書：松田幸弘編著『経営・ビジネス心理学』ナカニシヤ出版

柳澤さおり・田原直美編著『はじめて学ぶ産業・組織心理学』白桃書房

【履修条件等】

◇「経営心理学Ⅱ」も受講することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業で指定された教科書の章をよく読んでおくこと。

◇次週授業で扱うテーマに関連する話題のニュースや新聞記事などに関心をもつこと。

【その他の注意事項】

◇授業中の私語や遅刻については、厳重に注意する。

◇授業終了時には、必ずリアクションペーパーを提出すること。授業内容で疑問に思った点など質問事項も積極的に記入すること。

経営心理学Ⅱ	サトウ エミ 佐藤 恵美
Business Psychology II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

経営心理学は、産業場面における人間の心理や行動を科学的視点から研究する学問である。経営や産業に関連する人間行動は、産業と消費という2つの側面から捉えることが可能である。これは、具体的には、“労働”、“職業”、“集団・組織”、“販売・広告”、“購買・消費”の5領域に集約される。「経営心理学Ⅱ」では、キャリア発達と職業の関係性、組織におけるリーダーシップとチームワーク、企業と消費者、企業における組織デザインと効率性に関する人間工学の観点から解説し、経営や産業場面における人間行動を科学的に理解することを目的とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
キャリア発達と職業	青年期以降の人間の発達とキャリア生活との関連性を理解し、職業的な自我の発達を目指すための職業的発達課題の観点からキャリア・ライフサイクルを理解する。	30%
組織におけるリーダーシップ	組織におけるリーダーシップの歴史と理論を学び、チームワークでの仕事の解決について理解を深め、現代企業における経営者の人間観と管理職側からの人間理解を深める。	30%
企業と消費者	企業側と消費者側の両側面から広告を考え、広告は情報伝達の一部であり、一種のコミュニケーション過程であることを理解する。さらに、消費者の心理や行動を科学的に解明し、購買が起こった背景や原因の心理的側面を理解する。	30%
人間工学	人間工学に基づいたヒトの特性とコンピュータのインターフェースを学び、より良く企業や産業部面で働ける組織デザインを理解する。また、リスクコミュニケーションの観点からマニュアルや警告表示の意義を理解する。	20%
評価の方法 本試験70%、レポート30%、平常点（授業態度など）10%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、学習の取り組み方、評価方法
2	キャリア発達と職業(1)	個人のキャリアと職業的発達理論
3	キャリア発達と職業(2)	組織内キャリア発達とキャリア・アンカー
4	キャリア発達と職業(3)	企業におけるキャリア研修とコンピテンシー
5	組織とリーダーシップ	組織のライフサイクルと管理職
6	組織とリーダーシップ	リーダーシップの歴史的経緯
7	組織とリーダーシップ	リーダーシップからチームワークへ
8	人事評価(1)	人事アセスメントとは
9	人事評価(2)	絶対評価と相対評価、観察者効果
10	企業と消費者(1)	広告戦略とマーケティング
11	企業と消費者(2)	消費者行動における心理過程
12	企業と消費者(3)	商品やサービスの購入行動
13	人間工学(1)	ヒトとコンピュータのインターフェース
14	人間工学(2)	ヒトとコンピュータと組織デザイン
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：山口裕幸・芳賀繁・高橋潔・竹村和久（著）『一経営とワークライフに生かそうー産業・組織心理学』有斐閣アルマ、2012年（「経営心理学Ⅰ」と同様）。

【履修条件等】

◇「経営心理学Ⅰ」も合わせて履修するのが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業ごとに指定する章を毎回、熟読してくること。

【その他の注意事項】

◇教科書は必ず持参すること。レポート等、提出物は必ず提出すること。

経営心理学Ⅱ	ハヤシ 林 ハルコ 治子
Business Psychology II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

経営心理学は、人々が仕事に取り組む際に直面する多様な問題を心理学の立場から実証的に捉え、解決に役立てようとする学問である。

本授業では、「経営心理学Ⅰ」に続く講座として、職場や環境といったハード面にも注目しながら、自分が組織の現場リーダーとして働くときに必要な経営心理学の知識と実践を学ぶ。人を動かす際に必要なものは何か、どうしたら人は動いてくれるのか、グループやペアの参加型ワークも取り入れながら、知識として習得したノウハウを体感し、現場力に結び付けることができるようにする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
人的資源管理に関する仕組みやマネジメントへの理解	設問への回答により理解度を評価する。 組織の中の人の動きをより高い視点から捉えることができる。自分を活かすために、将来学習すべき方法について理解できている。	30%
組織におけるリーダーシップやフォロワーシップの役割と意義、それに伴う行動の理解	設問への回答および参加型ワーク等のリアクションペーパーの記述内容による総合的な評価を行う。 組織におけるリーダーの行動の意味や効果を理解し、目標達成のための行動を考えることができる。 フォロアーシップがリーダーや集団に与える影響を理解できている。	30%
組織と人間の関係を捉える新たなアプローチへの理解	設問への回答により理解度評価する。 国際社会で活躍するために、異文化における心理プロセスの違いや、社会的認知と脳との関係を理解することができる。	20%
消費者行動とマーケティングの基本と心理プロセスの理解	設問への回答およびリアクションペーパーの記述内容にて判断する。 消費者の購買行動のプロセスや特徴を知り、マーケティング戦略を提案することができる。効果的な広告の仕組みを理解できている。	20%
評価の方法 期末試験50%、授業終了時のリアクションペーパーや課題レポート30%、平常点（授業参加度など）20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業の進め方、学習への取り組み方、評価方法
2	人事マネジメント(1)	人事マネジメントの概略と人事評価
3	人事マネジメント(2)	職場におけるハラスメント対応
4	組織コミットメント(1)	組織コミットメントを高める要因
5	組織コミットメント(2)	働き方の多様性とワークライフバランス
6	リーダーシップ(1)	組織におけるリーダーの存在意義
7	リーダーシップ(2)	リーダーシップ理論の動向
8	リーダーシップ(3)	組織変革をもたらすリーダー
9	リーダーシップ(4)	フォロワーシップがリーダーや組織集団に与える影響
10	組織と文化心理学	文化と人間観、文化と信頼、文化とリーダーシップ
11	組織神経科学	社会的認知と脳
12	消費者行動(1)	消費者心理とマーケティング戦略
13	消費者行動(2)	消費者の購買意思決定プロセス
14	消費者行動(3)	消費者の心を動かす広告
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：岡村一成監修『ゼロから学ぶ経営心理学』学文社

◇参考図書：松田幸弘編著『経営・ビジネス心理学』ナカニシヤ出版

柳澤さおり・田原直美編著『はじめて学ぶ産業・組織心理学』白桃書房

【履修条件等】

◇「経営心理学Ⅰ」も受講することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業で指定された教科書の章をよく読んでおくこと。

◇次週授業で扱うテーマに関連する話題のニュースや新聞記事などに関心をもつこと。

【その他の注意事項】

◇授業中の私語や遅刻については、厳重に注意する。

◇授業終了時には、必ずリアクションペーパーを提出すること。授業内容で疑問に思った点など質問事項も積極的に記入すること。

会計学Ⅰ	イシヅカ カズヤ 石塚 一彌
Accounting I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

企業活動に直接関係していない学生にとっては、理論としての会計学が実感としてはなじみの薄い学問となっている。このような会計学が“本来は”受講生に身近な領域であることを本講義を通じて感じてもらうことを最大の目標としたい。春学期は、まず、会計へのイメージづくりを眼目とし、会計の考え方（理論）を中心に、講義を進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的前提に関する知識の修得の有無	会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認する。	30%
税務会計に関する基礎的な知識の修得の確認	会計に関する基礎的な理解の程度について、予行試験の実施により確認する。	30%
税務会計に関する理解の深度の確認	会計の意義、必要性、現状における問題点の程度把握とその解決のため素養を修得しているか否かの確認につき、本試験の実施により確認する。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、出席点30%、試験70%として評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション 1	会計の意義
2	帳簿の記録について	認識、測定、記録の一連の会計プロセス
3	簿記と会計	唇歯輔車の関係にある会計と簿記
4	企業活動の把握	企業活動の 2 つの側面
5	会計の歴史と思考	発生主義と現金主義
6	企業会計の基準 1	一般に公正妥当と認められた企業会計の基準・その 1
7	企業会計の基準 2	一般に公正妥当と認められた企業会計の基準・その 2
8	企業会計の基準 3	一般に公正妥当と認められた企業会計の基準・その 3
9	企業会計の基準 4	一般に公正妥当と認められた企業会計の基準・その 4
10	貸借対照表の検討 1	財政状態の意義の再考
11	貸借対照表の検討 2	事業用資産と金融資産
12	貸借対照表の検討 3	負債と資本
13	損益計算書の再検討	3 つの企業活動を中心として
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇毎回レジュメを配付し、それに従って講義を行う。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「履修の心構え」として、復習中心の勉強が望まれる。

【その他の注意事項】

◇毎回テーマの違うレジュメを受講者本人にのみ配付するので、毎回出席することが重要である。

会計学Ⅰ	ドイツミツル 土井 充
Accounting I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

「会計学Ⅰ」および「会計学Ⅱ」を通じて、経営学科の諸科目を学習するための基礎となる、財務会計および管理会計などに関する入門的な領域を取り上げる。「会計学Ⅰ」では、会計情報の分析手法および財務諸表の作成方法の概要の学習を通じて、財務諸表の種類や現行の会計基準の特徴などを学ぶ。

そのため本講義では、配布プリントを用いながら各テーマを説明し、必要に応じて、適宜ケースを用いながら理解を深めて行く。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基本ルールを正しく理解し、簿記一巡の手続きができること	設問に対する回答によって評価。 取引の仕訳・転記から貸借対照表・損益計算書の作成までのプロセスを理解していること。	20%
財務会計に関する法制度や基準等を理解していること	設問に対する回答によって評価。 会社法や金融商品取引法に基づく会計のはたらきや、制度上開示が求められる書類に関する基本的な用語や様式を理解していること	30%
損益計算・資産評価などわが国の会計基準の特徴を理解していること	設問に対する回答によって評価。 収益費用の認識・測定基準や資産評価基準など日本の現行会計の特徴を理解していること。	30%
財務諸表分析の手法を理解し、目的に応じた分析を行えること	設問に対する回答によって評価。 収益性や安全性など各指標の意味および計算方法、判断基準を理解し、数値の意味を適切に読み取ることができること。	20%
評価の方法 3分の2以上の出席を前提として試験70%、レポートないし小テスト30%で評価する。 レポートないし小テストは、各テーマの理解の確認のため複数回課す。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の概要、成績評価の説明、会計の意味
2	会計の種類	財務会計の位置づけ
3	制度会計	財務会計への法規制、会計基準等、財務会計の機能
4	複式簿記の基本原則(1)	仕訳と転記のルール
5	複式簿記の基本原則(2)	貸借対照表と損益計算書の作成
6	貸借対照表の読み方	貸借対照表の様式、流動比率・自己資本比率など
7	棚卸資産の会計	商品の取得原価、製品の製造原価
8	金融資産の会計	金融資産の種類、取得原価、期末評価
9	有形固定資産の会計	有形固定資産の取得原価、減価償却
10	無形固定資産と繰延資産	無形固定資産の取得原価と償却、繰延資産の種類と資産性
11	損益計算書の読み方	損益計算書ならびに包括利益計算書の様式、資本利益率、売上高利益率、資本回転率など
12	期間損益計算の基本原則(1)	発生主義会計
13	期間損益計算の基本原則(2)	実現主義、費用収益対応の原則
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：必要に応じて演習中に配付します。

【履修条件等】

◇本講義では、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。
予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

会計学Ⅰ	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Accounting I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では、会計学の基礎となる考え方やルールおよびその手法を学習します。春学期では会計学の学問体系を、ゲームを活用したアクティブラーニングを主軸にして学んでもらいます。その中でも、財務会計領域の学習を進めていきます。本講義を通して、財務諸表を読めるようになったり、分析をすることができるようになることの基礎を学んでいただければ幸いです。春学期の講義を通して、会計学に対して興味関心を持って頂けるよう講義していこうと思います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
財務諸表を見てその会社の特徴を大まかに理解できるようになる	設問に対する回答により評価します。 財務諸表の構造を理解することと、財務諸表のなかでお金がどの様に動くかを理解すること。	30%
財務諸表を作成するために必要なルールを理解する	設問に対する回答により評価します。 財務諸表は外部の利害関係者に一般に公開するものなので、共通のルールの下に作成されます。そのルールの理解が必要です。	30%
日本特有の利益計算や資産評価などに関するルールを理解する	設問に対する回答により評価します。 各国で財務諸表を作成するためのルールに異なっています。本講義では日本のルールを理解することで後の講義で各国との違いが分かるようになります。	30%
財務諸表上の数値を使い分析ができる基礎を作る	設問に対する回答により評価します。 財務諸表の分析をするとその企業の特徴などが見えるようになります。基本的に割り算をするとある特徴が見えるので、どの数値を使うとどういう特徴が見えるかを理解することが必要になります。	10%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提に、貢献点10%、課題および小テスト点30%、期末試験60%で評価します。※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。 課題および小テストは、中間試験の形式で実施を予定しております。 貢献点は、経営シミュレーションゲームを行った講義後および、講義のいずれかの段階で講師から依頼されるアンケートにまじめに取り組むことで付与されます。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	会計学全体の概説、本講義の進め方、評価方法などに関する説明
2	経営シミュレーション 1	ゲーム上で生じる金額を自分のルールで記録する
3	経営シミュレーション 2	ゲーム上で生じる金額を複式簿記のルールで記録する
4	財務諸表の読み方基礎編	財務諸表を四分割することで大まかな企業の特徴を捉えることができるようになる
5	財務諸表を作成するためのルール 1	財務諸表を作成するためのさまざまな原則を学習していく
6	財務諸表を作成するためのルール 2	貸借対照表を作成するうえでおおまかなルールを学習する
7	財務諸表を作成するためのルール 3	損益計算書を作成するうえでおおまかなルールを学習する
8	貸借対照表に関する特別なルール 1	棚卸資産・金融資産・有形固定資産・無形固定資産と繰延資産に関して 1
9	貸借対照表に関する特別なルール 2	棚卸資産・金融資産・有形固定資産・無形固定資産と繰延資産に関して 2
10	損益計算書に関する特別なルール 1	収益・費用認識について 1
11	損益計算書に関する特別なルール 2	収益・費用認識について 2
12	財務諸表を分析する 1	財務諸表の分析に関する講義
13	財務諸表を分析する 2	財務諸表の分析を、演習を通して行う
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇毎回の講義でレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、教科書・問題演習用の教材は、必要な場合開講時に指示をします。
- ◇本講義では電卓を使用する場合があるので、適宜ご持参ください。
- ◇本講義では資料は電子媒体での配布を前提としております。紙媒体の資料が必要な場合は講師にご相談ください。

【履修条件等】

- ◇とくにありません。講義の復習を必ず行ってください。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇とくにありません。講義の復習を必ず行ってください。

【その他の注意事項】

- ◇講義中に詳しく説明します。

会計学Ⅰ	ミツザワ ミメ 光澤 美芽
Accounting I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

日頃意識することは少ないが、私たちはさまざまな企業と関わりながら生活をしている。企業は種々の商品や製品およびサービスを私たちに提供してくれる。そして企業は、自身が営む経済活動を「会計」の手続きを通して記録・測定・報告する必要がある。

では、「会計」とはいったいどんなものだろうか。

本講義は、会計学の全般的な知識を習得するため、財務会計、管理会計、財務分析、財務諸表監査等の各分野に関する基礎概念について取り扱う。具体的には、まず会計学の基礎となる複式簿記の基本ルールを学習し、会計の意義や種類、機能、役割をはじめ、会計手続きのルール、財務情報の読み方などについて学習する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
簿記・会計に関する専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。会計の意義、会計の種類、会計に関する基礎的な用語や概念を理解し、会計の役割や機能を説明できること。	40%
複式簿記の基本ルールを正しく理解し、簿記一巡の手続きと財務諸表の関係を理解する	設問に対する回答によって評価。仕訳のルール、損益計算書や貸借対照表の意義および中身を理解し、説明ができること。	20%
会計上のルールである会計基準や、会計手続を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。会計公準や発生主義などの基礎概念、および棚卸資産の期末評価や、固定資産の減価償却、原価計算の方法など、それぞれの具体的な手続きについて、その意義および必要性を理解し説明できること。	40%
評価の方法 確認テスト（小テスト）20%、本試験80%。「出席点」は設定しない。 ただし、全講義回数数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方、成績評価方法など
2	会計の意義と役割(1)	会計とは何か、会計の種類、財務会計のシステム
3	会計の意義と役割(2)	企業会計と法規制、貸借対照表と損益計算書
4	複式簿記の基礎原理と決算	簿記一巡の手続き、簿記上の取引、仕訳のルール
5	決算書の体系	試算表、様々な財務書類
6	発生主義会計と会計処理	引当金、減価償却、費用・収益の見越し・繰延べ
7	連結決算	連結決算とは、連結の範囲、連結財務諸表の作成
8	税務会計(1)	税金の種類、益金と損金、課税所得計算
9	税務会計(2)	消費税、連結納税
10	内部統制	内部統制とは、コーポレートガバナンス、内部監査
11	財務諸表監査	監査制度、会計監査人と独立性、監査報告書
12	国際財務報告基準(1)	IFRS とは、IFRS の特徴
13	国際財務報告基準(2)	IFRS 導入の影響、復習
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

※状況によっては多少前後する場合もある。

【使用教材】

◇教科書：未定

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇本講義は「会計学Ⅰ」と「会計学Ⅱ」を連続して履修することを条件とする。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

会計学Ⅱ	イシヅカ カズヤ 石塚 一彌
Accounting II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

会計学が企業の活動を会計というフィルターを通して、認識、測定、記録および伝達する過程を対象とするものである以上、会計学の研究は、会計数値を基軸として企業活動を検証することにある。

秋学期は、春学期に培った会計の思考が、企業会計の数値の把握と計算にどのようにつながっているのかを検討する。講義では、受講生自らが、実際に問題を解き、計算することで、会計に対する知識を確実なものとすることを目標に置く。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的前提に関する知識の修得の有無	会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認する。	30%
税務会計に関する基礎的な知識の修得の確認	会計に関する基礎的な理解の程度について、予行試験の実施により確認する。	30%
税務会計に関する理解の深度の確認	会計の意義、必要性、現状における問題点の程度把握とその解決のため素養を修得しているか否かの確認につき、本試験の実施により確認する。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、出席点30%、試験70%として評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	計算問題 1	簿記の基本 1（会計用語の確認 1）
2	計算問題 2	簿記の基本 2（会計用語の確認 2）
3	計算問題 3	簿記の基本 3（会計用語の確認 3）
4	計算問題 4	簿記の基本 4（2つの計算の側面について 1）
5	計算問題 5	簿記の基本 5（2つの計算の側面について 2）
6	小括（理解度チェックテスト 1）	簿記一巡のまとめ
7	計算問題 6	簿記の応用 1（総合問題 1）
8	計算問題 7	簿記の応用 2（総合問題 2）
9	計算問題 8	簿記の応用 3（総合問題 3）
10	計算問題 9	簿記の応用 4（総合問題 4）
11	計算問題10	費用配分 1（棚卸資産）
12	計算問題11	費用配分 2（減価償却）
13	計算問題12	引当金
14	計算問題13	発生主義と現金主義の典型問題（経過項目）
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇毎回レジュメを配付し、それに従って講義を行う。

【履修条件等】

◇春学期「会計学Ⅰ」を履修済みか、会計学に対しての基本的な理解があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「履修の心構え」として、復習中心の勉強が望まれる。

【その他の注意事項】

◇毎回テーマの違うレジュメを受講者本人にのみ配付するので、毎回出席することが重要である。

会計学Ⅱ	ドイツミツル 土井 充
Accounting II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

「会計学Ⅰ」および「会計学Ⅱ」を通じて、経営学科の諸科目を学習するための基礎となる、財務会計および管理会計などに関する入門的な領域を取り上げる。「会計学Ⅱ」では、「会計学Ⅰ」に引き続き財務会計の個別テーマならびに管理会計や税務会計などの会計学の諸領域を学ぶ。

そのため本講義では、配布プリントを用いながら各テーマを説明し、必要に応じて、適宜ケースを用いながら理解を深めて行く。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
財務会計の諸テーマに関する基本概念を理解していること	設問に対する回答によって評価。 キャッシュ・フロー計算書や連結財務諸表の作成・分析方法、ならびにその他諸領域（国際会計や中小企業会計、環境会計、監査、公会計など）の基礎概念を理解していること。	30%
管理会計の基本概念を理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上高、変動費、固定費、限界利益の相互関係に基づく損益分岐点分析、および計画、実行、比較検討、改善策というマネジメントサイクルを支える予算管理等を理解していること。	30%
税務会計の基本原則を理解していること	設問に対する回答によって評価。 税務会計の基本用語、ならびに課税所得の計算方法を理解していること。	20%
現行会計の概要を体系的に理解していること	設問に対する回答によって評価。 財務会計・管理会計・税務会計など会計の種類と当該分野における基本原理を理解するとともに、個々の会計の関係性を理解していること。	20%
評価の方法 3分の2以上の出席を前提として試験70%、レポートないし小テスト30%で評価する。 レポートないし小テストは、各テーマの理解の確認のため複数回課す。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義概要、成績評価の説明、「会計Ⅰ」の復習
2	キャッシュ・フロー計算書(1)	キャッシュ・フロー計算書の作成方法
3	キャッシュ・フロー計算書(2)	キャッシュ・フロー計算書の読み方
4	連結財務諸表(1)	連結財務諸表の作成方法
5	連結財務諸表(2)	セグメント情報、連結株主資本等変動計算書
6	国際会計基準(I F R S) (1)	国際的な会計基準の必要性
7	国際会計基準(I F R S) (2)	I F R Sの概要とわが国への影響
8	中小企業の会計	中小指針と中小要領
9	監査	監査の必要性和方法
10	税務会計(1)	税務会計と財務会計
11	税務会計(2)	課税所得計算の仕組み
12	管理会計(1)	管理会計と財務会計
13	管理会計(2)	損益分岐点分析、短期意思決定、原価計算、原価差異
14	その他の諸領域	公会計、環境会計など
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：必要に応じて演習中に配付します。

【履修条件等】

◇本講義では、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。
予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

会計学Ⅱ	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Accounting II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では、会計学の基礎となる考え方やルールおよびその手法を学習します。秋学期は、管理会計領域の学習を中心に進めていきます。管理会計領域の基礎となる製造業における原価計算の手続きを、Excel を通して学び、会計情報を用いた経営管理の基礎を学んでいきます。また、将来的にも役立つ税務会計の基礎にも少し触れます。税務会計は、確定申告や青色申告などでも知っていると得をすることが多いです。秋学期の講義を通して、会計学に対して興味関心を持って頂けるよう講義していこうと思います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
製造業における財務諸表の作り方を理解する	設問に対する回答により評価します。 商業における財務諸表の作り方との違いを構造を理解すること。	30%
原価の構造に関する理解をする	設問に対する回答により評価します。 原価の構造に関する理解と、原価から企業内部で行われている活動を推測できるようになること。	30%
企業内部から生じる情報を使ったマネジメントに関する理解	設問に対する回答により評価します。 例えば予算と実際の原価を比べると経営活動のパフォーマンスが分かるなどを理解する。	20%
税務会計に関する理解	設問に対する回答により評価します。 財務会計と税務会計の費用・収益に対する範囲の違いを理解する。	20%
評価の方法 3分の2以上の出席を前提に、貢献点10%、課題および小テスト点30%、期末試験60%で評価します。※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。 課題および小テストは、テーマごとに行うので2～3回の実施を予定しております。 貢献点は、Excel を用いた演習課題を行った講義後および、講義のいずれかの段階で講師から依頼されるアンケートにまじめに取り組むことで付与されます。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	後期の概説、本講義の進め方、評価方法などに関する説明
2	会計と IT に関して 1	会計と IT の利活用に関する概括と関連技法の学習 1
3	会計と IT に関して 2	会計と IT の利活用に関する概括と関連技法の学習 2
4	標準原価計算 1	原価の分類、原価計算の目的など
5	標準原価計算 2	標準原価と実際原価を比べ、どう活用するか
6	標準原価計算 3	数値情報を可視化する手法を学ぶ
7	標準原価計算 4	原価計算と財務会計の結びつきについて
8	IT を用いたシミュレーション体験	3つのシステムを使って、数値を用いたシミュレーションを自分の手で体験します
9	統計基礎	原価計算の手続きの中で用いられる統計学を通して統計の基礎を確認
10	直接原価計算	直接原価計算の意義など
11	利益計画 1	CVP 分析の基礎とソルバーシミュレーション
12	利益計画 2	プロダクトミックス
13	税務会計	税務会計における報告書を作る
14	前期講義内容まとめ	期末テスト前に前期で学習した内容を総括して復習を行う
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇毎回の講義でレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、教科書・問題演習用の教材は、必要な場合開講時に指示をします。
- ◇本講義では電卓を使用する場合があるので、適宜ご持参ください。
- ◇本講義では資料は電子媒体での配布を前提としております。紙媒体の資料が必要な場合は講師にご相談ください。

【履修条件等】

- ◇とくにありません。講義の復習を必ず行ってください。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇とくにありません。講義の復習を必ず行ってください。

【その他の注意事項】

- ◇講義中に詳しく説明します。

会計学Ⅱ	ミツザワ ミメ 光澤 美芽
Accounting II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

日頃意識することは少ないが、私たちはさまざまな企業と関わりながら生活をしている。企業は種々の商品や製品およびサービスを私たちに提供してくれる。そして企業は、自身が営む経済活動を「会計」の手続きを通して記録・測定・報告する必要がある。

では、「会計」とはいったいどんなものだろうか。

本講義は、「会計学Ⅰ」に引き続き、会計学の全般的な知識を習得するため、財務会計、管理会計、財務分析、財務諸表論の各分野に関する基礎概念について取り扱う。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
簿記・会計に関する専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。会計の意義、会計の種類、会計に関する基礎的な用語や概念を理解し、会計の役割や機能を説明できること。	20%
会計上のルールである会計基準や、会計手続を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。会計公準や発生主義などの基礎概念、および棚卸資産の期末評価や、固定資産の減価償却、原価計算の方法など、それぞれの具体的な手続きについて、その意義および必要性を理解し説明できること。	40%
財務情報の読み方を理解し、利用できるようにする。また管理会計や監査の意義を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。財務情報を用いた分析ができるようにする。また、会計の諸分野（財務会計・管理会計・監査）について基本的な考え方を理解し、説明できること。	40%
評価の方法 確認テスト（小テスト）20%、本試験80%。「出席点」は設定しない。 ただし、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方、成績評価方法、「会計学概論Ⅰ」の復習
2	企業価値(1)	経営目標と管理会計、貨幣価値、DCF法
3	企業価値(2)	事業価値・企業価値・株主価値
4	財務分析(1)	財務分析の目的、財務分析指標、収益性分析
5	財務分析(2)	安全性分析、成長性分析、BSCなど
6	予算管理(1)	PDCAサイクル、予算の作成、予算の体系
7	予算管理(2)	費用の配分、機能別組織と事業部制、配賦基準
8	原価計算(1)	原価計算の意義、費目別計算、部門別計算、製品別計算
9	原価計算(2)	仕掛品とは、全部原価計算と部分原価計算、標準原価計算、個別原価計算と総合原価計算
10	コスト・マネジメント(1)	コストビヘイビア、固定費と変動費、損益分岐点分析
11	コスト・マネジメント(2)	直接原価計算、ABC、ABM
12	組織再編(1)	組織再編の意義、組織再編手法（株式譲渡と事業譲渡）
13	組織再編(2)	組織再編手法（合併と分割、株式交換と株式移転）
14	会計の歴史と展望	簿記から会計へ、伝統的な会計、これからの会計
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

※状況によっては多少前後する場合もある。

【使用教材】

◇教科書：未定。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇本講義は「会計学Ⅰ」と「会計学Ⅱ」を連続して履修することを条件とする。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

入門簿記 I	キタイ フジオ 北井 不二男
Elementary Bookkeeping I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得することを目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習によって進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解すること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を習得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の8要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の意味、手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、6桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、手形取引を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の処理、当座預金と当座借越の処理、約束手形の処理を正しく理解し、仕訳・転記が行えること。	10%
評価の方法 授業中のテスト20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断する。出席点は設定しないが、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方、評価方法、準備物についての説明
2	簿記の基礎概念(1)	簿記の目的、会計期間、資産・負債・資本と貸借対照表
3	簿記の基礎概念(2)	損益の計算、収益・費用と損益計算書
4	簿記の基礎概念確認	財産法と損益法、計算問題演習
5	仕訳と転記(1)	取引の8要素、仕訳、勘定口座記入
6	仕訳と転記(2)	商品取引の記録、出資
7	仕訳と転記確認	演習
8	決算(1)	試算表の種類と作成方法
9	決算(2)	試算表演習、6桁精算表の作成
10	決算(3)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
11	現金	現金の範囲、現金過不足
12	預金	小切手と当座預金、当座借越、その他の預金
13	手形	約束手形、金融手形
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇毎時プリントを配布する。A4サイズのポケットファイルを用意すること。

【履修条件等】

◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。

◇基本的に全講義出席すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇復習を確実に行うこと。

【その他の注意事項】

◇計算専用の電卓を用意すること。

入門簿記 I	ドイツミツル 土井 充
Elementary Bookkeeping I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を習得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の8要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の意味、手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、6桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味、伝票の集計手続きを理解していること。	10%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提として試験70%、レポートないし小テスト30%で評価する。 レポートないし小テストは、各テーマの理解の確認のため、1～2回程度課す。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素（資産・負債・純資産）
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素（収益・費用）、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の8要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
7	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
8	決算(2)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
9	簿記一巡の確認	演習
10	現金(1)	現金の範囲、現金過不足
11	現金(2)	小口現金の処理、現金出納帳・小口現金出納帳の作成
12	当座預金	預金の種類、当座借越
13	伝票	入金伝票、出金伝票、振替伝票、伝票の集計
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。

◇講義の特性上、欠席が多いとついていけないため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇連続性のある内容であるため復習をしっかりと、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

入門簿記 I	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Elementary Bookkeeping I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、今日では必須のビジネススキルの1つとなっている。本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、財務諸表作成までの簿記一巡の手続きの理解から出発し、その後は基本的な商取引に関する会計処理を一通り習熟する事を最たる目的としている。さらに、仕訳を行う過程には、社会人基礎力に求められる批判的思考を育成する手続きが含まれている。仕訳の手続きを、グループワークなどを通して、グループメンバーと協力しながら解を導出する訓練を行う。単に、簿記に関する知識や技能を習得するだけでなく、今後の大学における学習を行う上での必要な学習方法や問題解決能力を育んで頂ければ幸いである。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を習得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の8要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の意味、手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、6桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、帳簿を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、商品有高帳などの帳簿に関する手続きを理解していること。	10%
評価の方法 中間テスト30%、本試験70%にて絶対評価を行う。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素（資産・負債・純資産）
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素（収益・費用）、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の8要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
7	中間テスト	今までの講義内容の確認
8	商品売買取引(1)	仕入・売上、返品取引、掛取引
9	商品売買取引(2)	前払・前受取引、諸係に関する取引
10	商品売買取引(3)	売上原価と商品有高帳
11	現金(1)	現金の範囲、現金過不足
12	現金(2)	小口現金の処理、現金出納帳・小口現金出納帳の作成
13	試算表	試算表の意義、試算表の種類、作成手続き
14	本試験および解説	

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。

◇講義の特性上、欠席が多いとついていけないため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇連続性のある内容であるため復習をしっかりし、宿題などの与えられた課題演習はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

入門簿記 I	ミツザワ ミメ 光澤 美芽
Elementary Bookkeeping I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得することを目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を習得していること	設問に対する回答によって評価。取引の8要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の意味、手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。各種試算表の意味と作成方法、6桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味を理解していること。	10%
評価の方法 中間試験20%、本試験80%、および授業への貢献度を総合的に判断。 「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方、成績評価方法等についての説明
2	簿記の基礎概念(1)	簿記の意義と目的、簿記の前提、貸借対照表の意味と構造、損益計算書の意味と構造
3	簿記の基礎概念(2)	貸借対照表および損益計算書の作成、財産法と損益法
4	取引と仕訳	簿記一巡の手続き、会計の取引、勘定科目と勘定口座、取引の8要素
5	仕訳と転記(1)	要素分解と仕訳、勘定口座と転記
6	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
7	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
8	決算(2)	精算表の種類、6桁精算表の作成
9	決算(3)	帳簿の締切り、決算振替仕訳、繰越試算表
10	現金および現金過不足	現金の範囲、現金過不足勘定と過不足の処理
11	銀行預金等	預金の種類、当座借越とその処理
12	商品売買	分記法と三分法、掛取引、人名勘定
13	総復習	問題演習
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：『レクチャー初級簿記』中央経済社

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。

◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇連続性のある内容であるため復習をしっかりし、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

入門簿記 I	ムラカミ ショウイチ 村上 翔一
Elementary Bookkeeping I	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにすること	設問に対する回答によって評価。 簿記の意義、簿記の種類、簿記に関する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を習得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の8要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の意味、手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、6桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、各種預金の性質を正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味、伝票の集計手続きを理解していること。	10%
評価の方法 中間テスト30%、確認テスト70%で評価する。全講義回数3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件である。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義、会計期間
2	簿記の基礎概念(1)	貸借対照表とその構成要素（資産・負債・純資産）
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素（収益・費用）、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の8要素、仕訳
5	仕訳と転記	勘定口座および転記、仕訳帳、総勘定元帳
6	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
7	決算(2)	6桁精算表の作成
8	決算(3)	帳簿の締切、財務諸表の作成
9	簿記一巡の確認	中間テスト
10	現金(1)	現金の範囲、現金過不足
11	現金(2)	小口現金、現金出納帳・小口現金出納帳の作成
12	預金	預金の種類、小切手、当座借越
13	伝票	3伝票制、仕訳日計表
14	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用しない。毎授業、資料を配布する。

【履修条件等】

◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。

◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義を出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇連続性のある内容であるため復習をしっかりとし、宿題などの与えられた自習課題はこなすこと。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に慎むこと。携帯電話等の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなどの悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意すること。

◇受講の際には電卓（12桁以上）を準備すること。中間テストおよび確認テストの際には、携帯電話、P C、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止する。

入門簿記Ⅱ	キタイ フジオ 北井 不二男
Elementary Bookkeeping II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義では入門簿記Ⅰで学習した内容を基礎とし、さらに進んだ取引の会計処理を扱う。講義は毎時間、テーマを決めて解説を行い、それに沿った問題演習を実施する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
諸取引の処理が適切に行えること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、固定資産、その他の債権債務などに関する取引について、適切な勘定科目ならびに金額によって処理ができる。	50%
株式会社の会計処理を理解していること	設問に対する回答によって評価。 株式の発行や、株式会社に関する税金の処理などについて、適切な勘定科目ならびに金額によって処理ができる。	20%
8桁精算表が作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、8桁精算表を作成することができる。	30%
評価の方法 3分の2以上の出席を前提として、授業中のテスト20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断する。出席点は設定しない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	簿記一巡の復習	前学期（入門簿記Ⅰ）の復習
2	商品売買	返品処理、諸掛、前払金・前受金
3	売上原価の計算(1)	売上原価・売上総利益の計算
4	売上原価の計算(2)	仕入勘定での売上原価の計算
5	商品売買確認	演習
6	クレジット売掛金、受取 商品券、電子債権	クレジット売掛金、受取商品券、電子債権
7	貸倒れ・貸倒引当金	貸倒れの処理、償却債権の取り立て
8	その他の債権・債務	未収入金・未払金、立替金・預り金、仮払金・仮受金、 差入保証金
9	固定資産(1)	固定資産の勘定科目、取得、改良と修繕、減価償却
10	固定資産(2)	固定資産の売却、演習
11	収益と費用	前受収益・前払費用、未収収益・未払費用
12	税金の処理	租税公課、法人税等、消費税
13	株式会社の資本	株式の発行、剰余金の配当
14	8桁精算表の作成	決算整理事項、8桁精算表の作成方法
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テ ストを実施する

【使用教材】

◇毎時間プリントを配布する。A4サイズのポケットファイルを用意すること。

【履修条件等】

◇「入門簿記Ⅰ」の内容を理解していること。復習を徹底的に行うことが求められる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「入門簿記」Ⅰの講義内容（勘定科目の区分、取引の8要素等）を確認しておくこと。

【その他の注意事項】

◇計算専用の電卓を用意すること。

入門簿記Ⅱ	ドイツミツル 土井 充
Elementary Bookkeeping II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、一般にビジネスの言語であるといわれています。本講義は、将来、経済社会で活躍する諸君たちにとって必要不可欠な基礎知識であるビジネス言語としての複式簿記の処理手続きの基礎を、体系的知識として習得することを目的とします。

本講義では、複式・商業簿記の基礎となる個人企業の会計処理を中心とした複式簿記一巡の処理を習得します。なお、講義は毎時間、1. 教科書により複式簿記の処理手続を観察したうえで、2. その確認・理解のために記帳練習を行う、という順序で進めて行きます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産、売買目的有価証券などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
8桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、8桁精算表を作成することができる。	45%
補助簿の作成手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上帳・仕入帳、商品有高帳ならびに手形記入帳など補助簿を作成することができる。	25%
評価の方法 3分の2以上の出席を前提として試験70%、レポートないし小テスト30%で評価する。 課題ないし小テストは、各テーマの理解の確認のため、1～2回程度課す。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買の記帳	三分法による記帳方法
3	商品有高帳	商品有高帳の記帳
4	売上帳・仕入帳	売上帳・仕入帳の記帳方法
5	売掛金・買掛金	売掛金元帳・買掛金元帳
6	貸倒損失と貸倒引当金	貸倒の処理
7	その他の債権債務の記帳	未収金・未払金、前払金・前受金、商品券などの記帳
8	手形取引の記帳	約束手形の記帳、手形記入帳
9	固定資産の記帳	固定資産の取得・売却、減価償却の記帳
10	収益・費用の繰延	収益・費用の繰り延べ処理
11	収益・費用の見越	収益・費用の見越し処理
12	資本金・税金	増資・配当ならびに税金の処理
13	8桁精算表	整理記入欄の記帳方法
14	決算	決算手続の記帳練習
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成されます。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要があります。また、この講義では、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。

◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと

【その他の注意事項】

◇電卓が必要です（12桁。辞書・通信機能なし。音が出るモノも不可）。

入門簿記Ⅱ	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Elementary Bookkeeping II	基礎科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、今日では必須のビジネススキルの1つとなっている。本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、財務諸表作成までの簿記一巡の手続きの理解から出発し、その後は基本的な商取引に関する会計処理を一通り習熟する事を最たる目的としている。さらに、仕訳を行う過程には、社会人基礎力に求められる批判的思考を育成する手続きが含まれている。仕訳の手続きを、グループワークなどを通して、グループメンバーと協力しながら解を導出する訓練を行う。単に、簿記に関する知識や技能を習得するだけでなく、今後の大学における学習を行う上での必要な学習方法や問題解決能力を育てて頂ければ幸いである。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
8桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、8桁精算表を作成することができる。	45%
検定範囲改定に伴う追加された取引に関する理解	設問に対する回答によって評価。 電子記録債権債務などに関する取引を適切に仕訳出来ること。	25%
評価の方法 中間テスト30%、本試験70%にて絶対評価を行う。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買取引の復習	前期学習した商品売買取引の復習
3	債権債務(1)	手形取引・掛取引
4	債権債務(2)	金銭貸借取引・利息の計算
5	債権債務(3)	未収金・未払金・仮払金・仮受金・立替金・預り金
6	固定資産	固定資産の購入から除却・売却まで
7	追加論点	差入保証金、電子記録債権債務、クレジット売掛金
8	中間テスト前の振り返り	中間テストまでの各論を復習
9	中間テスト	
10	資本・税金	資本金、引当金、税金取引
11	決算(1)	決算手続きの一連の流れ、決算整理仕訳 1
12	決算(2)	決算整理仕訳 2
13	決算(3)	精算表の作成、振替処理
14	前期・後期総まとめ	前後期の振り返り
15	復習	講義内容の復習課題ならびにその解説

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成されます。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要があります。また、この講義では、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。

◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

◇電卓が必要です(12桁。辞書・通信機能なし。音が出るモノも不可)。